

天草狂句

鶴田 功 編著

天草方言特有の豊富な語彙を駆使し、通俗的な駄洒落や頓知豊かなユーモア、表意を突く風刺、処世の妙理や訓戒警句など、川柳の箍を緩め、面白可笑しくことば遊びを試みました。

ああ悔し 一点差でも 負けは負け
アーンして 昔やアツアツ 今介護
アーンして 取って喰わせて ツバクラメ
相済まん 意思に反して 生かされて
相済まん 嬬が留守して 茶も出せん
相済まん 歳に免じて 座らせろ
相部屋 イビキに懲りて 逃げ出さす
相部屋 不運ものさり 高軒
青色で 申告したが また赤字
青田から 飯になるまで 水加減
青葉かげ タバコ憩いに ゴザを敷く
青葉かげ ちよつと一服 腰伸ばし
青葉若葉 新入生の 初々し
赤い糸 今じゃ額入り 黒リボン
上ったり 大型店に 客取られ
赤のれん 関所通らにや 戻られん
明るいねえ 家族の視線 孫に向き
明るいねえ ここなら糸も 通しきる
明るいねえ 孫が家族の ど真ん中

あかんべえ 心の内は 見せないワ
あかんべえ 従順な振り してるだけ 熊日 8/10
あかんべえ 誰がその手に 乗るものか 熊日 8/9
秋が来る 祭り男の 血が騒ぐ
秋風と 夫婦喧嘩は 夜は凧ぐ
秋鯖に 一度当たって トラウマに
秋だなア 虫の合唱コンクール
諦めた 雨音聞いて 一寝入り
諦めた 体がついて いききらん
諦めた 禁酒禁煙 税逃れ
諦めた こつから先や 銭の要る
諦めた こりやどう見ても 勝ち目なか
諦めた 初心な何処か 果行えた
諦めた 胸のところか 合わさらん
飽きられて ちゃんと引き際 知つとらす
呆れ果て 聞きしに勝る 頑固爺
悪業は 因果応報 子に報う
悪性打つ アジの釣れ過ぎ 配りまえ
顎ばかり とんと工夫の 跡もなか
顎ばかり 民意の解り そうになか
朝帰り 犬に吠えられ 嬬も吠え
朝顔 清々しさの すぐしぼみ
朝仕事 出勤前に 汗流す
朝仕事 涼しかうちは 捗がいく
朝っ腹 飲酒運転 取り締まり

朝寝して 夜寝るまでは 昼寝する

朝晩の 寺の鐘の音 当てにする

朝昼晩 刺身魚で 食傷気味

浅ましか 友の成功 妬みよる

朝飯は 十分あれば 十分たあ

朝飯を 食わん者にや 銭貸すな

味食らう 鱻ん刺身ば 朝も喰う

味食らう 天領鯖の その美味さ

味気なか 賞味期限な 遠に切れ

味気なか パーティじゃるか ぱっとせん

紫陽花 桜見習え 散り際を

紫陽花 嫁に似たのか 色変わり

明日こそ 酒の力で プロポーズ

味付け 嫁が姑の 跡を継ぐ

足ばやに 台風一過 事もなく

足ばやに 梅雨が明けたと 蝉が鳴く

足湯 水虫菌を 培養し

足湯 若い女と 混浴も

明日は雨 膝の疼きで 直判る

アスナロウ 大器晩成 今九十

焦がんな 日はまだ高つか 暮れはせん

焦がんな 他によか人の おらすはず

焦がんな ぼちぼちせんば 長ごもてん

足を止め 対話路線で 腹探る

足を止め 隣の花壇で 目の保養

汗きやあた さあ飲もうだ 弛止みに

あせくつて 気に入つたのが 無かちゆわす

あせくつて 肉片探す カレールー

あせくんな ボロが出てくる 内緒事

汗滴 ハウスの中は サウナ風呂

汗びつしより すつぽんぽんで 総着替え

畦道を 通せんぼする 曼珠沙華

あた次第 みんなの期待 背負わされ

あた次第 私やいつでも よかですよ

暖かい 陽気が桜 開花させ

あたじゃろう 人事のごつ よく言うわ

あたじゃろう 他人にや言うなて 言うたもね

当たつとる 下二桁の切手だけ

頭下げ 腹の中では 舌を出し

頭やくる 戦争放棄ば 良かことに

頭やくる 人質捕って 強請りよる (ISIS)

新しい道 客足逃げて はってかす

新しい道 獣がここから 入つとる

アチャーツ 収穫前に 猪に

アチャーツ トリプルルツツ きや転だ

アチャーツ ひつつかまつた ネズミ取り

アチャーツ 干した途端に 降りだした

あちゃんなる 空瓶ばかり 場所とつて

あちゃんなる あっちいたとけ こん子猫

暑か 言わぬ積もりが きやあ言うた

暑か 仕様しよん無かたい 夏なつじゃもね
厚あつかまし 人ごん牛ご蒔まで 法ほふ事じする
熱あつ爛かんが 来きるまで待まちてず 冷ひややを飲のみむ
熱あつ爛かんが 五ご臟ざん六ろく腑ふに 染しみ渡わる
熱あつ爛かんで 腹はらの中なかから 温ぬくもろう
熱あつ爛かんに おでんでよかれば かたらんな
厚あつ着ちやくして 寒さむグロ狙くい 瀬せに渡わる
厚あつ着ちやくして 氣き嵐らんの海うみ 朝あさ撮とりに
厚あつ着ちやくして 歳としが骨ほね身に 応おえよる
厚あつ化粧けわ 言いわれたくなか 薄うす毛げ症しょう
暑あつさ堪かえて 家い族ぞく養やううためならば
暑あつさ堪かえて 否いなが応おでも 飯いの種たね
暑あつさ堪かえて 団だん扇せんがいつち 安やすく付つく
暑あつさ堪かえて クーラー付つきは 客きやく間かんだけ
暑あつさ堪かえて 仕し事じ上じやうがりに ごくごくと
暑あつさ堪かえて 大だい深しん紅こう旗き 勝かちち取とるぞ
暑あつさ堪かえて たばこするまで 一ひと仕し事じ
暑あつさ堪かえて ちびちび水みづを 飲のみんでます
暑あつさ堪かえて 旗き振ふりマンの 黒くろい顔かほ
暑あつさ堪かえて やおいきません 米こめ作つくり
暑あつさ堪かえて 吾われが天てん職しやくは 野の良ら仕し事じ
暑あつ過ぎる 入い院いんさせて いっちょこ
アツチツチ お湯ゆがあんまり 多おほ過ぎた
アツチツチ 出ですにいされん 飲のみみも得えん
あつという間かん パンツいっちょが もう炬たき燧ひ

あつという間かん 待まちち遠とほしいね 年ねん金きん日じつ
あつぱれ 小こ兵へいが巨こ漢かん 上じやう手て投なげ
あつぱれ 最さい多た勝しょう利りが 未まだ伸のびる
あつぱれ 最さい年ねん少せうの 記き録ろく保ほ持ち
あつぱれ 我われが身みフアースト 必ひつ勝しょう法ぽう
あつぱれ 和わ製せい横ぎやう綱きやう 名な勝しょう負ふ
当あてが違ちがうた 子こは大学だいがくに 遊あそばせて
当あてが違ちがうた 夢ゆめも希き望ぼうも 排はい除じよされ
当あてならん 薬くすりや毒どくほど 効きき目め無なか
当あてならん 出で世せ払はいで よかろうか
当あてならん 素しよ面めんのときに 口くち説せついてね
当あてならん 内うち緒じよちゆうとに 喋しゃべつとる
当あてならん 見みると聞きくとは えりや違ちがい
当あてにして 釣つつてきてよね 飯いの菜さい
当あてはずれ 仕し込こみ上じやうげたら 出でて失しせた
当あてはずれ とうと酒しよは 出でんじやった
当あてはずれ 鳴なかず飛とばずの 且かつ那な様さま
後あとが良らエ 早はやう真ま打うちち なりなつせ
後あとが良らエ 揺ゆれる吊つりり橋はし お前まへ行いけ ネット句く会かい4月しがつ
後あとが世よ話わ 私わたしがおらんば どうなつと
ああとが無なア 生いきて居いてこそ できる旅たび
後あと忍しのべ 飲のみんだあんなの 自じ己ぎ責せき任にん
後あと退たいり 行いうごつあなか 歯は医い者しよ殿でん
後あと退たいり 高たか所しよ恐おそ怖おそで 目めが回まわる
後あと退たいり ばったり熊くまと 鉢はち合あわせ

後で良か 残り物には 福ばかり
跡取りに 任せてしても ほっとした
後にする エレベーターが ブウていう
あとのまつり 親のしたごつ 子もしよる
あとのまつり 余所の息子に 振り込んだ
あとのまつり 別れてよさに 気付かした
あと僅か 狼狽えんなら のさらんぞ
あと僅か 高い買い物 もう出来ん
あと僅か 残った髪の毛 超貴重
穴キャベツ アオムシどもに 試食させ
あの手この手 詐欺の手口も 巧妙に
あの手この手 商売人の したたかさ
あの世でも 咲いて居ろうか 曼珠沙華
新卸 傷つけんごて 用心しゆ
危ない危ない 核開発で 抑止力
危ない危ない 鈴つけ役は 誰がする
アホらしか 自慢話にや うんざりぞ
アホらしか 惚気話の 聞かるるか
甘え声 あの強面が 骨無しに
甘え声 可愛い女 演じよる
甘え声 頑固爺も 骨抜きに
天草大王 味がこりやまた コケツコウ
天草灘 岩打ち砕く 波飛沫
天草灘 うねる荒波 岩揺する
天草灘 地球の丸み ゆう判る

天草灘 燃える太陽 丸呑みに 潮騒 31
天草灘 椰子の実一つ 打ち寄せる
天草の 感謝の遍路 皆の衆宗
天草の 今日あるは 鈴木様
尼の夢 結婚式は 教会で
甘過ぎる 孫の頼みが 断れん
天の邪鬼 すんなと言えば したくなり
天の邪鬼 飲もうと言えば 酒辞めた
雨上がり 傘置き場じゃが 傘捨て場
雨上がり 背中一杯 しゃぼて打つ
雨上がり 山の稜線 ハイビジョン
雨の音 やれ気兼ねなく 二度寝入り
雨の中 片の付かんば 止められん
雨は嫌 お天道さまが だあい好き
雨は嫌 お礼言いたい 天道さま
雨降って 固まり過ぎた 畑打つ
雨前は せしきやじゃって 構うなな
雨模様 膝が一番 判つとる
雨もよか 朝っぱらから 飲みよらす
雨もよか 想定外の 暇潰し
雨もよか ちつとは部屋の 片付くど
雨もよか 半夏団子蒸して 潤憩い
雨もよし 相合い傘で どうだろか
雨もよし 紫陽花園に 人集り
雨もよし 傘は一つに 身は二つ

雨もよし 仕事忘れて 骨休め
謝れど 謝り足らず 戦後処理
あよっこい たったぎやしこぼ 出し洩り
あらいやだ 好きなる私も 考えた
粗探し^{あらさが} よくも調べた 元の彼
あらたまり 背広着た時や 標準語
あらまあ 抱いた子がもう抱いてきた
あらまあ 箸取りや父ちゃんそっくり
洗わんちゃ そんなま炊いて アラ旨や^{うみ}
ありあわせ 酒の肴は^{さかな} 塩鮭^{さけ}で
ありあわせ 亭主留守なら さささつと
ありあわせ 何でもいいの 一人なら
ありあわせ 夕食支度 サボタージュ
ありがたさ 医者^{いしや}の世話には まだならん
ありがたさ お汁の冷めん 距離の母
ありがたさ オレというたら 振り込ます
ありがたさ 今日も元気で 酒美味い
ありがたさ どこもどがんも なかちゆわす
ありがたさ 人の支えで 踏ん張れる
有難う ゴミに出す前 手を合わす
有難う 添うて貰うて 五十年
ありがとう めつちや無かどが 俺は好き
ありがとう やっぱ長生き せにゃんばい
あります! 躍起^{やつき}になつて アラ探し
ありもしゆう せしきやばつてか こりもしゆう

ありや食うな こりも食うなと ダイエット
アルバム 初恋の人 見付け出す
アルバム 初子ばかりが 何冊も
あれ以来 ずばり震度を 言い当てる
あればある スーパーじゃある なかたなか
あればある チラシは総よ パチンコ屋
あれもこれも 味見するだけ 試食品
あれもこれも 首振つて出る 試着室
あれもこれも ちよつと食うては 食い残し
あれもこれも 塗つたくりよる 試供品
あろばまた 今先別れ また会うた
あろばまた 達者うしとこだ お互いに
慌ただしさ しばし忘れて 座禅組む
慌ただしさ 師を追い越して 走りおる
慌てるな 結果は後で ついてくる
慌てるな 残り物には 福の神
安気なもん 親爺^{おやじ}がおらんば 昼寝^{ひんね}して
安気なもん どこに行こうが 何食おが
案じるより 銭を呉れたが 有り難か
案じるより 団子汁^{だんごじゆ}食たが 増じ^{まし}やつた
案ずるな 爺がついとる 銭もある
案ずるな 怪我で済んで 良かったぞ
案ずるな 留守宅ちゃんと 見張つとく
あんたから 貰うたもんな 名字だけ
いい笑顔 緊張見せん 球児たち ネット句会9月

いい笑顔 煩惱なんの つんぶるて
いい笑顔 横綱二人 やつつけた
言い聞かせ あるて思ふな親と銭
言い過ぎた あれば良かるとに 削除キー
言い過ぎる 口のチャックは 閉めておけ
いいぞいいぞ 座布団の舞う 土俵上
いいぞいいぞ 達磨の用意 当確ぞ
いいぞいいぞ 盛り土を暴く 厚化粧
言いたい放題 あれじゃ長うは 続くみやあ
言いたい放題 俺は市議だぞ 覚えとけ
言いたい放題 権力の座を 鼻に掛け
言いたい放題 批判するだけ 何もせん
いいなあ 代わり代わり 子が介護 熊日
いいなあ 子は総よとも 家建てて 7/25
いいねえ 気儘に暮らし ピンコロリ
いいねえ フェイスブックで 繋がって
言うこと無し サイズデザイン 色もええ
言うこと無し 風呂もご飯も お銚子も
言うておく 親の意見な聞くんぞ
言うてよし 言わぬがよかか きゃーしんめ
言うとも無か 子に聞かされん 恥曝し
言うなぞと 言われたばって きゃー言うた
言うばかり 体がついて いききらん ネット句会12月
言うばかり 誰でもできる して見せる
遺影には 髪も着物も すぐ替えて

家が良か 実感できる 旅が良か
家建てて 男を上げて 嫁貰ろた
いかめしか 仁王立ちして 睨うどる
いかんいかん 赤提灯の 招きよる
いかんいかん 選挙権より 自立しろ
いかんいかん 用心棒を 雇う国
生き生きして 鬼の居ぬ間の 女性会
生き生きして 趣味に没頭 出来る妻
生き写し 似れば似るもん 仕草まで
生き写し 似んでよかとこ 似てくれて
生き過ぎで 生命保険 かたられん
生きちやおる 生かされている どうろころ
生きてこそ 野良で働く 果報者
行き損ね 貰い損ねと 結ばれた
活き作り 鯛の魚と 目の合うた
意気投合 契り結んだ 赤い糸
意気投合 酔いが覚めたら 熱も冷め
活きの良か 腹は無かるとに ばて狂う
活きの良さ 肴鉢から 跳び出けて
意気地無し 内はたがりの 外ぼっそり
行く先ざき 信心よりも お接待
行く先ざき 見ればまた買う バス旅行
行く年来る年 いきなりゴーン 除夜の鐘
行く年来る年 新元号は 平静に
行く年来る年 歳は取らずに いったちよう

行く年来る年 煩惱少し 多すぎる

行く年来る年 やっぱあなただの そばがいい

幾らかな 財布出す振りさすばかり

いけたふう なんちゆう格好 したるかい

潔よき 曾婆あさんに なったてな

遺産分け 不動産より ゲンナマで

石段か ここで拝うで いったちよこう

医者要らず 話題に困る 喜寿祝い

医者要らず よう食て垂れる よう眠る

医者曰く 患者あつての 飯の種

医者曰く たまにや代つて みたいもの

医者曰く 値切られんところが いっち良か

医者通い 眠られんちゆうて 昼寝さす

医者通い お陰で口は 達者かと

異常気象 やっぱ地球の 更年期

異常なし 途端に飯の 味がする

いじらしさ 浪人分を 弁える

いづれまた あの興奮が 覚めぬうち

いづれまた もうイヤですよ 大地震

いそいそと 旅の前夜は 眠られん

忙しさ 盆と正月 一遍に

忙しさ ゆたつと飯も 食とられん

急げ急げ 取り込まんなら 雨の降る ネット句会 8月

急げ急げ 目玉商品 売り切れる

居た居た 肥後もっこすの 生き残り

居た居た ヒマさえあれば パチンコ屋

居た居た 幻の魚 木に登る

居た居た やはり目当ては 美人ママ

行たいちり 戻つても来ん だけ居りろ

胡座 お経が済んだら 正座する

痛さ痛さ 痛さ一時なんてウソ

痛さ痛さ 竹刀片手に 容赦なく ネット句会 4月

痛さ痛さ デッドボールを もろに受け

戴きます 命戴く 感謝して

頂きます タダより高いものはない

頂きます 肉も魚も 吾が命

いたるところ 青山あれど 仕事なし

いたるところ ブルーシートが お気の毒

行たんみゆう 何様美味か ちゆう話し

行たんみゆう 美人のママが 居らすちゆう

一度どま いいじゃないの ダメよ駄目

一度どま 銭の心配 して見ちゃあ

一日が 無事に終わって 茶が美味か

一夜明け 夫婦喧嘩は 嘘のごて

一夜にして 安穩破り 地獄絵図

一夜にして 二重にローン抱えにゃん

いち早く さあ被災地に 恩返し 熊日 8/15

一生懸命 走る子どもを 撮る親父

一緒くた 分けて資源に すれよかて
一心不乱 四五手先読み 指す将棋
一心不乱 玉追い掛けて 弾きよる
一心不乱 テグスの当たり 探りよる
行ったり来たり 思い出せない 捜し物
行ったり来たり 迷うたあげく 元の鞆
いっちょ覚え 朝昼晩に 塩麴
一直線 赤提灯が 招きおる
一直線 北へ延びてる 白い雲
一直線 出世コースに 乗っかって
一直線 妻からママに 宗旨替え
一直線 美人に生まれ 玉の輿
一直線 風呂と食事が 待ってます
いっちょ残し 太つとるけん 痩せ我慢
一服して 汗が引いたら また気張る
一服して 続ける気力 きゃあ失せた
一服して パワー全開 フル稼働
何時迄ん 親にせびろて 思うとる
何時迄ん とつとつともとつとじゃろね
何時迄ん なんかついて いっしょろだ
遺伝子を そっくりコピー 通信簿
井戸端の 話の続き ゴミ置き場
田舎ならでは 鍵も掛けずに 出掛けとる
田舎ならでは 自給自足で 暮らさるる
田舎ならでは パンツいっちょで 夕涼み

田舎ならでは 星空眺め 露天風呂
田舎道 猪に道 譲らにゃん
田舎道 直其処ちゆうが まだじゃるか
田舎道 じゅつくりわりだらけ しゃぼて打つ
田舎道 鉢合わすれば やおいかん
田舎道 道聞こうにも 人気なし
稲荷さん 豊年祈願の 神頼み
犬の餌 またもカラスが 押っ盗った
いぬの鼻 瓦礫の下に 誰か居る
いぬの鼻 頼りにしてる 捜査官 熊日 2/2
胃の霍乱 何じゃかんじゃ 喰クーデータ
猪が 家んぐるりば 去る来よる
猪が 人口よりも 多うなつた
猪に 掘り返されて 道普請
猪に 貰た筈 今年初
威張つさが 娘がダンプ 乗り回す
威張らるる 唯一嬢の 前だけは
いびきより 無呼吸症が 気に掛かる
今が旬 娘盛りに 気が揉むる
いましがた 最終便が 出たげなぞ
いましがた 津波発生 即避難
いまで十分 田舎暮らしが いっちょよか
いまで十分 飢えの苦しみ 絶えてきた
いまで十分 別に買いたいもんもなか
いまで十分 持てば持つほど 持ちたがる

いまで十分 楽して金は 稼げない
いまで十分 老子の教え 「足を知る」
今でしよう 花見シーズン 場所確保
今時の ヤマトナデシコ いばつさが
今になって 過去の過ち 悔やみおる
今になって つくづく思う 親の愛
今になって 泣きごと言うて 何になる
今になって 抜いた白髪が 惜しくなり
今になって 嫁になりての おらずどか
いまは今 あがん馬力は もう出らん
いまは今 時代錯誤も 程がある
いまは今 地位も立場も 入れ替わり
いまは今 昔の苦勞 忘れとる
今風に LEDの 迎え火で
イヤすかん 好かんじゃなかば 人前じゃ
イヤすかん ツインが अच्छ 空いとるて
いやなこつ 来世は二度と 添いません
嫌になる ドローン買って ドロンしゅう
いよいよ五輪 五十インチに きゃあ替えた
いよいよ五輪 世界平和の 輪でつなご ネット句会6月
いよいよ五輪 テロに警戒 せにやならん
いよいよ五輪 日の丸いくつ 揚がりいろ
いらっしやい 嫁御も孫も 初対面
要らんかい 貰うた歳暮は 子に孫に
入れ替わり 流れる水は 腐らない

色褪せた 亡夫の表札 守り神
色褪せた 花の命と 吾が命
色々あつて 子どもはそうよ タネ違い
色々あつて とどのつまりは 元の鞘
色々あつて 結局金が もの言うた
色気づき 茶碗が小に 替わつとる
色白が 七難隠す 化けの皮
色付いて 錦秋愛でる 紅葉狩り ネット句会11月
色付いて 真つ赤なりッ 魔女環奈 (橋本環奈)
色付いて 山は有終の美飾る
色とりどり 日扇貝の 詰め合わせ
イワシ焼く 囲炉裏の暮らし 懐かしか
いんまえて 嬢に内緒の 無うなつた
いんま見とれ あの悔しさは 忘れ得ん
いんま見とれ 捲土重来 期するごつ
いんま見とれ 次期横綱に 手応えが ネット句会10月
大騒動 全員集合 孫8人
ううばんぎやあ 海拔ゼロに 家建てて
ううばんぎやあ 活断層の上げなぞ
植木市 植え先後で 考ゆう
植木市 買うたがどこに 植えようか
植木市 蕾を見たら つい買うた
植木市 もう植え先は なかばつて
植木市 我が家に春が 直ぐそこに
上は上 下見て暮らせ 慎ましゅう

ウエルカム オリピックで お持てなし
ウオーキング 帰ってくるまで 気が気じやか
ウオーキング 日の出を待って 夫婦連れ
ウオーキング 他にすること なかつかい
浮かぬ顔 困る人らと 刺違え
浮かぬ顔 では法廷で 会いましょう
ウグイスの ぐぜり鳴きすりや 興ざむる
ウグイスの ハツカ舐め舐め ホーホケキョ
憂さ晴らし 珠にや釣りに 果行こう
憂さ晴らし 酔いのまわれば 下克上
胡散なか ただの仲じや なかごたる
胡散なか なかなかかな 当たりクジ
胡散なか 逃げ込みじやろう 入院な
ウシの日の 布団敷くとの その早さ
嘘じやもね ナマズ地震に 昼寝して
嘘じやろう 禁煙したと 五度も聞く
嘘じやろう 相続人の いみつとる
嘘じやろう ネズミに会って 逃ぐる猫
嘘じやろう 美人薄命 わしや九十
嘘ばっかり 決して吸わんが 五六回
嘘ばっかり 歳は十二も 若く言う
打ち合うな 喧嘩する気は 更に無か
打ち上げば 外国人も すっちゃいろ
打ち止みゆう 悔やんでみても しよんなか
打ち止みゆう 怪我どんすれば 馬鹿らしか

打ち止みゆう どうせ勝ち目は なかごたる
打ち忘れ 今先聞いて また聞かす
打ち忘れ 今朝の料理は？ もう消化
打ち忘れ 知ってはいるが 名がでらん
打ち忘れ どこに置いたか メモがない
打ち忘れ 取りに戻って 何だっけ
打ち忘れ ビニール傘で 良かったぞ
打ち忘れ 惚れた女房 ついに惚け
団扇より 扇子のほうが センスある
打つ杭を 食い入るように 見る家主
美しく 老いる秘訣の ありうかい
うっかり 子どもの知識 侮れん
うっかり 妻にシッポ 捕まれた
うっ壊えて まあだローンは 残つとる
うっすらと 戦後の記憶 蘇る
うっすらと 残り少ない髪貴重
うったって テレビ取材に 来らすとて
うったって どれ行きなすか いそいそと ネット句会2月
打って付け 愛嬌よしが 受付に
打って付け 打っ付け大工 こそくり
打って付け 声のふとさで 幹事長
打って付け 出しゃばり過ぎて 弾避けに
うっ接げて 飯粒でひつつくりいろ
腕が違う コツをつかんで 捌けらす
腕が違う 知恵と知識と 要領と

腕が違ふ 篤と仕上げを ご覧じろ
腕まくり 捻り鉢巻 いらっしやい
腕まくり さあいつちよう 仕掛るか
打とうにも 杭は出過ぎりや 打ちきらん
鰻重を 穴の空くほど見てアナゴ
鵜の目鷹の目 相手候補の 粗探し
鵜の目鷹の目 妬み嫉みの 目が怖い
鵜の目鷹の目 掘り出し物は 無かるうか
鵜の目鷹の目 有名人の スキャンダル
鵜の目鷹の目 わずかのミスも 見逃さん
乳母車 車社会の 初体験
乳母車 乗せた子が押す 車椅子
旨いさんま お隣さんも 焼きよらす
旨いさんま 猫に残さず 腸も食う
生まれて初めて 家ごとがぶり倒された
生まれて初めて 妻が真つ先 跳び出とる
海開き 河童もこつち はち来んか
海開き どうぞ河童も いらっしやい
海開き 隣り合わせに 潜む危機
梅の花 道真公の 稼ぎ時
怨むより 恩を忘るな 人の道
熟るる程 穂首が傾く 黄金糰
熟るる前 ヒヨが金柑 突っ抉じる
嬉しかね 居るだけでいい なんちゃって
嬉しかね 搗いた餅より 心持ち

熟れたるか スイカは既に 鳥が食い
売れに売れ 何時まで景気 続くりろ
うろ覚え はつきりした事あ 嬢に聞け
狼狽えて 熱か味噌汁 ひん飲んだ
狼狽えて 飯は噛み噛み 出て来らす 潮騒 31
狼狽えて 最終便に 間に合わん
狼狽えて さっさ搗かんば カサコック
噂では 尾ビレがついて 泳ぎよる
上ん空 耳は時々 休まする
うんざり 上がりなつせちや もう言わん
産んだ子が 育てられんじや 胸え来ん
運の良か 三途の川で 引っ返し
運の良か 初心者ばって 鯛釣った
運の良さ 高額ジャンボに 当たらした
永眠か あがん寝たとに まだ寝とる
ええご身分 朝寝朝酒 嬢は留守
ええご身分 帰ってみれば もう寝とる 熊日 11/29
ええ手際 いつ嫁つても よかごたる
ええ手際 器用貧乏 人助け
ええ身分 子は宛ごうて 飲み会に
笑顔 ことばに勝る 心地よさ ネット句会11月
笑顔 黙っていても 気が和む
駅伝の タスキトレン取れんで 繰り上げに (train)
えげつなか きつい仕事は 他人にさせ
えげつなか 部下の手柄は 吾が手柄

エコライフ 電気消したりや 子が増えた
エコロジー 湯たんぽ代わり 猫と寝る
絵空事 済まされんとか 稼ぎ面
えずらしか まぶた青々 お岩さん
えずらしか 釣れば釣るる 配らにゃん
得手勝手 吾が良か面 つくる気か
恵比寿顔 心残りは 何もなか
恵比寿さん 埃被って 苦笑い
えらい勢い 海外店舗 増やさした
えらい勢い 出世街道 つつ走り
えらい勢い 飛ぶ鳥落とす AKB
えらい勢い しよる間が 花だった
選り分けて 銭にならんと 自家消費
選り分けて 服喪見舞いの 多かばい
LED 丈夫で長持ち はげ頭
LED イルミネーション 大流行
エレベーター 片足挙げりや ブーが止む
エレベーター 最後に乗れば ブウという
エレベーター 最後乗つとば 躊躇わす
縁側で 耳垢堀じくり 膝枕
炎天下 脳うっだすぞ 憩わにゃあ
炎天下 ものともしない 球児たち
縁の無か 年の差なんの 言うとれん
エンブレム 外野席まで 騒ぎ出し
エンブレム フリーハンドで 描くたい

エンブレム 水戸黄門が 呆れとる
遠方から お歳暮だけで 繋がって
遠方から 同窓会も 最後かも
閻魔の眼 心の奥を 見透かして
延命で 意識なかとに 愚うらしか
遠慮なし お礼はちゃんと 倍返し
遠慮なし すたためて飲うで 帰らした
遠慮なし 付度する気 更になか
遠慮なし 出戻りが幅 きかせとる
遠慮なし 不動産より 銭がよか
おいおいと 言うなぞ老いが 近うなる
美味しいもの 食わせて相手 油断させ
美味しいもの 孫の土産に 持ち帰る
おいそれと ちいて行くなら 大事ぞ
老いたっちゃ ときめきたかとよルージュ引く
老いの一徹 子に従うた まだ早か
老いらくの恋 チョンガー同士 よかるもん
老いらくの恋 手鏡覗く 長寿会
オーイお茶 手為い飲まんば 持つて来ん
大売り出し お一人様で ありうかい
大売り出し 粗品貰えば 用は無し
大売り出し 倒産じゃるか 改装か
大売り出し 特価品だけしか買わん
多かねエ 明るいニュース なかつかい
多かねエ 猪ばかり 肥膨れ

多かねエ 案山子賑わう 過疎の村
多かねエ ジャンボタニシに 稲遣られ
多かねエ 振り込め詐欺の 新手中
大きいなあ 世界相手の ビジネスに
大きいなあ ちびっ子力士 総掛かり
大きいなあ 次に目指すは 世界一
大きいなあ 法螺と風呂敷 張りあわす
大きいなあ 目指す舞台は カーネギー
大食いなあ 口に旨かた 腹にや毒
大声で 応援団が 加勢さす
大声で 内緒話は できん人
大声で 間違うたっちゃ 気にもせん
大声で 見舞客には 困り果て
大地震 一夜明けたら 地獄絵図
大地震 火災に遭わず よかったぞ
大地震 熊本城も ひっちゃくわちや
大地震 自身で避難 自信ない ネット句会6月
大地震 這い蹲うて なまんだぶ
大地震 避難袋どころじゃなか
大地震 避難袋を さでださん
大地震 入浴中も 待った無し
多すぎる 足らんともまた 困る雨
大相撲 これでホントに 国技かい
大掃除 どっからすつとう 居間でしよう
大助かり 器用貧乏 人室

大違い 聞いて極楽 見て地獄
横着な わーが領土に しなしよる
おお冷てえ 節電便座に 跳びあがる
横道さが 他人は構わず 吾道
仰うなけば どしこでん入る 上戸口
大広間 這うて座って 寝そべって
オール電化 こつで世話無し 嬪殿下
お返しは 頑張る姿 見てもらお
お陰様 人は一人じゃ 生きられん
おかしい 補助金くれて 青田刈り
おかしい 記憶にないと言えば済む
おかしい 減反させて 輸入する
おかしいよ 今聞いとつて また聞かす
おかしいよ 忖度なのか 決め付けか
おかしいよ そんな話があるもんか
おかしいかぞ 二重じゃダメなんでしょうか
おかしいかぞ 灯りも点かん 戸も開かん
おかしいかぞ 新聞受けの 溜まつとる
おかしいかぞ 若作りして 出掛けらす
おかしいかね 神を信じて テロリズム
おかしいかね 聞いて貰うた だけじゃって
可笑しかね 君麻呂だけは 本音言う
おかしいかね どこせせても 良うならん
拝みたい 今年富士の ご来光
拝みたい 下げた曾孫の 晴れ姿

拝みたい わが家さておき ボランティア

拝む 先に迎えが 来ますようネット句会5月人

拝む 無病息災 惚け封じ

起きなさい 起きろちゅうとに コラ起きろ

沖繩が キチか凶か 神頼み

沖繩が 東北よりも 寒そうで

置きみやげ ぽんと大金 寄付さした

お客人 子どもやあつち よし退けぞ

お客人 何ばご馳走したもねろ

置き忘れ 雨が止んだら 用事や無か

怠るな 生前贈与に 子の躰

怒ってます 数の力で 押し切られ

怒ってます また税金の 無駄遣い

お断り 十八歳は 選挙だけ ネット句会8月七

お下がりか 次男三男 俺や嫌だ

お下がりは 案山子になつと きやあ着しゆう

お先に お休みなさい 安らかに

お騒がせ 勝ちに拘る 役相撲

お騒がせ メトロのドアの ベビーカー

お騒がせ 吾あがでなおしこうどつた

お幸せ 面見ただけで じきわかる

お幸せ プラチナ婚で 医者要らず

お幸せ 病まず長生き ピンコロリ

惜しいこつ 白髪抜き過ぎ 禿なつた

押し切った 烏合の衆の 多数決

怖じ気づき 検診せんで うちよこ

惜しげなく ぽんと大金 寄付さした

お四国の 巡礼地から 砂貫い

押し黙り 妻と向つて 飯を喰う

押し並べて 作況指数 去年並

お喋りが 口に付けたか 万歩計

お喋りが メインディッシュの 同期会

教ゆるは 学ぶの半ば 遠回り

おぜえこつ 仮設住宅 不自由かる

おぜえこつ 豪邸じゃつて 赤紙が

おぜえこつ スタップ細胞 見つからん

遅くとも せんよりはまし 親孝行

遅くない 苦い経験 バネにする ネット句会4月

遅くない もう一花咲かせましょう

遅すぎる 離婚したのに 子ができた

遅すぎる 三歳過ぎて 子の躰

煽つんな 調子に乗つて 歌止めん

穏やかな 母の笑顔で 頑張れる

落ち込むな それがどうした 奮起せろ

お茶席の 作法知らんば 笑わるる

おちよくつて 声掛けたつちや 知らん振り

お猪口から グラスに替えて 宵の月

おつきあい 菓飲み飲み 三次会

オットット あわや倒産 駄目夫

オットット イギリスだけじゃ済まんどうで

オットット 角石だけで 持ち堪え

オットット そこは親爺に とつとつと

オットット 亭主は留守で 言うたもね

オットット ナマズの上じゃ 建てられん ネット句会 6月

オットット 橋の段差で 舌嚙うだ

夫の留守 朝寝朝風呂 リフレッシュ

夫の留守 出前頼んで いっちよかす

お手のもの 活き作りなら 任せとけ

お手柔らかに 厚化粧して 果たし合い

お手柔らかに 武士の情けは 通じらん

お天気は 膝が雨だと 教えよる

戯けとる 火男踊り 撮つとつと

男しにや 産みの辛さは 解らんど

男じやろ 我慢しきらん 筈が無か

男とは 度胸ばかりじゃ 渡られん ネット句会 2月

男は好かん 強がり言うて まだ独り ネット句会 7月

お年玉 数は減ったが 額が増え

お年玉 孫のガマグチ あぐつちやく ネット句会 1月

おとなしい 貫うた覚えは 更に無か

おとなしい 一緒におって 気付かない

おとなしい 聞こし召せば 大トラに

おとなしい 今日と奥方 ご同伴

おとなしい 眠った妻に 蹴り出され

おとなしい 飲まんでおれば 仏様

おとなしい 秘めた闘志は 見透かせん

おとなしい 遣られたらうば 遣り返せ

大人つき 子どんがときゃ 忠実かつた

大人つき 飲まんば喋り きらっさん

大人つき ひとりゲームに はまつとる

お隣の ウナギの匂い だけで飲む

お隣は 蒲焼きうちは臭いだけ

お友だち 付度なのか 損得か

お友だち なあなあがNO 言い難い

お友だち 優遇しちゃう 政治力

躍り食い 活きてピチピチ 胃で跳ねる

驚きました 引きの強さに 力づく

驚きました 孫が留学 するて言う

おとろしか もうM⁷だけは のさんばい

鬼火焼き 悪霊払うて カッポ酒

お花見の ブルーシートで 占拠権

お雛さま 片付け忘れ まだ独身

重かるで 今月腹は しゃっしやつて

お袋の 口癖真似て 腹八分

お袋も 妻も嫁じよも 母の日か

お遍路の 行く先々で おもてなし

お遍路の 心身清め 般若湯

覚え書き そがんと書いた 覚え無か

覚え無か そがんと約束 したつどか

覚え無か 昔のこたあ 婆ばあに聞け

おぼつかねえ かじられた脛すねで 支さえにゃん

お祭り 踊まってハイヨ 見てハイヨ

お土産みやげに 買った積つもりが きゃあ飲のうだ

お土産の 大吟醸だいぎんじょうは 話わしだけ

お迎えよ 聞きこえん時ときや お迎えよ

おめくなど 人差ひとさし指ゆびで 口塞くちばぐ

おめでとう 今年ことしの干支えとは 何年なんどししよ

思い思いに コスプレ衣装 化けの皮

思い思いに 似合にあうた鍋なべに 合あうた蓋ふた

思い出さん どなたですかちや 言いふやされず

思い出す お蚕お蚕さんは お座敷ざしきに

思い出す 小父おぢいの出兵しゅへい 旗振はたけって

思い出す 好きすきちや言いえず 純まじやった

思い出す 竹槍たけやり構かまえ エイツヤー

思い出す 防空壕ぼうくわうで ナマンダブ

おもしろい あれこれそれで 通とじ合あう

おもしろい 口説くちやくき名人めいじん たる所以ゆえん

おもしろい 探たんす眼鏡めがねは 眉まゆの上

おもしろい 四月しがつバカです 笑わらうウソ

おもしろい 立ち読たちよみみが 腰据こしえらした

おもしろい テレビ消けされて 目めの覚おぼめた

おもしろい どっちが先まか 鶏とり、卵たまご

おもしろい 膝ひざがどうして 笑わらうのよ

おもしろい 惚おぼれた女房にようばうに 惚おぼけ封ふうじ

おもしろい 悪口あくぐちだけは 聞きこえとる

面白くない 初陣はつじん飾かざる ど素人どそと

面白くない 貸かした元手もとで 儲もうけだし ネット句会ネットくわい1月

面白くない 昨日けふの友ともが 今日けふの敵てき

面白半分面白半分 口くちの過あやぎれば 罪つみ作り

思おもたごと はつきり言うて 嫌きらわるる

お持もてなし 裏うらが無なければ よかがねえ

お持もてなし 裏うらも無なかどが いっちよか

お持もてなし 感謝かんしゃ感謝かんしゃの 巡めぐ礼れい地ち

お持もてなし 亭主ていしゅ八杯はちばい 客きやく二杯にばい

徐おもむろに 腰こしをもちやげて 後ごの先せんで (双葉山)

おやおや 自分おれのことは お忘れか

親子おやこ連れ 似にれば似にるモン 好きすき嫌いきら

親爺おやぢ居いる? 妻つまが即答いっさくたふ 要いりマセン (no thank you)

親爺おやぢギヤグ 本人ほんじん自慢じまん 側はた我慢まん

親爺おやぢ留守くわい 躰へそくり繰くりり出して 数かずえらす

おやすくない 相合あひあい傘かさの 小こさすぎ

おやすくない 二人ふたりでケーキ 半分はんぶんこ

親おやとなり 子こを持もって知る 親おやの恩おん

親おやの真似まね 見みよう見真まね似にで 作つくりよる

親離おやぢれ 運動うんどう会かいにや 来きんちやよか

親米おやぢ寿じゆ 還曆かんれきの子こに お小遣おこづかい

親おや譲じやうり 他所たつとの息子いきこば 見みてみさい

親おや看かん取る 子こに看かん取とられて 順送じゆんそうり

お湯割りの 芋いもの臭いに ホットする
お呼びじゃか せからしかつが 混ぜくつて
居いらっさん 足腰あしこ鍛きたえて 良し悪し
折お込こチラシ 嬢ぢやうが見る前 捨てとこう
折お込こチラシ 断捨離しても 惜おしくない
おりや知らん 見みざる聞かざる 関かわらず
居いるかなあ 覚おえとつたか つばくらめ
俺おれえ勝かか 自信じゆんのあれば 掛かかつてけえ
俺おれオレと 言うのに妻は 電話切きる
オレオレに 俺の息子は 此処こゝえ居いる
オレオレに 引ひつ掛かかったりや せんどもん
オレオレに 振ふり込こませたい 所得稅
オレオレの 騙だます手口も 国際化
俺おれがする 俺おれがせんなら 誰たれがする
俺おれの椅子 何時いつの間まにやら 妻の椅子
オレは外 鬼おにが豆撒まく 節分せつぶん会
おれば邪魔 出掛でくれば事故 世話せわなこつ
俺おれは暇 猫ねこに手を貸かしてもよかよ
俺おれよりも 病院代びやういんしろの 掛かかる猫
下おろしたて 辛あつか大根 俺おれ好み
下おろしたて 一寸ちよつとの傷おが 氣きに掛かかる
おろみぞか 来世らいぜも一緒いっしょと 猫ねこに言い
恩着おんちやくせて 受うけたご恩おんは 忘われとる
温泉おんせんな 良よかばつやっぱ 我わがが家の湯
温暖化 ガソリン依存 脱却だつかくか

温暖化 さては地球も 高齡化
居いる為なすか 独居老人 声掛こゑかきゆだ
女風呂 井戸端いどはの後 會議中
かあさんは？ ただ今いまよりも 先に言う
かあちゃんの 笑顔えんごで今日けふも 頑張がんぢやうれる
カーナビに 周辺しゆべんに来て 見放みはなされ
カーナビに 載のつても居いらん 人ひと氣け無し
カーナビは 間まもなく左 ウソ教しやうえ
飼かい犬いぬが 力ちから関係かんけい ゆう見みとる
開演かいえんを 待まち草臥くたひれて 長欠あぐび伸
買かい換かゆる 先見通まへみとおせる 眼鏡めがねなら
會議中 準備じゆんびのための 會議かいぎげな
介護かいごイヤ 相續さいぞく権けんは ちやつかりと
会席かいせきは 良よかばつやっぱ 母ははの味
外野席 野球やきう何かは そつちのけ
買かおうばつて どこまで値引ちひきき さすもねろ
替かえられん 千ちの蔵くらより 子こは宝
抱かかえ得えん 漬かけ物もの重石おもし 重過おもぎる
嬢ぢやう殿だん下 ビフォーアフター したもねろ
かからせん こなし壊くやせば 物ものえならん (Don't touch it)
掛かかり付つけ 薬くすりはツケの 利りかんどか
柿食かきうけ 色いろよう熟じゆくれて 美味あじしかよ
限かぎん無し あるて思おもうな 親おやと錢
欠かき餅もちどん 嚙かみなっせんか 小正月
限かぎりある 人生じんせいだけんと 今日けふも飲のむ

隠し事 まともに私 見れますか

核持つて 核持たせんで あろうかい

掛け金は 溝とびに捨てたと 同しこつ

駆け込こんで 何か無なかな 腹減へった

掛け声こゑばかり 金かねはあんたが 出すとなら

駆け込こます 無塩ぶえんの鯖さばに 腹損はらね

掛けとつて オリが眼鏡めがねは 知らんかい

託たくつけて 三度さんども叔父しよふを 死しなせよる

籠かごに摘つむ 花はなの冠かんむり 蓮華れんげ草そう

過去かこのこと なまじ詮索せんさく せんがよか

カゴの鳥 夜毎よごとの夢ゆめに 出でておいで

籠かごの中 何時いかんじから始はじ終しゆう シジュウカラ

籠かごの中 自由じゆうが欲しい 開ひらけゴマ ネット句会 4月

カサカサ 荒あれた母ははの手 じつと見る ネット句会 4月

カサカサ 背せ中ちゆう搔かく母ははの手愛あいし

貸かした物 呉くれたと思おもうて あきらめろ ネット句会 7月 八

貸かしなつせ そそくればまだ使つかわるる ネット句会 7月 八

柏手かしわでに 弘法こうぼう大師だいしの 苦笑にがわらい (神仏集合)

風邪かぜ薬くすり 風引かぜひいとれば 効きき目無なか

風邪かぜ引ひいた ちつた気持きもちちの 緩ゆるうどる

風邪かぜ引ひいた 病院びやういん行きは 止とめとこ

仮設住宅 いつだ建たつやら マイホーム

仮設住宅 贅ぜい沢たく言いえば 罰ばつかぶる 熊日 7/29

加勢かぜ人ひとな 頭数あたまかずだけ 揃そろわした

がたがた ゴトゴトくねる 田舎道 ネット句会 8月

がたがた 抜ぬかすな俺おれに 任ませとけ

カタカナ語 意味いみもゆうゆう 知らしららっさん

カタカナ語 使つかえばちつた 偉偉う見みゆる

片付かたづけかん 勿体もったいなくて 捨すてきらん

片づけ下手 断捨離だんせりできぬ 苦く労らう人

片づけ下手 勿体もったいないよ 断捨離だんせりは

片付かたづけける 飲のうだ後は 様態ようたいして

かたづけし 出でされた料理 平へららげて

がたのきて 骨ほねが鳴なりよる 古稀こき古稀こきと

形見分け 貰もらうたばつて どがんしゆう

傾かたむいて 建たて替かえたいが 一部損

傾かたむいて ラムネの玉たまの きゃあ転ころぶ

活気かつき無なか どがんかせんば いかんばい

勝手かたてなもん 遺産いぜん相統さうとう 銭ぜにがよか

勝手かたてなもん 産うんだ子供こどもを ゆりかごへ

勝手かたてなもん 核かくは持もつたと 保有ほゆう国

勝手かたてなもん 国会議員こくわいぎんの 税逃ぜいとうれ

勝手かたてなもん 仕事しごとはせんで 保ほ護ご受うけて

勝手かたてなもん 育そだててもらい 介かい護ごイヤ

かっとしゆう 稼かせいだ銭ぜには 使つかい切り

かっとしゆう 貰もらった年とし金かね 薬代やくだい

合併ごうぺんし 無病息災むびんそくさい 寺詣てらゆきで

合併ごうぺんで あかねすいとは 何処どこちゆかい

がっぱり 稼かせいだ筈はずが 残のこらない

がっぱり 収穫しゆくわく前に 水浸みづひたし

ネット句会 2月

がっぱり 父の日ばって 何も無か
がっぱり 見返り求め 大誤算
がっぱり 儲けた筈が 税金に
がっぱり 山のホテルで 海の幸
がっぱり 楽にならない 暮らし向き
家内留守 卵掛け飯 手間要らず
家内留守 一人昼飯 皿も留守
家内留守 良かちょうらいで 飲みよらす
悲しい酒 三日て我慢 出来りいろ
金じゃない 言うのは持った 人ばかり
金なるある 行たち来うか 温泉に
金なるある 昨日年金 下ろしたつ
金なるある 不老の薬 無かもねろ
金なるある 持て余すほど 暇もある
金になる テロの標的 日本人
金はある 暇もあるけど 遣る気無か
金は出す 非軍事支援 金だけか
金儲け 大取りするより 小取りせろ
金持ち 金を使わず 金貯める
金持ちは 身銭切るこた とんとせん
彼女との 夢にひよくつと 妻が来て
彼女とは わざと別々 写りよる
壁ドンで ベニヤ板壁 うつぽぎやた
我慢出やあて 気張って腰は ひん曲がり
我慢出やあて 子に残そうて せんちやよか

ネット句会2月

我慢出せぞ 稼ぎに追いつく 貧乏なし
我慢我慢 我慢も限度 打ち切れた
我慢我慢 灸の皮切り 次は楽
神構うな 仏放つとけ 崇り無し
紙コップ 注いだ端から 吸いよつて
紙コップ 早う注がんと 吹き飛ばす
神頼み 頼みつばなし 利益なし
神頼み もつと賽銭 張り込まじや
雷の 差し水土手を 吹きこぼし
雷は 金目のものが 好きらしか
雷を 蓄電すれば 良さそうな
紙一重 自動運転 あてならん
蚊帳の外 関わるよりも 出てはちけ
から一生 嬢にや頭 揚げきらん
唐芋に 鰯の菜で 育ったと
唐芋の 茎も根も食て 凌いだぞ
カラオケに あまり誉れば 逆上せらす
空くじに 当たった者な 符の悪か
ガラクタばかり いつか役立つ 時が来る
ガラクタばかり 使えるささは 役立った
ガラクタばかり でも断捨離は できません
ガラクタばかり 悲喜こもごもの 詰まತ್ತる
ガラクタばかり 勿体なくて 捨てきらん
ガラス窓 新婚さんが 気に掛かる

ガラス窓 透けて小鳥の 体当たり
ガラス窓 拭いた端から 灰の降る
ガラス窓 見える代わりに 見透かされ
空振り やつと逢えたりや 仏様
借りた傘 雨が上がれば 邪魔になり
借りた金 お貸し下され 幾久しゆ
かるいかるい オレに敵う 筈がない
かるいかるい 大臣そこは 慎重に
軽がると 今お答えは できません
軽がると きゃあ乗せられる 口車
加齢臭 カレーの臭い 好きちゆわす
加齢なる 一族になり 先がねえ
カレンダー 年金日だけ メモのある
可愛い子 旅をさせれば もう仕舞
可愛い 恩師の之恩 忘れとる
可愛い 自分の手柄 ひけらかし
可愛い 旅費頂戴と 脛かじり
かわずの声 声張り上げて ラブコール
かわずの声 代掻き始めらしたふう
かわずの声 田植えの加勢 すつとかい
かわずの声 降り出す前に 帰ろうか
かわずの声 やっぱ明日は 雨ばいな
買わないと 損するようで つい買った
瓦葺き 流れ作業の 伝供取り
変わり果て かつてはオトメ 今フトメ

変わり果て 金持ちだった よめりさき
考えた末 口のチャックは 閉めとこう
考えた末 政治家だけにや ならんコツ
考えた末 出直すことに 決めました
考えて 考えた末が この程度
考ゆう 偕老同穴 俺や嫌ぞ
考ゆだ 自然な有限 代替えば
考ゆだ 遣られつ放し 良かもねろ
顔黒は 今じゃパンダの 眼黒に
関係ねえ 見ざる聞かざる 気が利かず
勘定は そけ置いとって 手の抜けん
簡単ぞ 手抜きじゃなかと エコロジ
感謝して 俺がオレがの **我**を捨てる
爛つけば 待つとる間 冷やを飲む
感動した 金と銀とが 抱き合うた
感動した 怪我によく絶え 金メダル
感動した 分を弁えとるごたる
感動すつ まだ喝采が 鳴りやまん
看板の 猛犬注意 チワワ吠え
還付金 無いも同然 妻のもの
勘弁してくれ またの値上げに 音を上げる
勘弁してくれ また税金の 無駄遣い
観覧車 見とれてる馬鹿 見せる馬鹿
還暦で 第二の人生 踏みじゃーた
気合い入れ 寒さも寒さ 寒稽古

聞いてやれ 愚痴もお茶も 飲み込もうで
議員ちゆて 為にやならでん しこつとる
気が合うて 一期一会の 旅の宿
気が気じゃか 帰りが遅か 日暮れ道
気が気じゃか 大型台風 まっぼうし
気が気じゃか 孫が一人で 来い来りろ
気が知れん イスラム国に 志願兵
気が知れん 散らしたなーり 果行かす
気兼ねして まごついとれば 結ばれん
気が抜けない 小兵なりの 武器がある
気が抜けない ミサイル発射 どこ逃げる
利き酒で 五臓に効いて 酔い潰れ
効き過ぎて 今夜飲まんて よかごたる ネット句会1月
聞き飽やた 明日からにする 休肝日
聞き飽やた なんやまたそん 話しかな
聞き飽やた 他にや話題は 無かつかい
聞きとれず 他人の笑いに つんなもう
菊薫る 蘊蓄要らぬ 紋所
菊薫る 大輪もよし 野菊でちや
菊薫る 丹精込めた 一文字
菊薫る 武者人形に 蝶が舞う
菊薫る 里の祭りも ひっそりと
聞く耳は 持たぬ頑固が 聞き流し
期限切れ 親父が食たが どうもなか
聞こえとる? どうせ聞く耳 持たん爺

記者会見 鎌を掛けられ つい本音
喜寿祝い 同窓会の 生比べ
喜寿傘寿 もうひと花ば 咲かしゅうだ
帰省中 親の喜ぶ 顔見たさ
帰省中 孝行できた 孫見せた
帰省中 島の人口 倍になり
帰省中 パパさんついに バタンキユウ
帰省中 若者の声 弾む村
気ぜわしか ありもせにゃんこりもせにゃん
気ぜわしか 暮れのイベント 目白押し
気ぜわしか 宗派を超えて クリスマス
気ぜわしか ジングルベルが 急き立てる
気ぜわしか 歳はとらんで いっちよこ
気ぜわしか とても猫にや 解るみやあ
偽善でも せんよりは増し まず支援
汚かね たまればまあだ 欲しゅうなる
北枕 迷信じゃるか 良う眠る
鍛われて もう加勢には 来らっさん
貴重な時間 感謝の祈り ナマンダブ
貴重な時間 出勤前の アイメイク
きつい坂 家康さんも 慌てない
きつい坂 歯を食いしばり 乗り切るぞ
きつとごえ 一斗笠で ドジョすくい
きつぱりと 断り切れず 結ばれた
きつぱりと これが最後の 吸い納め

きっぱりと 儲け話は 懲り懲りぞ
来とらっさん 介護でつれに つき添うて
気に入って 嫁にしゅうばっ 若過ぎる
気に掛かる 電気も点かん 戸も開かん
気に食わん 貸した元手で 儲けだし
気に食わん モンゴル横綱 国技かよ
気に入んな 俺の奢りだ 飲んでくれ
気に入んな 会長さんが 払うてた
気に入んな 釣れんだったら 魚屋で
気にせんで 紳士トイレは 空いとるよ
気にもせん おぼえんばって 無欠席
衣着せず 本音で言える 風呂談義
気の合うて 肴もいらん 友と飲む
気の強さ 挨拶せんと 睨うどる ネット句会8月
気の毒っか 稼ぎも得んで 旅行して
気の毒っか ゲートボーラー 穀潰し
気の早さ 刺身小切つと 待ちきらん
気の早さ もう打ち上げの しこうさす
気の早さ もうしこうして 待つとらす
気晴らしに クレー射撃で 腕試し
気晴らしに タコ二三杯 捕れば良か
気張んなす ぼちぼちせろな 明日もある
キビナゴは 爪先だけで こう開く
寄付集め 渋り面する 門構え
着膨れて メタボじゃ無かよ 臍を出し

ギフト屋が 母の年忌を 知っており
気分転換 鯨どん釣りぎや 果て行く
気分転換 弁当下げて ピクニック
気まぐれが 維新立ち上げ 威信掛け
気まぐれが 新党とやら 立ち上ぐる
気まぐれが まあた病院 替えとらす 熊日
君は偉い 相手をたてて 足るを知り
君は偉い 言われる前の 気働き
君は偉い 知らん振りして いっちよかす
君麻呂は ずばずば言うて ウケ狙う
決めとつと 後はあんたの 意のままに
決めました 色々あつて 元の鞆
決めでよ 彼女なんかじゃ なかですよ
気持から 雨には雨の 過ぎし方
気持から 笑顔でやる気 引き出させ
肝つ玉 敵も味方も 騙しきる
貝堀りぎや 子どんば連れて きゃあ行こだ
きゃあ眠とる 児はおっぱいに ぶら下がり
きゃあ眠とる テレビ放送 砂嵐
きゃあ忘れ スリッパのまま バスに乗り
きゃあ忘れ まあだグラント 走りよる
きゃあ忘れ 見た顔ばつて 名が出らん
逆転に 運で片付けらりゆうかい
逆転に 余りに議席 やり過ぎぞ
キャンプ場 父ちゃん俄然 張り切らす

キャンプ場 火の熾し方 子に教え 熊日 8/22

救援に 頭の下がる ボランテイヤ

救援に ヘリコプターが 吊り上ぐる

救援に 寄って集って つつ立って

救援の 余ったにぎり 捨てらした

急ごしらえ 天露凌げさえすれば

急ごしらえ さしより寝場所だけでいい

球児等の あの冷静さ あの笑顔

今日はダメ 急に言うても 泊まられん

給料日 古封筒に 仕分けする

教育を！ 世界を変えた マララちゃん

器用な人 ちゃんとお金も 貯めてます

器用な人 まこてよか手ば 持っとらす

狂句には 仮想空想 膨らまそう

狂句には 人生訓を 練り込もう

狂句見て 笑えるうちは 惚けとらん

餃子喰て 息の臭さ 吾知らず

今日祝儀 お湿替えた娘 お召し替え

兄弟に 短気と暢気 生み分けて

郷土から 五輪選手に フィーバー

郷土から 新米届く お盆前

郷土から 特産品の お中元 熊日 8/31

きよりの食卓 地産地消も ご馳走ぞ

きよりの食卓 何ごつだろか はりこうで

キラキラ やる気満々 目が光る

キラ炭を 知る由もなし 烏帽子抗

限りがなか 勝つまで相手 させらるる

限りがなか 醸めにや戻る ちゅわっさん

ぎりぎり一杯 着る物なつと 我慢せにや

ぎりぎり一杯 食うていくしこ あればよか

キリギリス 仁丹舐めて 唄いよる

ギリシヤ危機 財政難は 余所事か

ギリシヤには ギリシヤの立場 ギリギリの

義理チョコで 飲む酒何故か ほろ苦か

器量より 愛嬌よしが 俺は好き

きれいな字 教養までが 滲み出て

きれいな字 性格までが 現れる

綺麗からす 誉められたとは 胃の写真

気は心 粗茶つちやあれば 有り難か

禁煙は 何度経験 したとか

きんきり舞 忙しかとも 善し悪し

金婚は バランスシート 釣り合うて

吟醸酒 飲んで飲まれて また飲んで

吟醸酒 もう一口が 止められぬ

限の無か 何時まで親に かるわるる

金バッジ 威張りたかとも ようわかる

金メダル 只の金属 そりやなかる

禁煙の 本を片手に 一服し

食い過ぎる 後半分な とつとつと

喰いっぷり どしこ炊いても 喰て仕舞う
喰いっぷり 瘦せる菓は 飲みながら
喰いなつせ 冷えてしまえば おろ旨か
喰い残し もうねまつとりや せんどかね
空席 上座に座る 親父ギヤル
偶然に 夢見た友と 再会し
食うときは 家族揃たが やっぱ良か
クーラーが 隠居する筈 秋の風
クーラーを 点ける消やせで うちわもめ
愚うらしか 延命措置で 生かされて
愚うらしか 助かったとは 子どもだけ
愚うらしか 魂やうちよき パーになり
草だらけ 引いても引いても 直き生ゆる
草糞り 草臥れた頃 草も枯れ
くすり箱 越中さんの 得意先
くすり箱 膝んカップが 世話になり
くすり箱 みんな達者で かぜひいた
薬屋に 卸せる程の 飲み残し
愚図郎兵衛 ほんに手の要る 子じやったが
糞つ垂れ 自慢の糞は 犬も喰わん
草臥れた 小昼もせんで ぶっ通し
草臥れた 弛止せんば 長ご持てん
くたびれて 親父の脛の 瘦せひごけ
くたびれて くの字のまんま 膝と肘
くたびれて だれやみせんで バタンキュウ

くたびれて 妻の面見て 生きあがる
くたびれて 待つ身にもなれ 冷めた菜
くたびれて 飯は噛み噛み 漕ぎおらす
くだらない 真を問うての 選挙げな
くだらない 都構想げな 止めとこう
くだらない 飲うで約束 真に受けて
下り坂 膝が笑うて なよなよと
口喧嘩 言いたかこたあ 明日言え
口下手は 本音を言うて 損をする
口ほどに 何の役にも 立たっさん
口や開けて 何ぼとぼけて 見とつとな
口や堅か 言うたくせして スピーカー
口汚し 試食程度じゃ 物足らん
ぐっさるある 着はせんばつて 捨ても得ん
ぐっさるある 古米古々米 新米も
くつ喋り 口に塗りたい 滑り止め
くつ喋り 手の内までも 証しよる
くつ喋り 話し上手の 仕事下手
くつ喋り 話のネタも あればある
来つちゆうて 来はせんばつて やっぱ待つ
グッドタイミング 五万人目の 入場者
グッドタイミング 祝辞が済んだころ着いた
グッドタイミング 半額シール 貼りよらす
グッドタイミング やつと乾杯 間に合うた
来つとなろ 夜が更けたつちや 待つとくよ

熊本城曰く 一本足で 踏ん張った

熊本城曰く 昔の石工 見習えぞ

くまモン曰く 受けたご恩は 返すモン

くまモン曰く 恩は借りモン 返すモン

暗いうちから 新聞配る 苦学生

暗いうちから チャルメラ吹いて 豆腐売り

暗いうちから もう豆腐屋が 売りに来た

暗がりです ずっと抱きしめ 初キッス

暗がりです まだ見ゆつとね 野良仕事

クラシカル 七草粥の ベジタブル

暮らし向き 大概でげが いっち良か

暮らしよい 所求めて 避難民

クラス会 ニックネームで 呼び合うて

暗隅で 気づかんだった じゅっかりに

暗隅で 蹴躓じいて きゃあ転だ

暗隅で ようよ鍵穴 さでじゃあた

ぐらちいた 地震予報は 当てならん

ぐらちいた 美人のママに 誘われて

ぐらついで 自前無くなり 総入れ歯

ぐらついで どうも一人じゃ 決めきららん

ぐらついで ヒヤツとさせる ハシゴ乗り

ぐらついで まだ決心の つかんふう

ぐらついで 作物荒らす イノシシめ

ぐらついで 戦勝国で 威張つとる

クリスマス 一夜限りの クリスマスチャン

クリスマス 禅宗ばって 肖ろう

来る早々 新お袋の味はこれ

来れば来る 次から次い 入れ食いぞ

苦勞掛け 母の手握り ありがとう

苦勞知らず 塞翁が馬 明日がある

苦勞知らず 知らぬが仏 気にするな

苦勞知らず 脛つかじりの 齒の白さ

暗うなつた 日暮じやつた もう上がる

苦勞の種 開花する日も あろうもん

苦勞の種 そのうちきつと 花が咲く

黒光り 大黒柱 威厳在り

詳しさが 知識経験 年の功

詳しさが 知識だけじゃか はったりも

句を見ては 血液型を 推し測る

忘れとる まさか自分が 爺いとは

経験豊富 痛みわかる 如てなつた

経験豊富 失敗の数こそ強み

経験豊富 辛酸舐めて 今がある

経験豊富 歳は伊達にやあ とつとらん

経験豊富 何があろうと 怖くない

経験豊富 計らなくても どんぴしゃり

経験豊富 一つ言うなら 十解る

経験豊富 やり損ないが 大概ある

経験豊富 やり損ないを 糧にした

稽古中 チャツチャよりも 増しな声

携帯と 亭主の操作 指一本 (remote control)

ケイタイに 用が無か時や 不携帯

啓蟄に 猫も炬燵に さようなら

敬老会 行くとはイヤだ でもタダだ

下戸同士 ウーロン茶注ぎ カンパ―イ

怪しからん 三役相撲 直ビンタ

藁稲掘り 稲漕ぐ迄は 待ちきらん

解せん ミサイル上ぐる 銭なある

解せん 吾ばかりが 肥え膨れ

血圧が 看護師見たりや 跳ね上がる

血圧が どうも納得 いかんふう

血圧を 納得いくまで 測らする

結構なこつ 既に戒名 貰うとる

結構なこつ 悠々自適 医者知らず

県外移設 そこまで言うて よかつかい

限界ぞ 我慢に我慢 ひとつたつ

元気がでる 山頂までは もう少し

元気がでる やつとあの娘と 結ばれた

元気だったか 傘寿以来の 同期会

元気だったか 仕事慣れたか 金あるか

元気な嫁 一番風呂も 何の其の

元気な嫁 里の仕方に し直さす

健康で 長寿に感謝 神仏

健康法 宿命だから 気にするな

健康法 診察せんで いっちよこう

健康法 神仏頼み 医者いらす

健康法 テレビの話題 すぐ試せ

健康法 まだ口だけは ベリグツド

剣道で 子等が挑戦 ドウしよう

剣道で 子どもに負けて 面食らう

剣道で 子どもに遣られ コテンぱあ

剣道は 子どもと試合 もうシナイ

原発に 頼らんエネルギー 太陽光

ごいごいと 気張りもするが 飯も食う

ごいごいと 力仕事は 負けとらん

鯉のぼり 命綱つけ 泳ぎ居る

鯉のぼり 近頃あとなと 泳がんと

鯉のぼり 釣り上げられて ばて狂う

講演会 一番前は 眠られん

講演会 眠とつた癖に 拍手する

講演会 拍手の音で 目の覚めた

豪華客船 妻の料理が 欲しくなる

豪華客船 忘れてしまう 海の上

好機到来 合鍵そつと 手渡され

好機到来 上司退職 順送り

好機到来 東京五輪 金奪取 ネット句会9月

好機到来 ピンチヒッター ほくそ笑む

高級車 歩けと言うた 医者が乗る

高級車 今度乗るのは 霊柩車

甲子園 まず砂袋 用意さす

工事中 人も予算も 足りとらん
工事中 復興予算 廻しおる
工事中 舗装仕立てに 掘り返し
工事中 やつと我が家の 番がきた
工事中 予算消化の 年度末
強情か 言うてもとても 聞きもせん
強情か 世話にならんで 入所さす
買った後 新製品の ダイレクト
広大か 家の前庭 飛行場
買うところ こうとかばって 先で着ゆう
効能書き 読み得るところに 効き目あり
興奮して シーソーゲーム 手には汗
傲慢な 領土侵害 軍事基地
高齢化 長生き税ば 治めにやん
超えたいが 安心させるの まだ早い
子が巢立ち 二階は要らん如てなつた
古稀古稀と 骨が鳴るなり 足と腰
古稀爺に 米寿の婆が お年玉
ご機嫌斜め 結婚記念日 きゃあ忘れ
ご機嫌斜め 電話もせんで 朝帰り
ご機嫌斜め 待っていたのに 外食し
小切りたて 無塩ですばい なめなつせ
ご近所に 洗濯物も 任せきり
ご近所は 持ちつ持たれつ てげてげに
極楽にや どうも行かるるそうにや無か

極楽は こがんもんかと 朝風呂に
極楽は 信心過ぎて 通り越し
コケー此処 卵もつたと 知らせよる
ここが潮時 こがんチャンスは 滅多無い
ここが潮時 代打逆転 ホームラン
此処さん来え ととこれ座れ 飲うでみゆい
心うきうき 旅行鞆の はち切るる ネット句会12月
心うきうき 旅行前夜の 服選び
心変わり 見向きもせんで 果行かす
心強さ 社長が誘う 三次会
莫菴敷いて 日陰で小昼 広げらす
腰を据え 一升瓶は 離さない
腰を据え 家業専念 誓わした
腰を据え たばこにするか 日は長い
こすたくりん 舌を出すのも イヤだろか
こすたくりん 昼は試食で 済ませおる
コスモス 風に倒され 起こし申す
個性的 誉めようのない 誉めことば
午前様 飼い犬にまで 吠えらるる
こそくって どうにか女 続けおる
こそくって ネジが一本 余つとる
子育てにや 掃き出すごて 銭の要る
こそばいか 来世も一緒 ねえあんた
子沢山 親の介護を 譲り合い
子沢山 育てた親を 誰も看ん

拘こたわって 自産自消じさんじしょうの 手為醬油てししょうゆ

こちんこちん 思うたことも 言い損ね

こちんこちん 酒の肴は 解けたさん

こちんこちん 喉はカラカラ 手には汗

小使いは 大使いより ふとうなる

コックリも 賛成票に 数えられ

ごごつち飯 蓋を取つとが 早過ぎた

ごご馳走受て 泊まった上に 土産まで

ごご馳走受て 飲んだはずだが 飲まれとる

こつで仕舞あ 今年や不作で 買うて食う

こつでよし 明日死のうが 死ぬまいが

コツパ団子だご 貧乏の味 忘れ得ん

こてんぱん 侮つていた 技術の差

こてんぱん 懲りたそうにも なかごたる

こてんぱん やつつけたのは 夢の中

ことごとく 俺の予想は うつ外れ

子どもたち 遺産は貰う 介護イヤ

子どもたち 親の知識に 引けとらぬ

子どもたち 声も姿も 何処へやら

諺ことわざは 語り継がついでんば 消えてゆく

諺ことわざに 処世しよせいの冥利みょうり 論さとしよる

断れず 囲碁のお相手 仕つかまつる

断れず 要いらんもんまで きゃあ買かうた

断れず また役職を 引き受けて

今年も終わり 思えば酷い 年だった

今年も終わり 怖い思おもいは これつきり

今年も終わり 年末ジャンボ 夢託す

今年も終わり 欲ほしくない歳 また貰もらう

今年も終わり 来年こそは いいことが

来きないかい あなたに苦勞 させんから

来きないかい 自給自足が 出来る島 熊日くまひ

子こに持もたす 有り金全部 つんぶるて

この上なし 家族健康 金もある

この上なし 三国一の 嫁よめじやつた

この暑さ 命短こゝろい セミが鳴く

この暑さ 打ち水なつと してみゆうか

この暑さ 草くさ臥たれ果はてた 野良仕事

この暑さ 引ひいた雑草 参まつたか

この寒さ 遭あ難なん記事じに 身みも凍こる

この寒さ 白しろい息吐いきく 通学児

この寒さ 鍋なべはできたか 早はやう注つげ

この寒さ なんちゆうたつちや 鍋なべじやねえ

この寒さ 火ひの不始末ふしまつで 焼やけ出でされ

この歳としで いくら何でも 派手はでかろう

この分ぶんなら 近くて遠い 国くにになる

ご破算はさんで 願ねがひましては 離縁りえんなり

子は単立たんたつち 夫おとこは冥土めいど これからよ

子は単立たんたつち 悩み無用なやみむようで 良よかいちり

ご無沙汰むさたで 心配しんぱさせん 親不孝おやふこう

ご無礼むれいな 写真しやしんのほうほうが よか男

細かさ たった一円 値切りよる
細かさ ミリの誤差にも 拘らす
困ったもん 雨ばっかりで 捗らん
困ったもん 一升瓶は 二日無か
困ったもん ふとか台風 こつち来る
細々と 言い聞かせて 婚活に
混まんうち 正月頭 摘んどこう
混まんうち 孫どん連れて 来れよかて
米やあるか 野菜はあるか 銭やあるか
ごゆつくり 上がり込ますと 夜中まで
ご用心 転ばぬ先に 杖が折れ
ご用心 よかこつばかり 続き過ぎ
細うなった 親爺の脛を 撫でてみる
こらあ便利 スマホで居場所 見付かった
御来光 テレビ拝うで いっちよこう
懲り懲りぞ けして戦争 しちやならん
懲り懲りぞ 儲かる仕事 ねずみ講
こりやいかん 赤提灯の ちらついて
こりや煙か 五右衛門風呂が 焚きつかん
こりやどうし 造りもんによ 見えんばい
こりやどうし わが家にや子ども 作らでにや
こりや不便 俺の居場所が じきばるる
こりや便利 政治資金は すぐ化ける
こりや便利 徘徊先が じきわかる
こりやまこて マゴノテよりも 孫の手

こりや見事 組んで直ぐさま 背負い投げ
こりや安か 買うてはみたが 銭打捨て
こりや美味か 今釣り上げた ばあつかり
こりや美味か 食ちや寝食ちや寝で また肥る
こりや美味か 店に出しても よかごたる
こりや美味か どしこ出しても 売り切るる
これ以上 便利になつて 良かもねる
これが現実 命があれば どうにでも
これが現実 天変地異に 泣き寝入り
これが現実 大渋滞で 逃げださん
これから先 自給自足ば 考ゆう
これから先 月にも土地ば 買うとこう
これつきり 最後の滴 漉めおる 熊日 12/2
これつきり 年金日まで 保たせにゃん
これつきり ポケットにある 小銭だけ
これは大きい 優勝祝う 大真鯛
これは変 知らせないのが 国策か
これは変 テロや破壊が 聖戦か
これより佳境 ガイドの声も 跳ね上がり
これより佳境 桜の下の 花の宴
これより佳境 やがて朝ドラ エンディング
五郎丸 拝む大日如来さま
ごろ寝して 莫慮の寝心地 確かむる
子を叱り 我が身のことば さておいて
子を持つて 親の苦労は 子にやさせん

子を持って 親のしたごと 子のしよる
子を持って 親の真似して 羨よる
子を持って 親を越す子に 育てたか
子を持って 帰宅さすとの その早さ
子を持って 写真撮るのは 初子だけ
今月腹 産み出すまでが 一勝負
今月腹 臍から呼吸 しよるふう
今頃あ あん連つれんとん 釣つれんとん
魂胆が 猫撫で声で 擦り寄らす
魂胆も あればあつたで ご馳走ちそうけた
こんでんと とんと採れんと 途絶つえたと
今度こそ 選者好みの 感性で 毎日
来んとなる 直寝じきもしよう とうと朝
さあ仕事 子作りのゴテ 楽じゃ無か
さあ仕事 眠かばってん 起きらにゃん
さあスタート ぎゅつと靴紐 締め直す
さあスタート フルマラソンに 挑いどました
さあ出番 軽く一杯 ひっかけて
さあ出番 十八番の 黒田節
さあどうする 自国防衛 傘なしに
さあどうする 年末ジャンボ 当たつとる
さあ寝よう 早寝早起き エコライフ
菜園の 自給自足は ベジタブル
財産の 取り合い介護は 譲り合い
再稼働 安全性は 保証なし

再稼働 しやっちがせんちや 良かろうで
最後の手 女の武器で おとせませ
最後のほう 慌てないのが 俺の主義
最後のほう 卒寿祝いの 生き残り
再婚して 今が一番 よしとする
再婚して 俺がオレガの 我を捨てる
財布と相談 受給日までは 持たせにゃん
財布と相談 高か買物 もうされん
災厄さいやくが 断ち切るるなら ソバを食う
幸いに 怪我しただけで 助かった
幸いに こそくればまだ 住まわるる
幸いに 娘が介護 してくるる
さえん顔 まあた彼女に ふられとる
さえん顔 負けたつばしか パチンコに
早乙女 初手のキャストで 出ています
酒蔵の 幾樽どまあ 飲うだりろ
酒蔵の 試飲したときや 美味かった
捜し物 思い出さんで きゃあ買わす
捜し物 何探すのか きゃあ忘れ
捜し物 冷蔵庫から なぜ入れ歯
盃さかずきじゃ 面倒臭か コップ遣れ
先送り まだ移住先 決めきらん
先がない そがんもだえて どけ行くか
先立たれ 鼻水すすり 三年忌
先走り 打たれる釘が また出とる

先走り 吐いたことばは 飲み込めず

先はわからん 家は建てずに いっちよこう

先はわからん 身辺整理でもするか

先はわからん 達者か内に 旅行しゅう

先はわからん 頼られるのは お金だけ 熊日 5/3

先はわからん 飲まれるうちが花ちゆわす

先はわからん 忘れた頃に また地震

先延ばし 直ぐ与えると 癖になる

先延ばし 少しは待たせた ほうがええ

先を越し 俺の十八番ば 唄いよる

桜咲く 咲き始めより 散り際ぞ

桜散り 身辺整理 急かさるる

桜花 一気に春を 引き連れて

酒が良か 二日酔いして 酒は不要

酒肴 ちつとだ分けて くつどなあ

酒肴 上げてあげれば よかるもん

下げたとば 産みたかばって 授からん

酒談義 米寿に学ぶ 古稀と喜寿

酒の後 失敗談も 数知れず

酒の菜 鱻の刺身が いっち良か

酒飲みが ついに飲まれて へべれけに

酒飲みが どうかい国ば 論じおる

酒飲みが とうと美田は 終やなつた

酒飲みが 瓶は醸めて 帰らした ネット句会7月

酒飲みが 不塩梅かも 残しとる

酒飲みの 父の遺伝子 譲り受け

酒も飲み 煙草も吸うて 長ご生きた

酒止めた 五臓六腑が 悲鳴挙げ

酒止めた タバコも止めた 夢じやつた

酒やめて なんか娑婆が 狭うなる

差し当たり 食ていくしこは 貯めちやおる

差し当たり 雀に稲の 味見させ

差し当たり 半分手付け 打つところ

差し当たり むなつけせんば 待ち長んか

匙投げて 俺の腕では 手に追えん

匙投げて とうと修理屋 頼ました

匙投げて レタスはそうよ 鋤込ます

さしゆぶりに 今夜だ来んや 飲うでみゆい

さしゆぶりに 会うて抱き合う 同級生 (hug)

さしよりは あつた肴で 飲みよろか

流石ばい お知恵拝借 知恵のうち

流石ばい 説得力が ものを言う

流石ばい 天眼通で 言われよる

流石ばい 努力の甲斐が 金賞に

流石ばい 何を訊いても 知つとらす

流石ばい 部下の手柄に しとらした

させてみる どうせ長ごうは 続け得ん

さぞ良かる 九号サイズで ドンピシヤリ

さぞ良かる 子ども巢立ち 水入らず

さぞ良かる 子に立ち替わり 介護され

さぞ良かる 三億円が 当たったら
さぞ良かる 二人ばりして ハワイげな
沙汰が無か 達者か証拠 気を揉むな
沙汰は無か どがんどがんだ しとっちゃい
座長さん 聞き上手の 話し下手
札入れが 診察券で 膨れよる
サッカーが テロも戦も 忘れさせ
雑記帳 編集機能 なかもねろ
ざつくばらん ため口叩きは程々に
ざつくばらん ニックネームで ロンとヤス
ざつくばらん 敬意忘れちゃ おらんかい
さっさせろ 何ばもたもた しとつとか
差つ遣つて 少な過ぎて 引つ込むる
雑草も 可愛か花は 抜くみやあだ
さておいて 他人の落ち度の 粗探し
さておいて 他人には他人の 好みあり
里帰り 荒れた田畑が 泣いている
里に融け 天草弁と ごつちや混ぜ
里に融け 肩書きとれて 飲み交わす
里に融け よよして出来る 恩返し
早苗植え 神に報告 早苗饗に
捌けとる 親の知らない ことばかり
捌けとる そこは彼女が リードする
錆食うて 刺身包丁 買うたまま
錆食うて 滅多使わん 耕耘機

さびれとる 温泉街の 客途絶え
さびれとる シヤッター街の 閑古鳥
さびれとる テーマパークも 客疎ら ネット句会1月
様ざまなひと 生きる世間にな オニも居る
様ざまなひと 自己責任で もの申せ
五月雨に 牡丹崩るる ああ無念
寒い朝 力仕事が エコロジー
寒い朝 持つとる服は 全部着た
寒うなかか 重ねて着んば 風邪ひくぞ
寒うなつた やっぱああたの ソバがええ
寒うなり 後ぜきせにやあ すうすすつ
寒うなり 炬燵に入れば もう終やあ
寒かねえ 仮設の思い してご覧
寒かねえ なんのこれしき 寒稽古
寒かねえ 日がな一日 炬燵番
寒かねえ 持つてる服は みんな着た
寒さが何か 被害者の身に なつてみる
寒さが何か 雪搔きしよる 爺もおる
猿股は 裏返し着て いちちよこだ
騒がしか 授業はとんと 聞いとらん
ざわめいて さあお出ましか 二刀流
ざわめいて 将棋グッズを うちの子に
三回忌 精進揚げさす 未亡人
寒かばい 懐の財布 噓する
サングラス 心の奥も 曇つとる

久木野優秀賞

サングラス 心の底は 覗かれん
三次会 眠りかぶって つきおうた
賛成 他人のさすごて 言わすごて
賛成 目配せだけで 判らした
残念至極 互いの気持ち 読み切らん
残念至極 切ない思い 伝わらん
散歩する 四五歩歩いて 引き返す
三本足 耐震補強で よぼんよぼ
CMが 丁度良かそこ 邪魔しよる
G難度 日の丸揚げた がたあつた
爺と婆 菜園畑も 臺のたち
爺婆に ちゃん付けで呼ぶ 同級生
爺婆の ヤブ医者揃い 大番外
シーン 天草灘に 日が沈む
シーン 噂の人の お出ましに
シーン 警策の音 ハツとする
シーン 質問に立つ 御長老
シーン 燃える太陽 飲み込んだ ネット句会9月
シーン ものも言わんで 蟹しやぶる
自衛権 どがん解釈 さっしーろ
塩足らん いくら何でも 減らしすぎ
潮時ぞ どうやら運も 尽き果てた
シオマネキ 此処来此処来と メス招く
しおらしか 誰に似たのか 孫娘
しおらしか ついほろり来る 舞妓はん

仕方無か 言い出しつpeg きやあ持とう
仕方無か 医者と女房にや 逆らえん
仕方無か 挙式待てんで 出来ちゃった
仕方無か 自然の猛威 為すが俚
仕方無か 素通りでけん 募金箱
仕方無か 天変地異にや 泣き寝入り
仕方無か 橋もつこけて 遠回り
仕方無か 百薬の長 常備薬
仕方無か 蒔いた種なら 刈り取らにや
仕方無か また日は昇る 明日もある
四月馬鹿 ウソに付き合う 相手なし
しがみつき 五輪が済むまで 知事の椅子
しがみつき 吊り橋の上 立ち往生
しがみつき 何が何でも 管理職
叱り付け 説教半ばで 身に覚え
時間厳守 今日に限って 出とるバス
時間厳守 スローライフに 馴染まない
時間厳守 遅刻常習 気が知れん
時間厳守 まさか元首が 遅刻げな
時間厳守 待ってる側の 身にもなれ
時間厳守 余所の国では 通じらん
直きばるる 急にやさしく ならしたつ
直きばるる どうも家内は 騙し得ん
直きわかる 親そくりになつとらす
直きわかる 藁葺き屋根は 俺家だけ

しくじって すんなりいかん こつばかり
しくじって またしくじって 挑戦し

地獄耳 聞く耳持たん 箸じゃって

地獄耳 補聴器なんの 要るもんか

しこじって 吾がじゃ上手で 思うとる

四股倒れ 制裁措置も 何のその

四股倒れ 体格でにや 負けん筈

四股倒れ 張り手かち上げ 猫だまし

四股倒れ 優勝逃す ユニフォーム

仕込まれた 主従の恩は どこえやら

支持層に 届かぬ杭の 彼方此方に

辞職して 親の介護に はまらした

試食品 遠慮しいしい ご馳走けて

試食品 食い比べして 腹一杯

静けさが 空気読んてか 眠ってか

静けさが 酒が尽きたか 飲み潰れ

静まり返り 見事な着地 ひねり技

自然界 人情なんて 構い無し

時代遅れ 切腹ものぞ 土下座せろ

時代遅れ 亭主関白 頑固爺

時代遅れ 包丁要らん 料理せにや

時代遅れ 孫にパソコン 習いよる

親しげに 案山子が肩に カラスとめ

したり顔 お使いできた 三歳児

したり顔 箸で大豆が 掴めたよ

地団駄で 跳ね上がったる 万歩計

羨られ 我が子におなじ 羨する

知ったか振り 勝手に歴史 作り替え

知つとって オレと言うのに 電話切る

知つとるくせ 受付嬢に 聞きよらす (contact)

湿布貼り どこそこ痛み 耐えとつと

して見せて 言うて聞かせて させてみる

して見せて 教えてさせて 誉めてやれ

して見せて 箸やこぎゃんして 握らにゃん

使途不明 妻に説明責任を

しとやかな 寝顔にも似ず 妻の蹴り

死には得ず 生きていかんば しょんなか

篠突く雨 気兼ねせんで 昼寝する

忍び足 伊賀か甲賀の 朝帰り

持病あり もう最後かも 同窓会

痺れとる 抜くに抜けない 腕枕

至福の時 乳房啜えた 子の寝顔

死亡率 百パーセント 気にするな

仕舞い込み たーだ虫干し するばかり

始末して 欲しか物も 買ひも得ん

自慢する 上手の手から 水が漏る

自慢のたね 重成公が 建てらした

自慢のたね 島の陶石 白ダイヤ

自慢のたね 包丁だけで 食ていかす

自慢のたね まあだ医者には 用は無か

自慢のたね 六三三四 無欠席
自慢話 聞いた振りして 竹輪耳
自慢話 せんでおられん 質らしか
自慢話 誰も真から 聞いとらん
自慢話 また始まった 上空
地味か服 似合うた頃は 若つかった
終やなつた 退職金も 虎の子も (the end)
湿し替え 履くのはイヤと 逃げ回り
占めたもん 黙ってキスば 受けらした
占めたもん 釣れた魚にや 餌やらん
しもたッ ちよい貰うとが 早過ぎた
霜降りの 半ズボン着る 霜の朝
錫杖に 力ん入る 遍路道 (巡礼)
謝罪せろ 何遍すれば 気が済むか
喋繰って だりも料理は そつちのけ
喋り過ぎ 口のチャックは 閉めておけ
喋繰んな 口が動けば 手が休む
シヤワレット 押した積りが 非常ベル
じゃんけんで 会長職を 受け被り
じゃんけんで 当落決める 地方自治
しやんとせろ 居眠りしとる 見張り番
シヤンプーは ちいっとでよか エコロ爺 (ecology)
終活は 準備万端 いざさらば
終活も 医者も坊主も 友任せ
自由時間 どん百姓にや 夢も夢

柔軟剤 掛けてくりゆうか 頑固爺
修理道具 買うたいちり 仕舞込み
修理道具 買うた方が 安うついた
修理道具 揃えてみたが 飾るだけ
修理道具 使いもせんで コレクター
修理道具 分解したが 直し得ん
修理道具 持つてはいるが きゃあ頼む
受験生 二浪までなら 良しとする
酒豪客 狼狽え隠す 大吟醸
酒豪客 大吟醸を 飲み干した
主人です 言いたくないので 置き去りに
出荷前 夜業したっちゃ しこなさん
熟柿 落えても鳥は 知らん振り
じゅっくわり 頓着なし ボール蹴る
じゅっくわり わざとチャプチャプ入りよる
出身は 高卒ですと 細か声
出世して 嫁が姑に 成り上がり
春秋の 暑さ寒さも 彼岸ぎり
準備して 生前葬ば すっちゃいろ
準備万端 こつでぐつすり 眠らるる
準備万端 実力発揮 後は運
準備万端 飲み掛かっても 良かですよ
正月が来る お節ぐらいは はり込もう
正月が来る 今年はきつと 福連れて
正月が来る 年金減らす お年玉
RKK
12月

正月が来る 早よ頭どま 摘んどかにや
正月が来る 孫のがま口 あぐつちやく
正月が来る 目出度くはあり 先はない
しようがない 親が親なら 子も子たい
しようがない どうもタイプじゃ なか如る
しようがない 抜いた白髪が 惜しゅうなり
将棋指し またカモにされ 暇ぐらし
小休止 コーヒーの香に ホットする
常識は 国が違えば 非常識
笑止千万 路上キッスの 未亡人
笑止千万 審判にケチ 綱が泣く
正直つか 体重計は 嘘言わん
精進揚げ よかろうもんと 旅の宿
上達して 受けた師の恩 忘れとる
上達して 手本は見んで よかごたる
上達して 目下の敵は 我にあり
上達して 四回転も 屁のかっぱ
冗談冗談 言うしこ言うて ウケ狙い
冗談冗談 本音も少し 入れておく
焼酎は ロックお湯割り どっちする
商売は そつちのけして 油売る
消費税 願いましたは ご破算に
勝負あり 頭の黒い 濡れ鼠
勝負あり そこはレディに 花持たせ
丈夫んか 力仕事にや 打って付け

情熱で 燃やせないのか 体脂肪
精霊に 初穂供える 早期米
食傷気味 相も変わらさ 作り置き
食傷気味 ぬくめたカレー もう二日
食傷気味 三日も同じ 菜ばかり
女性たち 亭主のアラを さらけ出し
女性たち 二人で居ても 姦しい
始中終 愛妻からの ラブコール
始中終 ご馳走食ても 良かるかい
始中終 飲うでばかりで 依存症
シヨツピング あつちこつちと カカーナビ
仕様ん無か あるもの食うて いっちよこ
仕様ん無か 言い出しつpeg 罰被る
仕様ん無か 小切るお客に きやあ負けた
仕様ん無か 選挙に負けりや 従わにや
仕様ん無か 好かん国でも 物安か
仕様ん無か 父親譲り 頑固者
仕様ん無か 天の猛威にや 泣き寝入り
仕様ん無か まあた彼氏は 見つかるさい
仕様ん無か 吾が蒔いた種 後忍べ
シライ2 狂句にひねり 利かさなん
白髪染め 妻だけ何で 若返る
白髪染め 無駄な抵抗 止しなつせ
白髪抜き 禿とどつちが 良かりいろ
知らん癖 勿体ぶって 似非笑う

知らん振り 音さえ出んば バレンとに

知らん振り 知ったか振りを 嘲笑う

知らん振り ニンニク喰うて 口拭う

知らん間に 夜の蝶々に 羽化しとる

尻い敷かれ 座布団よりも ペしゃんこに

尻い敷かれ そつでも夫婦 円満に

じりじりと カウントダウン 吾が余命

じりじりと 焦らす女の 焦れつたさ

じり貧で 空き瓶売って 飲み繋ぐ

尻を据え 家業継ぐ気に ならしたつ

尻を据え 春日ボウブラ どつしりと

シルバーの 席譲る娘に 胸に来て

しれーっと ウソがばれても 知らんふり

しれーっと 聞こえんふりを 決め込ます

しれーっと 知らんふりして 皮肉いう

しれーっと 馬鹿をつくって いっちよかす

知れたもん 町を挙げても この程度

知れたもん 年金だけじゃ 食ていけん

しわしわで 清涼感が 麻のよさ

しわしわで 弛んだ乳に 育まれ

じわじわ 親の意見が 身に染みる

じわじわ 酔いの回った 空きつ腹

じわじわと 美人の側に 躪り寄り

じわじわと 屋敷内まで 迫る竹

新顔が 上座で恬としてござる

新顔が 古参さでおき ハバきかす

人工知能 嫌な仕事は ロボットに

人工知能 文句言わずに 仕事する

新婚の 下着じゃれ合う 物干し場

人生の 操縦ミスの 墜落機

親切さ 受けて初めて 身に浸みる

新畳 大の字に寝て 嗅ぐ臭い

死んだつもりで 生きとるうちに 飲うどころ

新茶の香 先ず神仏へ 上げ申そう

陣取って 我がもの顔で 島支配

震度七 掴まり立ちも ままならん

震度七 仏様まで 跳び降りて

心配ご無用 医者も坊主も お友達

心配ご無用 女子会に行ってることに

新聞な 誰でも一度は 行くあの世

新聞な 太か字だけ 拾い読み

新聞の お悔やみ欄に 最後載る

新聞広げて 今日俺の句 載つたらん

新聞広げて 野菜包んで そら土産

辛抱して 戦後の暮らし 蘇る

辛抱して 避難所暮らし もう慣れた

深夜放送 付けっぱなしで イビキかく

深夜放送 寝ずに働き 寝ずに聴く

親友に 弔辞頼まれ 先に逝く

親友の 退院せんと 酒いけん

スーツ着て どけ行きなすか うったって
スーツ着て 嫁御貰いに 座らなん
据え膳に 箸も付けんで きゃあ眠り
末っ子にや きつか仕事も おうらゆる
末っ子の 孫見るまでは 生きてたい
据えとけば 子子の湧く 干しなっせ
清々し あの朝顔が しぼみおり
すがすがしい エッチ難度の 捻り技
姿見が びっくりするごと 若づくり
姿見に 一步下がれば 入りきる
スガネよい ちった休めと 茶菓子遣る
好かんばってん 他に肴も 無かごたる
すかんねえ どつちに見方 せにやんどか
素寒貧 何軒ハシゴ したもねろ
好き勝手 金の力に 物言わせ
好き勝手 ハイそれまでよ 好きにして
好き勝手 反省しとる 半世紀
好き勝手 若気の至り 見捨てられ
好きじゃある ひとりで悦に 入っとらる
好きじゃある 我がじゃ上手て 思うとる
好き好きで 痩せとれば蚊も おろせせる
過ぎたかも 焼酎瓶に ヒビの入り
好きばかり ひいきに見ても 上手じゃか
好きばって 磯のアワビと おなしこつ
隙間風 後塞きせんば スースする

ネット句会4月

すきま風 嫁して三年 子ができん
すきま風 することもない 定年後
鋤焼きに 卵入れたが 俺好きや
少なめに 焼酎三で よかごたる
少なめに 貰う歳暮と 年賀状
直ぐわかる おずおず目玉 泳ぎよる
直ぐわかる 何かよかこと あったばい
少しずつ 食費削って 募金さす
少しずつ 貯めた虎の子 おれおれに
少しずつ 抜いた白髪も 惜しくなり
凄いいねえ 日本の匠 町工場
凄いいねえ 猫と会話の 出来る妻
凄いいねえ まぐれですよと 爪を研ぐ
すこし早め 戒名だけは 貰うとる
すこし早め かるわせてみる ランドセル
すすどうさ 人は押し退け 餅拾い
すすどうさ 夜の明くる前 浜漁り
勧められ 注された酒は 差し交わせ
進んどうさ きつか仕事は ロボットに
進んどうさ ホテルは予約 してたわよ
スタート 結果は後に ついてくる
スタート 瞬発力が ものを言う
スタート 整備点検 怠るな
スタート 始め良ければ 終わり良し
スタート 走り出したら 考ゆう

ネット句会6月

すたこらさつき 厚化粧には 敵わない
すたこらさつき 逃げるが勝ちを 決め込ます
スタツフが スタツプ究明 匙投げた
すっからかん 部下を引き連れ 三次会
すっからかん 年金日まで 付けといて
捨つとに 金ん要るなら 置いとこだ
頭陀袋 一緒たくりに 詰め込ます
頭陀袋 避難グッズを 詰め込ます
すってんてん タクシー代は 着払い 熊日
すってんてん 年金日まで やつと持て 5/13
ストレスが スイセンの香で 癒さるる
ストレスの 溜まる間は無か 狂句馬鹿
スネかじり 今はバイクも 自立する
スネかじり おらんと思えば こんだ孫
ずば抜けて 出る杭誰も 打ちきらん
ずば抜けて 初耳学の 記憶力
すばらしい 一打千金 スリーラン
すばらしい 余程手間暇 掛けたふう
素晴らしか 錦織圭の ストローク
素晴らしか さすが横綱 心技体
すびくねエ 明日も霜か 早よ来春
すびくねエ 歯痛堪えて 飲んでます
すびくねエ 骨身に染みる 隙間風
すびくねエ 湯たんぼ抱いて 膝抱いて
図太さが あがんならんば 出世せん

図太さが 処構わず 高いびき
滑くつて 膝んかつぷ 擦り剥いた
ズボン丈 いち切る方が 長ごなかか
スマートホン 持たんシンプルイズベスト
スマートホン 要らん機能の 多過ぎる
スマートホン 指に唾付け 捲りよる
澄み切つて 邪氣の欠片も ない瞳
住めば都 買ったか物も ありません
住めば都 不自由せんで 暮らさるる
するこつの無ア 顎しゃくつとも やおいかん
するこつの無ア ひねもす飲うで 寝るばかり
擦れ枯らし 酸いも甘いも 噛み分ける
擦れ枯らし ちつとそつとじゃへこ垂れん 熊日
座るにも 立つにもよいしよ 手で支え 2/4
ずん垂れて まちつたズボンな 引き上げろ
寸でのところ 警察犬が 嗅ぎつけた
寸でのところ シートベルトで 助かった
寸でのところ よく頑張った 宇土櫓
済んません 頭下ぐれば 済む話
済んません ちと冗談の きつ過ぎた
「せーの」 棟の牛木に 総掛かり
「せーの」 大綱引きの 馬鹿力
「せーの」 掛け声だけで 加勢さす
「せーの」 漁民総出の 地引き網
「せーの」 曳き手数多の 御柱

請求書 転居先まで 追うてきた

正座して 痺の切れて 立ちきらん

清々した 大金星に バンザーイ

税と 息引つきって 老い迫る

贅沢つか 大金持ちでばしあるか

贅沢つか 買い物控え 辛抱する

贅沢つか 刺身にせんと 喰わん猫

生命は 潮の満ち引き 神業か

せかせかと 働き尽くめ 後がない

急かせらす 三步以上は 走らんば

せからしか 俺に叶えば 掛かつてけ

せからしか 来んなら来んで 徒然無か

せからしか 知らん振りして いっ置こう

せからしか たったぎやしこば 貰うとに

せからしか 歯ぎしりする歯 すぐ替えろ

せからしか ぼって居らんば 徒然なか

赤飯の 移りに返す マツチ箱

赤飯の 移りにや何ば 返そうろ

セキュリティー 盗らるるもんな ありもせん

セキュリティー 油断ならん 嬢の口

世間体 次第に腹が 目立ち出す

世間並み 贅沢言えば きんのなか

世間並み 鳴かず飛ばずの 半世紀

世間並み ほめられもせず 憎まれず

世間の目 スキャンダラスな ことが好き

潮騒 31

せしきやあで 立ち話どま しちやおれん

せしきやあで 一人暮らしは やるせなか

せしこうて 飯の支度が やおいかん

せせくんな どうなるもねろ うっ壊す

世知辛さ 生き馬の目にも ゴーグルを

世知辛さ 山里にや無か 辛さかも

世知辛さ 油断も隙も ならん娑婆 ネット句会1月

急勝ちで 早物買うて 損ばかり

咳つ込うで 言い訳すつで じきばるる

咳つ込うで 満更ウソじゃ なかごたる

節電の ポスター照らす 投光器

節分会 鬼は裸じゃ 風邪引くぞ

節分の 豆はツマミに もってこい

節約を 大々的に 呼び掛くる

銭や要らん 別れてくれる だけでよか

銭や持たん 給料日まで ツケとつて

銭や持たん 寒さが一入 五体染みる

セミの声 いやが上にも 暑くなる

競り合うて 三番までなら 良かこてしゅ

競り合うて 常の稽古が 物言うた

世話要らん ああが先に 逝きなつせ

せわしいこつ 年取る前に 掛け取りも

せわしいこつ 遣りっぱなしの 多過ぎる

忙しなか 朝茶も飲まず 果行かす

忙しなか 足手纏になる子猫

忙しなか 飯は噛み噛み 仕事場へ
世話なし ああた送って 後で逝く
世話なし 医者も坊主も 友が居る
世話なし 進路予報も 反れたふう
世話なし 台風前に 穫り上げた
世話なし 曾孫の顔も 拝んだし
世話なし 揉める遺産も ありもせん
世話焼あて 娘が時にや 来て呉るる
世話やなつた 親の恩より 義理の恩
僭越が 乾杯待たせ まだ喋る
僭越なる 長か挨拶あ 止めつくれ
全壊で 瓦礫の中を 這うて出た ネット句会6月
全壊で 怪我しただけで 助かった
せんが増し 気済みのせんば 為直さす
洗車すりや 黄砂混じりの 雨の降る
銭じゃなか 言う奴ア皆 分限者どん
先祖伝来 骨董品の ゴミ屋敷
先祖伝来 山も農地も 荒れ果てて
先達の 遍路指南に 絆されて
銭のつら 反対意見 封じ込め
扇風機 家内も縦にや 首振らん
銭ほどき 食うていくしこ かつつかつ
専門家 操作ミスでは 無かるもん
川柳が すぐ閃かす オジンギャグ
川柳の たあだ字数 合わすだけ

センリヨウも マンリヨウもある 荒ら屋に
総入れ歯 チュウしゅうにも 不塩梅
総入れ歯 漬けもん噛む音 恨めしか
総入れ歯 笑いすぎたりや うっぱずれ
造花上げ 足が遠のく 墓参り
そうじやろう とんとん拍子 管理職
そうじやろう 放つとかんはず あの器量
そうじやろう 盆正月で 昇級し
総スカン 地震雷 家事育児
そうにやええ 自給自足で いい空気
そうにやええ 旅行三昧 ピンコロリ
そうはいかん 税金だから 無駄使い
そうはいかん まだまだ親の 目の黒か
そうはいかん 利権の香り 天下り
そうにや良か 舶来品の 自慢さす
ソーラーに 電力会社の 暗雲が
不景気で 両手を挙げた 招き猫
総理つちや アイムソーリじや 済まされん
そうりやウソ 美人薄命 私や九十
そうりや見ろ 親のしたごつ 子のしよる
そうりや見ろ 天に唾すりや 降り掛かる
そうりや見ろ 他人への批判 吾がに向き
そうりや良か 社長のキープ 飲みよらす
そこがおばさん 聞きもせんこと 喋りだす
そこがおばさん 試食品だけ 食いあさり

そこがおばさん 知らん振りして 排気ガス
そこがおばさん 特売場の つかみどり
そこがおばさん 夕飯分に 試食さす
そこが偉い 甲斐性認め 掌で
そこが偉い ちゃんと手綱は 締めとらす
そそめいて 内緒話は 嫌な感じ
育ち盛り 食うしこ食うて 肥えもせん
育ち盛り 三人前を たいらげる
育ち盛り 履かれん靴ば 捨ても得ず
育ち盛り ぶかぶかの服 着せとらす
そだねー 地域興しに カーリング
育ったね かるうて 抱いて 手を引いて
そつくり しゃべり方から 癖までも
そつちのけ 政策よりも ファンクラブ
そつちのけ 必需品より 特価品
ぞつとして 夢の吊り橋 後退り
ぞつとする アオダイショウが 絡み合い
ぞつとする 一便後が 墜落し
ぞつとする スカイツリーの ガラス床
ぞつとする 腸掴み はらわたつか そ引きだし
ぞつとする 避難してから 火砕流
卒業式 我が師の恩は 忘れない
袖の下 地獄の沙汰に 効くどうか
その他いろいろ 選り取り見取り 食べまくり
その他いろいろ チョイスするのは 好き勝手

そのとおり 逆らわないで うっちよこう
そのとおり 認めてさせて 誉めおらす
その時は とほけて急場 凌ぎよる
その筈が 結婚指輪 メツキ剥げ
その筈が 新婚旅行 日帰りに
その筈が ダイヤモンドは 不相応
その筈が ニューヨーク行きが 入浴に
その早さ 一つ言うなら 十返す
そのまんま そがんあんたが 俺や好きぞ
側にきて 声も掛けずに 果行かす
側にきて 選挙前だけ 握手さす
側にきて そつと手渡す 請求書
素振り無か 何時だ結婚 すつちやいろ
そらア無理 若つか頃なら いざ知らず
空と海 境界線の 青と藍
空模様 明かれば傘は 杖代わり
空模様 当たるも八卦 言い伝え
空模様 女心と よく似たり
空模様 四季折々の 詩のネタ
空模様 そりや穏やかな 方がええ
空模様 たまにや鉄も 潤憩い
空模様 てるてる坊主 べそをかく
空模様 まだ爆竹は 鳴らんどか
空模様 もうはダムも 腹いっぺ
空模様 夕焼けならば 鎌を研ぐ

そりが何 下馬評ちゆうは 当てならん
そりが何 自問自答で 切り抜ける
そりやいかん 折り入つてなる 来んちやよか
そりやウソ 仏も弔辞に 苦笑い
そりやすごか あの狭き門 通らした
そりやそうた できの悪かた お前似た
そりやでけん 親は看らんで 遺産分け
そりやでけん 市会議員が 滞納者
そりやでけん 政治資金で 飲みよらす
そりやよか 土産が先い 届えとる
それなりに 写るだけじゃ 私イヤ
それはよかった 採用通知 貰たげな
それはよかった 手術せんでも よかてたあ
それはよかった 立派なもんば 下げとつた
そろーっと おっぱいはずし 寝せつける
そろーっと 縫うた傷口 見ろちわす
そろーっと 包帯剥がし ちらつと見
揃たるば 填つて飲うで 貰おうか
そわそわ もうは着替えて お披露目に ネット句会5月
付度し 瓦礫飛び越す 奉加帳
そんなバカな 日本人を 標的に
そんなバカな 預金封鎖を する噂
そんなバカな 我がで決めとる 第三者
そんな話 他人にやすんなて 言うたろが
退役し 納屋の留守番する案山子

ダイエツト 七福神に 勧めらす
待機児童 二人目の子も また待機
大吉が 保証付きなる 良かばつて
大吟醸 米寿に学ぶ 喜寿と古稀
退屈で 持て余しとる 金と暇
たいしたもん ずっと無遅刻 無欠席
体脂肪 痩せる下着で みんな腫れ
体重計 タオルはね除け また計る
大丈夫 堪忍袋 緒が丈夫
大丈夫 期限切れでも どうもない
大丈夫 七福神な みなメタボ
大丈夫かな トイレにしちやあ 長すぎる
大丈夫かな まあだ雨戸の 開いとらん
大丈夫かな 娘が夜更り ドライブに
退職し 今も身分は 妻の部下
退職し 貰つたものは 病気だけ
大切 虎の子までも 叩かせて ネット句会10月
大切 惨めな戦後 知らんどが
大胆か 早よ寝た方が 魂消らす
大のおとこ 口相応に 張り込みにや
大のおとこ ケチケチせんで 出しなつせ
大のおとこ 逃げるな泣くな やり遂げろ
大のおとこ 女房よりも 小もうなり
大の字が 川の字になり 今一字
大の字の 妻に布団も もぎ取られ

大の字の 妻の隣に 一文字
台風が 土木業者を 潤わせ
台風に また百姓が 泣かされる
台風の 来いどんすれば 困ったもん
タイムセール 値下げ札貼るまで待とう
大役は 俺の肩には 重過ぎた
太陽光 タダで発電 銭儲
ダイレクトメール どこで住所の 知れたつか
ダイレクトメール 封も切らんで ゴミ箱へ
耐え切らん 減量せんと 治りやせん
絶え切らん 堪えてばかり おらるるか
耐えとった 冷や飯食いちや 夢のあるか
高軒 先に眠った方が勝ち
高ざるき こがん遠まで はち来とる
高過ぎる 時季物食うて いっちよこう
高ばなし エンジン音に 負けとらん
高ばなし 誰も聞く耳 持たんふう
高ばなし 人が聞こうが 聞くまいが
高望み 選びに選んで 行き損ね
宝くじ のさらん人で 支えとる
炊き立ての おかず要らない 米ん飯
宅配の リンゴの箱で 米送る
たくましい 男に勝る 肩車
たくましい 子はほつといて 育ちよる
たくましい 我が社の未来 背負って立つ

巧技 そのの無かごて 使い切り
巧技 継ぎ目はどこに あつちやいろ
巧技 難なく修理 やつてのけ
巧技 ほんに良か手ば もつとらす
筒が 猪からの お裾分け
筒の 一斉に出て 貰い物
だけん何や どうせ貰うた 金じやろが
高う低う 高つか肥やしのおろ効いた
高う低う よか按配に 生けとらす
高こちいた 慣れんことした ばつかりに
出し惜しみ 漉ためたつちや ちよろつと出
助け合い 恩は借りもの 返すもの
助け合い 渋り顔さす 門構え
出すものは 舌出すとでも イヤちゆわす
戦い済んで まあだ興奮 さめやらす
叩かれて 布団にや罪は 無かろうで
畳替え 隣や何ば さすもねろ
駄々をこね 考えさせて 根くらべ
駄々をこね 今度だけよで 味占める
立ち上がり よいしよに古稀の 音がする
脱オンナ 男子トイレに 駆け込ます
達者かね 何処もどがんも 無かちゆわす
達者かね まだ口だけは 負けとらん
達者かね まだ晩酌に 二・三合
達者かばい 二次会場に はべり出て

達者して 飲まるるはざが よかつばな
たつぷりと 掌が吸う 美容液
立て続け やつと下げたつ のさらした
種切れ 俺の頭じゃ 限界か
種無しの スイカの種は あつちやるか (コルヒチン)
種の無か ブドウの種は 何処も無か
種蒔いて よか塩梅に 夕立が
楽しかね 同級生が いっちよか
楽しみ 入選作の たまにある
頼み事 妻の鼻歌 今が良か
頼み事 やっぱ手ぶらじゃ 行きにつか
頼もしさ 家業継がせて よか如る ネット句会12月
頼もしさ 日本選手の 二十歳代
頼もしさ 任かせてもよか 仕事ぶり
煙草する 日の長うして 腰延ばし
煙草飲み 肩身の狭か 納税者
旅先で 家にある物ナ 買いなすな
旅好きよ あの世だけには 逝くみやあぞ
旅前夜 あれもこれもと 詰め捲り
旅に出る しこうすつとに 草臥れた
たまがった 歩きも得んば 立ちも得ん
魂消った 起きたりや外は 銀世界
魂消った お産してもう歩きよる
魂消った 術後間も無う 巡礼に
たまがった 妻がダンスを 支えとる

たまがった トイレは開けたまましよる
たまがった とつくに妻は 逃げとった
魂消った 會婆さんに なったげな
魂消った 便座の蓋の わがで開く
魂消った 惚けちやおらん 銭勘定
たまがった 仏様まで 跳び降りて
たまがった 余震じゃかった 若夫婦
たまげた 老いて恋して 結ばれて
たまげた 相続権が もう一人
たまげた タンス貯金の まあだある
魂消たぞ あん年でつちや こん色気
魂消たぞ 楽譜は脳の 中にある
騙された ムカゼじゃなかか 着け睫毛
騙された あがん若して 子持ちてた
騙された 有り金全部 振り込うだ
騙された 骨董品を 捨ても得ず
騙された てつきり釣った 鯛ともた
騙された 見掛けはぴしやり 紛いもん
溜まつとる 銭なるよかて 体脂肪 (BMI)
黙つとれ 打ちばしせんば 口や勝たん)
黙つとれ 講師の声が 聞き取れん
たまに来る 嫁じよはまるで お客人
黙りこくつて 頓着せんで いっちよこだ
黙りこくつて 余程のこつじや 腹搔かん
為えならん くつ喋りが 加勢さす

為えならん 為いも得んくせ 引き受けて
ためになる そうだったのか 初耳ぞ
ためになる 知識経験 技術力
ダメよダメ 飲酒運転 事故の元
ダメよダメ 戦争だけは しちやならん
ダメよダメ そういわれれば してみたか
だらしなか 女御に金ば 出さすんな
だらしなか ちつと気張って ヘコタルル
だらしなか 脱いだ着物な 片付けろ
だらしなか 股は広げて うつ座り
タラタラ いくら拭いても 玉の汗
タラタラ 齒の浮くような お世辞イヤ
タラタラ 不平不満の 零れおる
だらだら シートのまんま 片付かん ネット句会3月七
だらだら 豊洲移転は 何時のコツ
たらんたらん 余り過ぎより そつが無か
たらんたらん 手は借っても 銭や借るな
足るを知る うつすらとでん あればよか
足るを知る 起きて半畳 寝て一畳
誰もいない 天知る地知る 悪できん
誰もいない 山の三叉路 さてどっち
誰も彼も またCMに 釣られよる
誰も彼も 儲かる話 好きじゃある
弛止に 猪口二三杯 あれば良か
たわい無か 頭下げれば 済むもんば

たわい無か 伊達には場数 踏んどらん
断捨離に 踏ん切りつけた 大地震
断捨離は 思い出の品 邪魔しよる
断捨離は 体脂肪なら 捨ててよか
断捨離は 勿体のうて お断り
誕生日 有り難くない 歳貰う
誕生日 息継ぎせんと 吹き消えん
誕生日 多か蝋燭 消しきらん
誕生日 パッピーばかりでもなかが
単身赴任 新幹線で 通い妻
団体旅行 朝っ腹から 飲みおらす
団体旅行 見物よりも 土産買
団体旅行 座持ち上手で 芸達者
団体旅行 一人居らんと バス出せん
段々と 美味い爛酒 寒の夜
段々と 炬燵がみかん 消費増し
段々と 近くの国と 近くなり
段々と 迫る水嵩 身が竦み
段々と 年の瀬迫り 障子貼る
段々と 寄る年波に 身を委ね
だんだんな ハシゴの相手 して貰て
だんだんな 世話役さんの お陰ばな
たんべんに 食糧補給に 寄る実家
たんべんに 手みやげ代が 高うつく
知恵者 お知恵拝借 知恵のうち

知恵付けて 遣った積もりが 見透かされ
知恵袋 冷凍室に 入れたまま
近くから 戦のにおい 飛んでくる
近くから うちがウナギの 匂いだけ
近くから 真から見ると シワだらけ
近まって 医者も僧侶も 仏顔
近まって 般若心経 習いよる
近まって 迎えが来ても 断れぞ
近道して さすがはプロの ドライバー
近道して 一流どころで スーイスイ
地球儀が 旅の話題を 独り占め
近うなった あの世も寺も 小便も
近う寄れ 耳が聞こえん 目が霞む
遅刻して 戻る時間にや まっ先に
縮こまり 亀が雁首 引っ込む
縮こまり 猫と一緒に 炬燵番
父が来て チャンネル権を 放棄さす
父が来て やつと安心して寝れる
父の日に 家族は誰も 無関心
父の日の 大吟醸の その旨さ
ちととづつ 配られた水 使いよる
ちととづつ 詰めるも一人 座らるる
ちととづつ おすそ分けさす 貰い物
ちととづつ 思し召しより 米ん飯
ちとほの字 ママの陽気に 俺陰気

千鳥足 後ん一杯が 多過ぎた
千鳥足 裏戸を開けて 忍び足
血の付いた 包帯解いて 見ろちゅわす
着々と 進まぬ豊洲 水浸し
茶髪てや 何が流行か 黒がよか
ちやん仕舞た 足で開くつと 見とらした
ちやん仕舞た 至らんことして 罰被り
ちやん仕舞た 俺の持ち歌 唄われた
ちやん仕舞た 車代まで きゃあ飲うだ
ちやん仕舞た 骨董の壺 ハチ割った
ちやん仕舞た 食後の菓 きゃー忘れ
ちやん仕舞た 丁度んところ 子が見とる
ちやん仕舞た 唾付けとけば よかつたて
ちやん仕舞た 特等席は 予約済み
ちやん仕舞た バスが定時に 果行た
ちやん仕舞た 太か魚ば いっちゃった
ちやん仕舞た やつと出た芽も 引ヶ抜き
ちやん仕舞た 酔いが覚めたら 彼の部屋
チャンス 今なら勝てる 腹積もり
チャンス 半額ちゅうぞ ルイヴィトン
ちやんちやらおかし 俺の地盤で 立候補
ちやんちやらおかし 十年早い お弟子取り
ちやん付けで 何時まで呼ぶか 六十ぞ
忠孝の 尾を振る犬は 叩かれん
駐車場 車も俺も 前向きに

中の下で 種も仕掛けも なか暮らし
ちゆうりこり 堅かもんな 剥けもさん
ちゆうりこり 辺野古埋め立て 扱らん
注意して 杖で探つて 足でさで
注意して バックしますと 言う車
釣果あり 一杯飲もうて せしかわす
銚子空 ほろ酔い気色 良か調子
丁度良か 遮光カーテン ニガゴウリ
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か 遮光カーテン ニガゴウリ
丁度良か ダイエットした 甲斐のあり
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か 似合うた鍋に 似合うた蓋
丁度んとき 子どもに見られ バツ悪い
丁度んとき 電話にや出んで いっちよこう
弔問の 多さ故人の 仁徳ぞ
チョコレート バレンタインが 太らする
ちよつと待て 朝ドラ見んと 手に着かん
ちよつと待て 酒も肴も 残つとる
ちよつと待て 手が外されん 仕込み中
ちよつと待て ナデシコジャパン よかところ
ちよつぴり ふる里偲ぶ 柚子胡椒
ちんちろみや おせちに掃除 餅飾り
ちんちろみや 打って走って 掻き回す
費えーか 使い切らんば 減らさるる

通勤は 運転手付き 定期バス
杖代わり 降らんちや傘は 必需品
使い捨て 主従関係 其れ迄よ
月明かり トラクターが まだ気張る
月の出ば 待つちゆてあんひと 待つとつと
月は良し 酒の肴にや 事欠かん
つくづくと 妻の手見れば 胸痛む
つくづくと 寝顔覗けば 生き仏
つくり置き 賞味期限の ありや無し
つくり置き チンするばかり 妻が留守
作り過ぎ 二日も同じ 菜ばかり
つくる人 日本支える 町工場
つくる人 そのまた人を つくる人
ツケのきく ママの酌じゃ 断れん
釣った魚 餌やりついに 飼い慣らし
突っ立って 足でオンする 扇風機
包み銭 持たん同志で つんなもた
勤め上げ 時計に暦 用無しに
勤め上げ 終日のたり のたりばな
角隠し ウチの女房に 被せたか
椿落つ 明日は我が身か ピンコロリ
椿落つ 母の臨終 やも知れん
椿落つ 不吉な予感 なまんだぶ
つばくらめ ゆう忘れでにや 里帰り
つべこべ言うて しようなかとが 腹いっぺ

つべこべ言うて 面倒だから 頼まれん
妻降りて お疲れ様と ナビが言う
つまづいて 三本足に 増やさした
つまづいて 膝坊さんにや けがなかる
つまづいて 膝坊さんは 痣だらけ
妻の後 三步下がって ついて行く
妻の居て 生き存える 有り難さ
妻の勘 好みの爛で つい過ぎる
妻はバラ 花は散ったが トゲはある
妻は留守 どうしたもねろ 俺独り
つまみ食い ミケよお前も 欲しかつか
ツマミには 節分の豆 再利用 (Reuse)
つま楊枝 ほじくり出しも 役目から
つま楊枝 野党議員の 武器になる
冷たいなあ 兄弟喧嘩 金故に
冷たいなあ こうも違うか イケメンと
艶やかに 髪も心も あなた色
梅雨明けは 灼熱地獄 だけ逃ぎゆか
梅雨は嫌 粘つとつとは 露知らず
梅雨は嫌 飲むこと以外 仕事なし
強い人 猫は何でも 知っている
面なしが 俯いたまま 喋りおる
面なしが お客が来れば 逃げ隠れ
面なしが 居らんで言えと 引っ込ます
面なしが キンコン鳴れば お前出ろ

面なしが 目が合うだけで 赤うなる
吊り橋は 嬬が渡った 後渡る (露払い)
鶴の一声 燕雀何を ぬかしおる
鶴の一声 誰も「ははっ」と 従わん
連れ合い 長年経てば 連れ無いに
連れ込むな 私や急には 泊まられん
連れ添えば ありこりそりで 通じつと
連れを呼び たまにや外食 してみるか
連れを呼び どっちがよかか 品定め
悪阻かも どうやらできた そうにある
ツンデレの おろみぞもあり みぞもあり
つんのうで お寺詣りに きゃあ行こだ
つんのうで そうよで二次会 果行だ
つん逆上せ とうと花道 遠退いた
つんぶるえ 学生服は 泥だらけ
つん燃やた コピー焼いてと 言うたのに
亭主留守 良かちようらいで 昼寝さす
程度もん 薬も過ぎれば 毒になる
程度もん 財産持ちも 良し悪し
手入れのよさ サビの一つも 喰うとらん
手入れのよさ 親の形見に 貰うたつ
代の無か 論吉さんたちや 急ぎ足
出来したぞ 良かっぱ下げて 産まれとる
手が震え 味のある字と 誉められた
出来すぎて 畑の土に 鋤き込ます

出来すぎて 値下がりせんと よかがねえ
出来すぎて 眉唾ものじや なかるうか
出来損ね 親の躰が なつとらん
出来不出来 同じ腹から 産んだとに
出来不出来 よか塩梅に 匙加減
手際良か えらい仕事の 捌けらす
手際良か ちよこつと修理 してやらす
手際良か 缺一ちよで 食ていける
手際よさ 若つかときから し慣れとる
てげてげて 奢らず媚びず 控え目に
てげてげて 今日を終えれば そつで良し
てげてげて 妥協せんば もねならん
てげてげて よかことにする 歳になり
てげてげて 欲せず施し 人ん為
手ごわいぞう 小兵力士と 侮るな
手ごわいぞう 百戦錬磨の 業師げな
手為醤油 手前味噌じやか こだわりで
手為醤油 余所の味にや 引け取らん
デジカメ 何を喰うとか 孫に聞く
出しゃばつて 赤恥搔いて 引き合わん
手だてなか 阿蘇の噴火で 灰が降る
手づくりで 味に拘る 味噌醤油
手づくりで 着物が化した ワンピース
手づくりで 誰でも真似の できん味
手づくりで 孫が喜ぶ 竹とんぼ

鉄人も 皿洗いから 始めとる
手つとり早く 和平するのが 得策ぞ
手つとり早く レンジでチンの おろ美味さ
てつぺん 下界は何を しよるやら ネット句会5月
てつぺん 強かはずたい 風当たり
手詰まりで 自国防衛 支援国
手詰まりで 歴史認識 繰り返し
出ておいで 雲間に隠れた お月様
出ておいで 手乗り文鳥 ご飯だよ
手内職 遊びほどきで 捗らん
手には負えん イスラム国の テロてろん
手抜きして 所帯上手て 思われた
手の掛かる もう限界ぞ 孫の守り
でノなか 朝買うた酒 すためおる
デパ地下 夕食代わり 試食する
手八丁 何ばさせても 手際よか
手袋の 左手ばかり 残つとる
手袋の 右手ばかり 売ってくれ
手弁当 向こう糞では 割合わん
手みじかに ご託聞いとる ひまはなか 熊日 4/26
手みじかに 用だけ言うて はつてかす
デラックス 金の草鞋の 披露宴 ネット句会6月
寺普請 寄付て聞いたたら 寄付かん
寺普請 被災檀家は それだんか
寺普請 役職なりに寄付はずまじやあ

寺詣り^{みや} 年寄りばかり つんなもた
デリケート 乙女の心にもラップ
デリケート そこは優しく 治療して
出る杭は打たれ 出過ぎりや打ち切らん
てれつとして よか女御^{おなご}ばし 居らるかい
テレビ取材 厚かましさも 程がある
手を合わせ 捨てる物にも 感謝して
手を交えて 振り込むよりも 託^{たく}けて
手を交えて 水掛論議よりもラチ
手をつなぎ 昔あつあつ 今介護
手をひろげ 海外にまで 店出さす
手をひろげ かかってこいと 朝稽古
手をひろげ ひとりで使い 出来たとね
手を焼いて 出雲の神も そつぽ向き
手を焼いて 気掛かりながら 嫁にやる
手を焼いて とうと台無し しにやあとる
手を焼いて 寝せつけといて 針仕事
伝供^{でんぐ}取り 手から手渡し 瓦揚^{かわらあ}げ
デング熱 感染すれば 大事^{うらごつ}ぞ
天災に 為^なす術^{すべ}もなく 泣き寝入り
天高し 運動場は はしやぎ声
天高し 鳶^{とび}が自在に 輪を描く
天高し 鳩止まらせて 四郎像
天高し パラグライダー ゆつたりと
天高し 飛行機雲は 銀河行き

電池切れ 体内備蓄 使い切り
田地^{でんち}持ち 有ればあるもん 草の種^{たね}
天の恵み 都会じゃ飲めん 水のある
展望所 明日の希望も 見通せる
展望所 霞ヶ関に 一つ要る
電話口 後で会うのに まだ話す
電話口 「うん」一言で 打ち切らす
電話口 こんな格好でごめんね
電話口 何度も頭 下げよらす
電話帳 昔の名前で 三年忌^き
電話ばい 丁度ん時い 出じいっ置^{ちよ}け
ドア越しに お帰りなさい 午前様
ドア越しに 亭主が留守と お断り
退^どいてみる 俺がすつとば ゆう見とけ
どい瘦^やせん 口ほど動けば じき瘦^やする
どうかまあ 馬子にも衣装 よう言うた
どうかまあ 歳に似合わん ペアルック
動悸^{どうき}打つ 恋の鼓動と ちと違^{ちが}う
同期会 今亡き恩師 忍びつつ
同期会 今なる言いきる 好きじゃった
同期会 俺もワリも 無礼講^{ぶれいこう}
同期会 恩師はそうよ 旅立たれ
同期会 校歌は宙に 覚えとる
同期会 喋り足らんし 飲み足らん
同期会 体調不良で 来んとちゆた

同期会 鷹たかばし産うんだか 孫自慢

同期会 亭主ていしゅのこたあ きやあ忘れ

同期会 何なにてや喜き寿じゆまで 待まてんてや

同級生 声聞こゑくだけで わかつたぞ

同級生 だあが一番 早はやもろた

道具箱 家族支たすえた 飯いの種く 熊日 6/30

道具箱 匠たくみの技わざの 詰つまつとる

父ちちさんの 経けい営えい杜ず撰せん 倒たふ産さんか

湯治とうじ旅 早はやう戻もつて 我われが家の湯

湯治とうじ旅 よかたやつぱり 家いん風かぜ呂

どうしたの その優やさしさが くせ者くせものよ

どうしたの 目尻めじりを下くだげて にやけ顔

どうしたもんか 動き出うしたら 考かんゆう ネット句会 2月

どうしたもんか 先まずは行い動 後のちは運

どうしてん 俺おれが仕掛しかけにや 喰くい付つかん

どうしゆうに 過あぎたこたあ あきらめろ

どうしゆうに 水飲みづんだつちや 太ふる質たち

どうしゆうろ 活断層かつだんそうの 真上まじやうてな

どうしゆうろ 貯金ちきんなかつとしゆ おろすだけ

どうするか 歳としに免まじて 堪こたえてよ

同窓会 天草あまぐさ弁べんの 懐なつかつさあ

同窓会 喋はなつてばかり 箸はしや休やすみ

同窓会 成績順せいせきじゆんが 替かわつとる

同窓会 遠とほかところから おいでたなあ

同窓会 何なに着きて行いこうか 迷まようとる

同窓会 昔話むかしに 花はなが咲さき

堂々と 妻つまの前まへでは いい格好かっこう

遠とほうなつた 耳みみも色気いろも ふる里さとも

遠退とほひいて 口くちにはチャック 目めには蓋ふた

遠退とほひいて どなた様さまかと 言いいくさる

遠退とほひいて 墓はかの掃除はきは 人頼ひとたのみ

遠退とほひいて まあだボトルは 有ありいろう

遠退とほひいて もつぱら妻つまと 差さしで飲のむ

動物園 パンダが居いない 客居きやくない

動物園 本物ほんぶつだろか あのゴリラ

当面たうめんは 家内企業けいだいで 細々と

当面たうめんは 揃そろうた者もので いっちゆうか

とおり道 イヤな沖南風おきはえ まつぼうし

とおり道 カモの親おや子が 渡わたりきり 熊日 4/27

どうろころ 食くうていくしこ あればよか

どうろころ 飲のみもえんば 貯たくめもえん

どうろころ 飲のむしこあれば そつでよか

ドキッ 高速道こうそくだうの 逆走車

ドキッ 丁度ていどんところ 子こに見みられ

ドキッ 妻つまが本棚ほんのゑ 掃除はき中 NHK 7/19

ドキッ 亭主ていしゅは留守くわいの 筈はずなのに

ドキッ バックミラーに 白しろバイが

ドキッ ポイ捨すて現場げんじやう 子こが見みとる

ドキッ ママの口紅くちべに ワイシャツに

どきどきすつ 美人看護師びじんかんごし 脈脈をとる

時は金 チンして済ます 夕ご飯

どぎゃんかな 何時だ飲む如て なつどかい

特上と さらり言う妻 太っ腹

ドクダミが 狭い畑を 占領し

独壇場 マイク握って 離さつさん

毒舌も 君麻呂だけん 許さるる

どけ行こが 子供が居らんば 安気ばな

どこが違う 政権代えて 民主主義

どこが違う 伊達に長年 生きとらん

どこでつちや 佐伊津弁な じきわかる

どどこば 銭な巡って おつとじやい

どこなつと 出掛けてみるか よか日和

ところ狭し 足踏みざきも なか如る

ところ狭し 歳暮に仏間 乗つ取られ

ところ狭し 目当て年玉 孫曾孫

心太 細い天草 心太

どさくさで わーが領土に きやーしなし

年ア幾つか 選り好みどま しとられん

年ア幾つか 凶体ばかり 太うなり

年ア幾つか まだでん親の 脛かじる

年ア幾つか ママて言うたりや どやされた

歳訊かれ その場その場で 満・数え

どしこでん 隠し財産 パナマげな

歳じやある うったち晴れの しなはらん

歳じやある 腰やいっちちえて 踊りよる

歳だけん そんな口紅は 赤過ぎる

歳だけん 何が何でも 派手じゃろう

歳も歳 医者と仲良し なるばかり

歳も歳 これから先は 遠慮しゆう

歳やとらん 色気と食い気と 遊び気と

凶書館に 行き先告げて パチンコ屋

歳寄つた 言いたかことも 明日にしゆう

年寄りを 笑うちやならん 行く道じや

ど素人 三味を片手に クシヤミする

徒然なか 無縁仏に 花手向け

土地のひと そのならではの お持てなし 熊日 9/9

土地のひと 地域の良さに 気付かない

とつけむにや 爺が太刀打ち でくるかい

とつけむにや サンプルとにや えりや違い

とつけむにや 歳の差婚も 親子ほど

とつけむにや まあだ十年 早過ぎる

とつけむにや 持ちもせんくせ 高級車

どっこいしよ 気合い入れ入れ 立ち上がる

どっこいしよ 尻が重くて 立てません

どっこいしよ 立つも座るも 手について

どっこいしよ 孫が気合いで 加勢する

どっこいしよ よいしよこらしよで 気張りましよ

どっこいしよ 用事忘れて また座る

どつちじやい 貰ってくれた 来てやつた

ドットコム 何処が混むとか 聞いてみる
ととととと ととこれ座ろ ドジ同士
ととととと 孫の土産に きゃあくりゆう
突風が わずかな髪の毛 弄ぶ
とても無理 清濁飲める 器には
ととこれけ 昔なじみが かたまつて
となり村 案山子が過疎化 カバーする
となり村 案山子も村の 賑わいに
となり村 七割方が 高齢者
殿様気分 クラブのママも 金次第
殿様気分 揉まれ叩かれ 針刺され
跳び出すな 車は急にや 止まらない
とびついて 安す物買いの 銭打捨て
飛び飛びに 興味ある記事 拾い読み
飛び飛びに 密生苗は 間引きさす
途方も無か 出世したもん 親に似ず
どぼくれた 鉛筆削る 肥後の守
とぼけても駄目 証拠はちゃんと 掴んどうる
とぼけても駄目 顔にウソだと 書いてある
泊まらんか 積もる話しで 夜も更けた
泊まらんか 待つとる者も 居らんどが
泊まりがけ 主婦もたまには 小休止
泊まりがけ ペット可の宿 探し中
泊まりがけ ペットの餌は 二日分
とめられない 心に秘めた 恋心

とめられない 二人の誓い 堅かった
朋来たる 酒も肴も 揃えとる (論語)
共白髪 誓うた妻が 白髪染め
共白髪 なんだイヤばいと 妻茶髪
どら猫の 凶々しさも 程がある
取り敢えず ナマを一杯 チュウを呉れ
どりが良か あなたの色に 染めてみて
取り逃ぎやた 掴うだタコは 頭だけ
取り巻きの 猫が手招く 島の客
どりもこりも 塗ったくりよる 試供品
取るに足らん 内輪喧嘩は 犬も食わん
穫れ過ぎて 銭がたなかもね 糞重か
ドローンから 遊覧飛行 してみた
ドローンから 宅配便で お買い物
泥だらけ 車はたあだ 乗るばかり
どんこんならん 足腰終に ガタのきた
どんこんならん ブルーシートに 台風が
飛んではねて グリーンジャンボ 当たらし
飛んではねて 前衛書道ばしじやろう
とんでもない 否定できない 被爆国
どんと来い 何でもござれ 資格持ち
どんと来い 町の歴史は 俺に聞け
どん腹は しゃっしやっとして 高ざるき
どんぴしゃり オレの体は 既製向き

どんぴしやり 既製で合うて 安上がり
 どんぴしやり こうとか柄の 有りいろいろ
 どんぴしやり 似合うた蓋の 見付かった
 なあおまえ 先に逝たとく ぼちぼちけ
 なる程 相手が一枚 上だった
 なる程 言われてみれば そがんじやる
 なる程 言われん訳が 判ったぞ
 なる程 言わんはずたい 照れ臭しや
 なる程 男に解らん こともある
 なる程 親に言われん 訳がある
 なる程 親の言うごつ せにやいかん
 なる程 俺の仕掛けじゃ 釣れんはず NHK
 なる程 柿と柿は 似て非なり 2/23
 なる程 口裏合わせ しとつたな
 なる程 事は解決 しとるふう
 なる程 こりや袖下 貰とるな
 なる程 筋書通り じやったばい
 なる程 銭がたあつた 長ごもてた
 なる程 どうも様子が 変だった
 なる程 並んだ甲斐が あつたばい
 なる程 似合うた鍋も 蓋もある
 なる程 寄っ付かん筈 寄付貰い
 なる程 落語のオチは 唸らせる
 なあんでか 惚けると惚れる 字は同じ
 内緒内緒 お誕生日の サプライズ

内緒内緒 嬢に知るれば 大喧嘩
 内緒内緒 口は堅いが ばらしとる
 ナイスナイス コツがつかめた 如たるふう 熊日 5/27
 ナイスナイス どうやら先が 見えてきた 熊日 5/26
 長生きし 曾孫の面が 見ゆう如たる
 長生きに 溜息漏らす 罰被り
 長生きは 想定外の 皆保険
 長居は無用 新婚さんが 欠伸さす 熊日 10/27
 長居は無用 サービス残業 多すぎる
 長い夜に 一緒に欠伸 老夫婦
 長すぎて 介護する身も 本人も
 長すぎて 呉れた積もりで 諦みゆう
 長すぎて 杯や持った まましゃべる
 長すぎて そがんにや私 待ちきらん
 長すぎて そつちや辞みゆうて 言わっさん
 長すぎて 電話したあと またメール
 長すぎて トイレに立つ人ばかり
 長すぎて 箒立てても なんのその
 長すぎて 三重に巻いても 余る帯
 鳴かず飛ばず 爪は隠した ままじやつた
 なかなか減らん 借りる相手を 間違うた
 なかなか減らん 払いに行つて またツケか 熊日 7/14
 なかなか減らん 水を飲んでも 肥るたち
 泣きたいよ 収穫前に 梨落下
 泣きたいよ 二重にローン 抱えなん 熊日 10/11

鳴き止まん 耳の中には 蝉がおる

無くならん 娑婆の諍い 扱き下ろし

無くならん ちやんと蓄え ひとつたつ

無くならん 埋蔵金な うんとある

長ご生ゆう 鶴千年亀万年

長ご生きる 積もりで買った 高級車

長ごうなか 生きたるささは 楽しもだ

長ご長ごう 苦虫嚙うで 齒の抜けた

長ご短こ 中々無かな 揃たつは

長ご保てた 高つかがたあつた ランドセル

長ご保てん 無塩な小切つて じき喰わにや

情けなか 男つくつて 逃げられた

情けなか 男やもめにや 蛆がわく

情けなか 針のみんぞが 見えんとぞ

情けなか ヤマト横綱 居らんとか

無し無しの 銭ば盗人に 押っ盗られ

茄子の花 千に一つの 無駄もなか

灘の鯖 天領武士も 舌鼓

菜種梅雨 なわしたチヨツキ 出して着る

夏が来りや やっぱり冬が よかち言う

懐かしい 教育勅語 覚えとる

懐かしい 子どもが歌う 春よ来い

懐かっさ 小学唱歌の 大合唱

成ったごつ 栄枯盛衰 世の習い

納豆喰う 身体に良いと 納得し

成つとらん スマホ見い見い 聞く訓辞

夏の川 嘗めてかかれば 一大事

夏の川 水遊びする 子もまばら

夏遍路 うがい薬の 麦般若

夏休み 子どもの声の とんとせん

夏休み 孫が曾孫を 引き連れて

何いならん 吾がで決めとる 第三者

何が何でも 国技だったら 横綱に

何が何でも お家芸なら 金メダル

何食わぬ顔 ニンニク食うて よう喋る

何食わぬ顔 眼の縁や紅う なつとらす

何様か 柏手じやろか 合掌か

何様か 何さま伸すの 横着つか

何するか 思い出せずに 元の位置

何はさて置き インフラ整備 食確保

何はさて置き 家族揃って お正月

何はさて置き 最低限の 衣食住

何はさて置き 一風呂浴びて 飲み掛かる

鍋を囲んで 家族団らん 水入らず

鍋を囲んで 酒は温めの 爛でいい

生臭気 酒の肴に ひと小切り

涙 女の武器じゃ なくなつた

涙 気丈な妻を 演じ切り

涙 決して他人には 見せられん

涙 その手に弱い 男衆

涙 見られたくない 胸の内

涙 やつと努力が 報われた

南無大師 同行二人で 遍路する

舐めとらす 怪我さつさんと よかがねえ

舐めとらす 安物ばかり 薦めらす

舐めとらす 独りよがりだ 蚊帳の外

名も知らん 草花なりの 春がある

名も知らん 意味もわからん 歌ばかり

なりゆきで 会長せにゃん 羽目になり

なりゆきで 結ばれた妻 そのまんま

なりゆきで 結ばれちゃった できちゃった

なりゆきで 彼女の部屋で 目が覚めた

成る程ね 説得力の ある話

なるほどねえ スマホが孫の 知恵袋

なるほどねえ にわか仕込の 知恵不足

慣れたもん イビキ歯ぎしり 気にならん

慣れとらす 話し上手で 聞き上手

成れば成る 辛抱する気に 金なる

なん掛かり ようよしズボン 履き替える

難儀して 子は大学に 遊ばせて

何気なし 額縁裏に 手を伸ばし

何気なし 風邪引いとって 風呂入る

何気なし 襖開けたりや 着替え中

何事や 行って集って 見たむなか

熊日
6/20

何しゆうに 子に残そうて せんちやよか

何しゆうに 黄泉で使えん 銭貯めて

何しようか 家は退屈 出れば銭何しようか

何しようか 出掛けようにも 外は雨

何ちゆう事ツか 熊本城も うつ崩えて

何ちゆう事ツか のらりくらの 言い逃れ

何てさな 聞こえん振りだ 地獄耳

何てやあ 俺がすつとに ケチ付くる

なんでんかんでん 都民ファースト 洗い出す

なんでんかんでん マイナンバーが 管理する

何となく 嫌な予感が しょつたと

何となく 胡散臭い 儲け口

何となく 大学までは 出たけれど

何となく 頼りなさそう あの素振り

何となく テロの標的 ジャパニーズ ネット句会2月

何となく B型そうな マイペース

何となく 不安が過ぎる 胸騒ぎ

何となく 結ばれそうな 赤い糸

何度も何度も 入れ歯一本 入れるのに

何度も何度も 打上げよるが 金持ちね

何々な 買い物すつと メモしとく

何遍も 枯らす鉢植え つい買うて

何遍も こそくりながら 使いよる

何も彼も 親なればこそ 出来る世話

何も彼も 為い得んこつあ 神頼み

熊日
9/20

熊日
5/19

何も彼も 専業主婦も やおいかん
何も無か 今日どま早う 寝てみゆうか
似合わない あまりに違う 鍋と蓋
似合わない 着こなし効かん如てなつた
似合わない 自分の歳も きやあ忘れ
似合わない そがにや売り子は 言わんだろ
賑やかさ 柏手響く 初詣
賑やかさ 勝った勝ったで 舞い上がり
賑やかさ 特売場に 人の波
逃げまくり 頭半分 刈り残し
逃げまくり 痛か豆粒 鬼は外
逃げまくり 犯人逮捕 それまでよ
逃げられん ここは男が 引き受けた
逃げられん 蒔いた種は 刈り取らじや
二次会は 愚痴もお酒も 零しおる
にじり寄り やっぱ美人の 側がええ
にじり寄り 利権の甘い いい香り
二代目も 経営不振 父さん似
日没に 八十八の 遍路終え
日曜日 まあだ寝足らん そうなもん
二度三度 声のポリューム 上げおらす
二度三度 自然の猛威 なすがまま
二度三度 振ってすためて 舐りおる
二度三度 見放したのか 神仏
二の膳付き 後の魂胆 見え隠れ

二の膳付き 一度で良かが お招ばれに
二の膳つき おもてなしなら 遠慮無く
にぶい人 乙女心を 察してよ 熊日 3/7
にぶか人 抓つたのに ああ痛か
日本人 標的にする テロリスト
入所後は 老いらくの恋が 花盛り
似れば似る 親に似ん子のおるもんか
似れば似る 五百羅漢に 俺の顔
人気者 面が物言う 無理が利く
ニンニクは 口にや美味かばつ 臭ういね
ぬいぐるみ どつちが抱っこしているの
ぬいぐるみ ふんわり感に 癒される
抜かりは無か 領土交渉 見合う紐
抜かりは無か 吾が貰い分 握つとる
脱ぎ捨てて 朝の寒さは 嘘ん如て
温うして ひつちいでどま 寝られんぞ
温めて喰う 昨夜んカレーの 残りもん
温もつて 冷めた湯たんぽ 邪魔になる
抜け替わり 出番待つとる 永久歯
抜けとらん 運転すれば 引つかかる
抜けとらん 転んでも 只では起きん
抜けとらん 貰えるモノは 何だつて
抜け出せん 淡島さんの 薄笑い
塗ったくり 試供品な 片っ端
暖みだし 神経痛も 大人しか

暖みだし 梅花こぼるる 迎え梅雨
濡れ落ち葉 アッシー君に 天下り
願いごと 神仏とは つきあえん
願いごと 神も仏も そっぽ向き
願いごと 努力もせんで 叶おうに
根が真面目 石部金吉 地で行かす
根が真面目 とんと冗談 通じらん
願わくは 感謝の心と 佛心と
願わくば 患わでにや ピンころり
寝苦しか 嬬の寝相の 見苦しか
猫かぶり 騙され方も 知っちゃおる
寝ころんで テレビは横に ならんどか
寝ころんで 梅雨の明けんと 気の塞ぐ
寝ころんで 猫も退屈 しとるふう
猫だまし 張り手搦ち上げ 横綱が
猫ん如て 勝手気儘に 過ごしたか
猫ん如て 自由気儘に 居場所替え
寝静まり これで仕事の 捗が行く
寝静まり 振り子の音に 目が冴える
寝静まり 夜回りの声 恙なく
寝正月 ダルのひつ付き 重いジゴ
寝たつきり 悠々自適か 高いびき
寝付かれん どうも気のある ふうだった
寝付かれん 何もなかった 初デイト
寝付かれん 待っているのに 未だ来ない

熊日
3/18

熱帯夜 節電よりか 吾が身体
熱帯夜 寝ゴザが何処か あった筈
熱帯夜 腹の中から 冷やしよる
ネット野次 見て見ん振りが できんとか
寝とつても 妻は領土を 占領し
ねぶうなつた お休みなさい 安らかに
寝坊して 事故渋滞の 所為にする
寝坊して 生活リズム きゃあ狂う
寝坊して 昨夜の酒が 祟つとる
ねまつとる 口より先に 鼻先に
眠られん 医者に行くまで 昼寝する ネット句会8月
眠りこけ 夜半の雷 知らじやつた
眠れない 余りに羊 多過ぎる 第6回ねむり川柳
眠れない とうとイビキに 逃げ出あた
眠れない 羊が人を 数えよる
眠れない 優しい妻が 吼えだした
寝る間も惜しみ 生活の足し 手内職
寝る間も惜しみ 大学受験 パスさした
音を上げて きつか仕事に 耐えきらん
音を上げて もう加勢には 来んだらう
年賀状 達者うしとれば そつでよか
年賀状 年ごとに減る 同期生
年賀状 孫甥姪が 増えたもん
年金様々 肩叩く孫 有り難や
年金な 吾がおる使うて 子に孫に

熊日
5/9

ねんぞくな 稼ぎも得んで 高級車
ねんぞくな 下だり向きは まだ早か
ねんぞくな 師匠の恩な きやあ忘れ
年度末 何処も彼処も 掘り返し
年度末 犬もさるけば 工事中
念のため メール見たかと また電話
農機具の ローン払いに 出稼ぎに
農作業 一人でせんちや 加勢すつて
飲うで食て 酔うて唄うて 素寒貧
飲うでみゆう 体に良かと テレシヨップ
脳天気 軽口叩く 会議場
無うなつた 欲も得も 心配も
無うならん いくら引いても また生ゆる
のうのうと 借りたお金も 返えさんで
のうのうと 食ちや寝食ちや寝の 気儘猫
のうのうと シルバー席に ガングロが
のうのうと 人の手柄は 吾が物に
のうのうと また尻拭い させおつて
ノータリン 同じ間違い またさした
ノーリターン 本を貸す馬鹿 返す馬鹿
退き給え 下んだり向きは まだ早か
退き給え 世代交代 妨ぐる
退き給え そこはシルバー 指定席
のけぞつて 誰も相手に して呉れん
残さんで 喰て仕舞わんば ねまるばい

残つとる いつときや古米 喰わんばん
残つとる 飲み上げたろう 戻ろうだ
残りもん 勿体のうして 痩せられん
残り僅か 家さん連れて 帰ろうか
のさつとる 女ばかりか 苦勞にも
のさつとる 富豪でイケメン ババア抜き
のさつとる 主人と子にも 姑にも
のさつとる 晩酌だけは 欠かし無し
のさん 去年新築 したばかり
のさん 今宵は何処で 車中泊
のさん 住所不定の キャンプカー
のさん 二重にローン 払わにゃん
のさん ブルーシートが 吹き剥がれ
のさん 水も電気も 飯もない
のさんぞう おろいかとは よう似とる
のさんぞう 仕込み上げたら 辞めていく
のさんぞう 避難先まで 焼き出され
のさんばい 避難所暮らし 三年も
のすこっか 遺産は呉れる 親は看ん
のすこっか 消費税の また上がる
ノックする こがん時間に 誰っじやるか
喉から手 後腹覚悟 決めらした
喉から手 今の稼ぎじゃ 足の出る
喉から手 切り盛りしても 無理は無理
喉から手 乱れ生しじや 我慢せにや

喉から手 ようも飲まんで おりきった

野に山に 花鳥風月 衣替え

野に山に 春を忘れず 花が咲く

延ばし延ばし とうと手遅れ だっただげな

熊日/4

延ばし延ばし もう催促も 嫌になる

伸び盛り 鴨居にお辞儀 せにやならん

伸び盛り つんつるてんの 服着とる

伸び盛り 縫い上げ解いた 形のある

伸び放題 髪の毛も髭も 生え被り

のほほんと 何時の間にもやら 日の暮れて

飲み会と 言えば閃く 酒の菜

飲み会の 酒は飲んでも 飲まるんな

飲み代は 昔や酒代 今薬代

飲み足らん 酒はまだかて 喚きよる

飲みなっせ 昔や徳利 今薬

飲みやえんと ひっくり返やて 返さした

飲み屋発 飲酒運転 地獄行き

飲み忘れ 残った薬 ゴミ箱に

乗り遅れ 極楽行きは 満員ぞ

乗り気満々 気立ての良さに 惚れられた

ネット句会3月

乗り気満々 見合い作戦 ツーショット

乗り易か 人の煽てと 口車

暖簾のゆ 二つに分けて ひとつ風呂

のん気な人 焦るみんなが お気の毒

のん気な人 空気読むのは 窮屈だ

のん気な人 死期を忘れて 百歳に

のん気な人 急いでへマした 奴笑う

RKK 11月

のん気な人 そんなに急いで どこへ行く

飲んじや寝 喰うちや寝して また太る

飲んだるか 塵籠見たりや 飲うどつた

パーフェクト 世界の不思議 探し当て

パーベキュー 孫の喜ぶ 顔見たさ

パーベキュー ミディアムなんて 言うとれん

パーベキュー やっぱ海鮮 浜んこら

パーベキュー レアで食わんと 他人の口

倍返し エビを贈って 鯛貰う

倍返し 小言無視して 大事に

バイキング すでに別腹 決め込ます

バイキング マナーは皿から こぼれよる

バイキング 勿体ないを 盛り込んで

バイキング 旨まかりそうで 取り過ぎる

廃校の 跡地に残る 金次郎

ハイそれまで 三人居ても 猿知恵か

ハイそれまで どうも勝ち目は なか如たる

熊日 3/16

ハイハイ 犬が這い方 教えよる

ハイハイ えらい気安う 引き受けた

ハイハイ どうせ私が しまえじやろ

ハイハイ 二度と浮気は しまっせん
ハイハイ 孫よ早よ立て 早よ歩け
ハイボール 好きな貴方が ダイスキー
ハイヤ節 踊ってハイヨ 元ハイヤ
入りきらん 器に合うたしこ貰え
入りきらん タダなら欲が 加勢さす
入りきらん 立ち見席でちゃ 仕方なか
入りきらん 服に合わせて ダイエット
蠅叩き 上にとまった 憎い蠅
這えば立て 立てば金喰い 虫となり
齒痒かね 日本横綱 居らんとか
馬鹿たれが 来世もあたと 添うていう
馬鹿たれが 我が子思わん 親おらん
バカぢから ドアの取り手が 捻りきれ
バカぢから 太鼓の革を 打ち破る
ばかど 抄らん 朝の段取り 拙かった
ばかど 抄らん 遊びほどのきの手内職
ばかど 抄らん 材料不足 手間不足
ばかど 抄らん 夜鍋せんなら 間に合わん
ばかど 抄らん 領土問題 戦後処理
バカなこつたい 生きる権利か 核保有
バカなこつたい 手の内見せる 知る権利
馬鹿にして 先に生まれりゃ 先生か
歯が抜けて 「愛してる」とは 本心か
ばかばかしか ガソリン価格 税三つ

ばかばかしか 農機具代の 出稼ぎに
墓参り 造花供えて 年一度
馬鹿らしか 毛生え薬は 銭う捨て
破顔一笑 辛さきつさも 吹き飛うだ
破顔一笑 美人じゃなかが 飽きのこん
破顔一笑 美人じゃなかが やっぱよか
馬鹿んごて 愛しとるてや 気味悪か
馬鹿んごて 飲んで知らんて あるもんか
馬鹿んごて 曲がったこたあ しちやおらん
薄情か そがん子産った 覚や無か
薄情か よかときばかり 諂うて
爆睡 夜半の雷 気付かない
薄氷 足を抱えて 渡りおる
薄氷 ミシツとヒビに 後退り
舶来も 安い時計も 五時は五時
半夏団子 荒神さまに お持て成し
禿げてきた 惜しいこたした 白髪抜き
励まされ 立ち直らんで どうするか
励まそう 坊さん将に 修行中
励みよる 子育てよりも 子づくりに
歯痒らしか 鹿が徒して 仕方無か
歯痒らしか どりややつてみる 俺がする
化けらした 若づくりしても この程度
箱根路を タスキ繫いで 走りぐら
ばさらつか 側でにや仕事 できんばい

ハシゴ癖くせ 昔や飲み屋 今病院
ハシゴ酒 三軒までは 覚えとる
場所が無い 神も仏も 引つ越せん
場所が無い 花は写真で 我慢する
場所が無い 北海道に 来ん相撲
始まった 自慢話は 耳に鮪
走りぐら 何時も後から 二三番
走りぐら まだ孫たちじゃ 負けとらん
恥ずかしい しがん土産みやげじゃ 遣られんぞ
恥ずかしさ 学もなければ 知恵もない
恥ずかしさ 厳しい批判が ブーメラン
恥ずかしさ これじゃ国技と 言われんぞ
恥ずかしさ 素顔のまま インタビュウ
恥ずかしさ 大の大人の するこつか
恥ずかしさ 突っ掛けとって 待ったする
恥ずかしさ 普段着のまま はち来とる
恥ずかしさ 周りはお偉方ばかり
恥ずかしさ 礼節欠いて おらんどか
バス時間 遅れてくれて だんだんな
バスも通わん イノシカチヨウばしじやろうか
バスも通わん 自給自足で 暮らさるる
バスも通わん 静かに余生 送りよる
バスも通わん 住めば都で もう慣れた
バスも通わん 自分の足が 頼りです 熊日4/5
バス旅行 降りるたんびに 土産みやげ買う

挟はそうでくれ 旅行に合わせ 初頭
パソコンで 綺麗に打って 誤字だらけ
パソコンな ちゅうりこうり 為しいならん
パソコンを 筆字ふでじ教えた 子に習う
肌寒はだざんか 伊達だての薄着で 風邪かぜひいた
働き者もん 暗か内から 我慢出さす
パチンコで 損した時や 黙もくつとる
はつきりせえ 常々言うて 聞かせとる
ハックション 口より先に 股押さえ
ハックション パンツの紐ひもを ばっ千切り
八卦はっけ良い 残った年も 来る年も
初参加 若輩たちに 丁寧語
抜歯ばっしして 酎で消毒 口濯ゆすぐ
初スイカ 何人からも 叩かれて
ハッスルして やっぱり餅は 杵搗きぞ
歯はつっこう とうと吾が歯は 無のうなつた
果行はつてえた 台風一過 日本晴れ
抜擢ばつてきも お偉えらいさんの 匙加減さしかげん
パツとせん 見せとうはなか 通知票
初日の出 あれもこれもと 願い過ぎ
初日の出 お願いよりも 先ず感謝
初孫はつもの エコー写真に どっちかな
初詣はつもで 今年や宮ば 替かえてみゆ
初詣はつもで 二千円がと 拝おがん申もす
初詣はつもで 願い事より 先ず感謝

初詣で 孫の分まで 頼ん申し
バツ悪か まさかの所で 出會せて
派手かろか 取っ替えひっ替え 胸に当て
ばてぐるい 我慢しきらん 如てなつた
ばてぐるい 俎板の鯉 逃げられん
バトンタッチ 一号橋の 渡り初め
バトンタッチ かかあ殿下が 樂じゃある
バトンタッチ 男子四百 次は金
バトンタッチ 都民ファースト 頼んだぞ
バトンタッチ ひまわり9 期待され
バトンタッチ もうトランプが 走り出す
花植えて 後の管理は きゃあ忘れ
花植えて 水やり忘れ また枯らし
花咲爺 死んで花実が 咲くもんか
花盛り どうか二三日 降りなすな
放し飼い ちった手綱の 緩め過ぎ
ハナシどん 噛までにや飲うで くっちゃべり
ハナシどん 齒茎でナマコ 追い回し
洩垂れて テカった袖で また拭う
花便り あつてないよな 開花時期
花便り 春はそこまで フクジュソウ
花便り 雪割草が 春を告げ
バナナかな バナナばな んまかばな
離れ島 演歌流して 店の来る

はなれ業 五輪と軍事 一緒くた
はなれ業 制裁決議 何のその
花を撮る 十七・八に 目をつけて
齒の疼く なんなら酒で うがいせろ
齒の抜けて 流動食が よかごたる
母親の 遺影に今日も 声掛けて
母強し 命を掛けて 産み育て
母の味 妻が嫁御が 受け継いで
母の顔 何時もにっこり 穏やかに
母の字の 二つの点は おっぱいぞ
はひふへほ 二乗で笑え わっはっは
はまつとる とうと本樞 張り込うだ
浜ん河原 アサリ漁って 自給食
刃向かえん やっぱ原発 稼働さす
齒向こうて どうせ勝たんた わかつとる
早アもん 抱いた子がもう抱いてきた 熊日
早アもん 曾爺さんに きゃあなつて
早起きし 三社詣りに 行たちくう
早かれ遅かれ 子が片付けば 親の番
早かれ遅かれ みんな一度は 行く冥土
早仕舞い 遅い開店 効率化
早過ぎた 炬燵忍べりや この寒さ
早過ぎた もちった生きて 欲しかった
早とちり 娘の吐き気は 二日酔い
早寝遅起き オールナイトの 夢見とる ネット句会7月

早よせろ 遅い助けは 助からん
早よせんか そんならそうと 早よ言えよ
早よ寝てみゆ テレビ見るより よか夢見ゆ
腹癒せに あらん方さん 道教え
腹一杯 アイスクリーム 別腹に
腹一杯 痩せる薬も 効き目無か
腹下し 梅エキス舐め 利いたふう
腹拵え がまださんなら しこなさん
腹拵え 夜なべしてでも 仕上げなん
腹熟し 初湯になつと 行たちくう
腹熟し 一汗かかにかや 飯やいけん
腹探り 出方次第で 引つ込むる
腹損ね 得知れんもんば 食うでたあ
腹八分 残りの二分は 薬分
腹八分 解つちやいるが 手が伸びる
バラバラ 希望持てない 離党組
腹減った ある物なみんな たいらげた
腹減った 金が無い時や 武士の振り
腹減った 新陳代謝 フル稼働
腹減った 育ち盛りの 胃は二つ
腹減った 並うで待つちや 居りきらん
腹ん塞く 鯖の刺身に 当たらした
腹ん立つ 俺が俺がの 我を捨てろ
腹ん立つ 核保有して しこつとる
腹ん立つ 儘にならない 吾がごちやあ

馬力を出して ご破算だけは 願い下げ
馬力を出して 町の復興 見えてきた
バリユウムも まあまあの味 飲み慣れて
春一番 吹きつらかして ゴミだらけ
払うても 払うても来る 請求書
春うらら 桜も夜鍋せにやならん
春うらら 日向見つけて 猫昼寝
春が来た 炬燵なおして また出して
春財布 診察券で 膨れとる
春たけなわ 花鳥風月 愛で一句
春たけなわ 心うきうき 気はそぞろ
春たけなわ 白黒の娑婆 カラフルに
春の夜の 儂き夢の 腕枕
春は朝 夏は夕暮れ 秋は夜
春はそこまで 選挙の顔が ちらつかす
春はそこまで 花の開花を 待つメジロ
春はそこまで 復旧のメド 立たんまま
春はそこまで 平和が続け 平成後
春はそこまで 雪の下から フキノトウ
春よ来い 鼻歌も出る 早春賦
春らんまん ウメモモサクラ まいっどき
春らんまん 谷間に響く 子らの声
晴れ姿 見せたかったろ 亡き母に
晴れ間には 鉢花たちも 日向ボコ
掃いても 溜まれば溜まる 銀杏の葉

蛮カラー 高下駄履いて 破れ帽子
万歳 お手上げしてる 解散日
万歳か 降参なのか はつきりせえ
万事休す もう辞任せにや しよんなか
万事休す 田植えを前に 田の地割れ
万事休す 避難所までも うつ潰れ
晩酌に やっぱお爛ば つけまつしゅ
晩酌は 息子と同じ量飲ます
絆創膏 貼った貼ったの 相撲取り
半世紀 回顧記録は 反省記
半端じゃか 飲うだ酒瓶 五万本
冷え込もうで 炬燵が足を 引つ込もうだ
冷え込もうで 出るのも億劫 炬燵番
冷えこくり どこもかしこも ひっ縮み
日が沈む シャッターチャンス きゃー逃し
日が昇り 生かされつつも カテーテル
日が昇り 生かされている 有り難さ
日が昇り 老いさらばえて 生かされて
日が昇り 諸行無常に 暮れていく
日が昇り まだ片づかん じれったさ
彼岸会にや だいぶ身感も 良うなつて
彼岸過や 何処も彼処も 草だらけ
引き合わん 送り迎えて 飲ませくわせ
引き合わん 加勢に行つて 風邪もろた
引き合わん 筋肉痛で 医者通い

引き合わん 講釈言うて おろ捌け
引き合わん 五人育てて 誰も看ん
引き合わん 子は大学に 遊ばせて
引き合わん 残業しても 飯も出ん
引き合わん 酒豪も下戸も 割り勘か
引き合わん たばこ時間の 多すぎる
引き合わん 手の込む仕事 したがん
引き受けて 何の役にも 立つとらん
引き合わん 年金貰う前死んだ
弾きもせん ピアノは遂に 引き取られ
卑怯だよ 疑惑隠しの 解散か
卑怯だよ 排除の論理 踏み絵まで
卑怯だよ 名も実もとられ 魂も
卑怯者 胸糞悪か 腹ごなし
引けば引く いっちゃつたとは 太かつた (phishing)
被災地に 真っ先に来い 春日差し
膝カップ 揉み解したりや おろ痛か
ひざ小僧 傷が腕白 物語る
ひざ小僧 抱いて寝た夜に さようなら
ひざの上 ばかいあいする 孫同士
ひざの上 日向の縁で 耳垢とり
ひざの上 我が物顔の ニヤン五郎
ひだるしや 唐芋喰うて 鱈ん菜
ひだる腹 冷や飯ばつて 美味かつた
ヒチ諄か 何年謝罪 せろてかい

ひちくどさ 同じ話を もう五回

ひちくどさ 聞こし召したか ヘゴの露 ネット句会12月六

ひちくどさ たいぎやたいぎやで 諦めろ

ひちくどさ たいぎや酔いの まわらした

ひちくどさ 何遍謝罪 せにゃんかい

ひちくどさ レコード針の 替え時ぞ

七五三 おんぶに抱っこ 手を引いて

七五三 産てば産ったり 二つぶせ

七分咲き 誰か桜を 折ったとは

ひちやかちや 神も仏も 知らぬ振り ネット句会 4月四

ひちやかちや キレイさっぱり 捨てました

ひちやかちや ばてぐるうたつか 肥後ナマズ

引っ掛けて 噛みもせえでん ひん飲うで

引っ掛けて 帰るつもりが ついハシゴ

引っ掛けて ちよつとだけよが 午前様

引っ掛けて やつと似合うた 嫁貰た

ピッカピカ 一年生に なったとね

ピッカピカ 散髪代は 負からんか

ピッカピカ 赤色灯は パトじゃかか

ピッカピカ 電灯無用 エコロ爺

ピッカピカ フラッシュ炊けば 乱反射

ピッカピカ 床も廊下も 磨き上げ

ピッカピカ よか日和しか 乗らっさん

ひっ切り無し 帰省車両が 数珠繋ぎ

ひっ切り無し 苦情電話の 鳴り止まん

ひっ切り無し ジャンボジェットの 離着陸

ひっ切り無し ちった俺にも 喋らせろ

ひっ切り無し 杖突いてどま さるかれん

引っ込んで 年寄りの出る 幕じやなか

引っ込んで ここは私の 出番です

引っ込んで 根掛かりさせた そうにある

ひっちいて 若つか者なら 兎も角も

ひっぱりだこ 神スイングの 始球式

ひっぱりだこ メジャー移籍か 二刀流

秘伝てな 並うだっちゃ 喰てみたか

一足遅れて 慌てる乞食笑い居る

一足遅れて 御衣光桜 真似て散る

ひと足先 かき氷屋の 店開き

ひと足先 ちやんと棺桶 用意さす

人一倍 稼ぎもすれば 飲みもする

人一倍 苦勞が実り 花開く

人一倍 する事あするが 言いもする

人一倍 練習量を こなさした

ひと口が 旨そうばって また太る

ひと口が もうひと口が 欲しくなり

ひと口の 積もりが遂に もう一本

他人事ば 何さすとじゃい 世話なこつ

人だけが どうし忙しか 猫は暇

一つでん 覚えたことは 荷にならん

ひとつ走り 酒が切れたか その早さ

ひとつひとつ 思い出詰まる 品ばかり
ひとつひとつ 他人の仕事に ケチ付ける
ひとつひとつ リボンを付けて プレゼント
ひとつふたつ いいとこ見つけ 誉めてやれ
ひとつふたつ 欠点ぐらい 誰もある
ひとつふたつ 妻に内緒に しとつたつ
ひとつ通り 飲む打つ買うは ご卒業
人並みに 出すとは出して おろ貰え
他人の世話 一銭がつも ならんとに
人の道 恩を忘るな 義理欠くな
人の世は 塞翁が馬 常無らん
一肌脱いで 次代へ残す 技教え
一肌脱いで 伝承芸を 伝授さす
一肌脱いで まあたカップル 取り持たす
一目惚れ 飽きもしないで よう持てた
一目惚れ 毎日見ても 見飽きせん
ひとり言 つまの位牌に 語り掛け
ひとり言 問答してる 猫相手
ひとり立ち おんぶに抱っこ それまでよ
ひとり寝て 逢えぬあなたの 夢を見る
ひとり寝の 夜長を耐えて 夢うつつ
ひとり飯 手っ取り早か 冷や奴
日向ぼこ 雲よお日様 隠さんで
日向ぼこ 先に猫から 場所取られ
日向ぼこ 日照権を 勝ち取らす

日向ぼこ 日焼け止め塗り サングラス
日向ぼこ ビルの谷間で 場所探し
避難先 住所不定の キャンプカー ネット句会6月
避難先 普段着なんの 持ったらん
避難して キャンプ経験 役立った ネット句会6月
ひねくれて せろと言われりや いやになり
火の側と 女御の側は 離れ得ん
火の伽と 仏壇の花 切らすまい
日の長んか 孫が来んなら 徒然なか
火の用心 寒い深夜に 有難う
火の用心 確認油断気のゆるみ
日の悪か 卯みそ寅酒 辰油
批判続出 資源開発 軍事基地
批判続出 面倒見たよ 飴と鞭
暇暮らし 孫の守して いっちよらす
暇さえあれば スマホは離しきらっさん
暇さえあれば 釣竿持つて 出かけおる
暇じゃある 他人が何しゆぞ 勝手じゃろ
暇だけど することもなく 狂句詠む
暇潰し パチンコなつと 弾こうか
閑になりや 忙しかつが やっぱよか
ヒマワリの 最後介錯仕る
日捲りが また剥ぎ取られ 師走風邪
日捲りの 余命カウントダウンする
百円で 善行気分 募金箱

百均で 何でも揃う なかたなか
百歳が 居て赤ちゃんが居ない里
百歳の 大往生に 子が拍手
百姓は お天道さまに 機嫌とり
百姓は 人のさすごて すれば良か
百八の 煩惱払う 除夜の鐘
百薬の長さすがは 医者いらす
百薬の 長と言えども 過ぎりや毒
冷や酒と 親の意見は 後で効く
冷やソーマン 冷えたビールに 冷や奴
冷や水で 言われんごてしゅ 隠居の身
ヒヤリした ガードレールが 近こう寄る
ヒヤリした センターライン はみ出とる
ヒヤリする 一步違えば 谷底ぞ
病院じゃ 半額セール 無かもねろ
病院を あちこち替えち きゃあ死んだ
剽げとる 火男踊り 撮つところ
表彰す 煮付け綺麗に 食たで賞
雹降らせ 雷様が あざ笑ひ
病名に 加齢ちゆうとが あつちやろか
ひよくーつと こがん時間に 誰だろか ネット句会6月
ひよくーつと ハンドル持った まま逝った
ひよくーつと 元カノからの イーメール
火男が 五右衛門風呂の 釜を炊く
火男が 剽げ面して 腰使う

ひよつとして これは畏じゃ なかろうか
ひよつとして のさるかもよと 歯を磨く
ひよつとして 貰うた歳暮 回し物
ひよつとして 元彼の声 じゃったかも
日和は上等 おじやりもうした 種子島
日和は上等 夕焼け空に 鎌を研ぐ
平がよか 上り詰めたりや 世話も世話
蛭が吸う 吸うしこ吸えば 落ちつどう
昼ごはん たった一人じゃ 食う気せん
昼ごはん ラーメン食うて いっちよこう
広いなあ 何はさておき 非常口
広いなあ 丸い地球の 見える灘
広いなあ 燃える太陽 丸呑みに
広かねえ 刈り上げんうち 日の暮るる
広かねえ 元彼の孫 貰うとる
ピンコロリ 口癖なのに 医者通い
ピンコロリ 積もりがやっぱ 医者通い
ひん脱いで おしめイヤがり 逃げ回る
ひん脱いで 人の気配に 狼狽える
ひん脱いで 先ずは一風呂 浴びてから
ひん脱いで 割れた腹筋 見てみさい
品の良さ 色の白さで 徳しとる
ひんぱんに 夜中目が覚め 昼寝する
ひんやりと 打ち水が風 呼うで来た
ひんやりと 呉れたお絞り 首に当て

不愛嬌 男だけんじゃ 済まされん
不安だらけ どうにかなるさ ケセラセラ
不安だらけ 安心の道 探さにゃん
不塩梅 医者は加齢で 片付ける
不塩梅 近頃酒が おろいくる
不塩梅 待合室で 見掛けんが
不塩梅 やっぱハシゴが 噛んちいた
Vサイン 山太郎ガネは 美味かガネ
風神よ ピーエムとやら 吹き遣って
夫婦喧嘩 いつの間にやら 仲直り
夫婦喧嘩 また始まった もう済んだ
風鈴に 風が唄わせ 踊らする
無塩ばな 何さま一切 なめなつせ
不甲斐なか 子は大学に 遊ばせて
分が悪い 在庫ばかりが 山んごつ
分が悪い 追加公認 きゃあするか
吹きさらし 大根干しに 持つてこい
吹きさらし 風光明媚 客まばら
不器用 釘打つ積もり 指を打つ
不器用 雑巾縫いが 関の山
不器用 手作りの味 もう慣れた
不器用 手ば汚さんで 済まざるる
不器用 無かよりまし 手為づくり
不器用 包丁無用 惣菜屋
不器用 ミシンあるのに 仕舞い込み

露の臺 もう出て良かか 覗きよる
不気味でならん またあちこちで 大地震
不気味でならん ミサイル発射 挑発か
福島にや 戻ろう如って 戻られん
福袋 気に入ったつは 何も無か
ふくよかな 七福神な みなメタボ
不景気で 両手を挙げた 招き猫
不経済 封書の通知 利子五円
分限者 有る処にや 人集る
不公平 散髪代は 安うせろ
ふさがって 聞こえん振りを 決め込ます
ふさがって 破裂したなら 命取り
不思議だねえ あればあるもの 雨のねた
不思議だねえ 雷さんは 金が好き
不自由なし みぞがり殺し 愚うたらに
夫唱婦随 我が家は妻が 唱えます
二人限り ある物食うて うちよこう
二人限り 巣立って空いた 子ども部屋
二人限り 掃除する部屋 多過ぎる
二人限り 追い炊きせーじ エコロジー
二人限り 初手より広うなる我が家
二人限り どんこんならん 物忘れ
二人限り また助手席は 別のひと
不調法さ 幾らあっても 足らん皿
不調法さ つい冷食で 済ませよる

不調法さ 手を汚すのが 億劫おっくうで
不調法さ また夕飯は 店屋物
不調法さ 俎板まないたい要らん 冷食で
二日酔い しない薬が あればとて
二日酔い ちったハシゴの 過ぎたばい
二日酔い まちった寝せて いっちよこう
物故者が 初手しよてん話に 出てこらす
ぶっ魂消たまげ 早稲ん婿殿 虫脅し
ぶっ続け 休肝日など あろうかい
ぶっ飛ばせ 特急便で あの世行き
ふてぶてしい 猫が座椅子で 丸くなり
ふてぶてしい 脇見て顎を しゃくるだけ
太うこもう 千切つて丸め 飾り餅
太つとる 痩せたかばつて 飯や美味か
太っ腹 四の五の言わず 張り込ます
太っ腹 見掛けばかり 気の細か
不便だね メール見たかと 電話する
ふゆうじの 節句働き 物笑い
武勇伝 術後の傷を 見せ合うて
冬支度 半分出して いっちよこう
冬支度 布団出したり 仕舞うたり
冬になりや 夏のほうが よかったぞ
ぶら下がり 服に合わせて ダイエット
ふらついて 赤提灯の 招きよる
ふらついて つつ転ころけんごつ ご用心

フラフラ 赤提灯が 寄ってくる
フラフラ まだ帰宅しそうにもない
Bravo 拍手喝采はくしゅがっさい 鳴り止まん
振り返り 回り道して まだ半ば
振り返り 何と素敵な お嬢さん
振り返り 昔はもてた こともある
振り返りや 悲喜交々の 半世紀
降り被り 干した布団が 気が気じゃか
振り切つて 昔は親が 今は子が
振り切つて 嫁つたばつて きゃあ戻り
振り向くな 後ろ姿に 惚ほれくうだ
古い話 家内かうちにや言うて 呉くれなすな
古い話 波瀾はらん万丈 回顧録
古い話 よう覚えとる 惚ほけじゃなか
故郷納税 とうとパナマは さで下おれた
故郷を 遠く離れて 六十年
古女房 クーリングオフ 期限切れ
ぶるぶる まだでん揺れの おさまらん
無礼講 お前まへが言うか 無礼者
無礼講 上座じやうざに二歳にせが どん座り
無礼講 上司じょうしに絡み とばされた
無礼講 マジに受けたら すぐ左遷
プレゼント そつと真心 包み込み
プレゼント 贈り上手で 貰い下手
プレゼント ユウの人柄 垣間見え

降れば降る 日んが毎日 テレビ番
降れば降る バケツひっくり返やたごて
降れば降る 降らせ過ぎばな 八代亜紀
風呂上がり 息もつかんで ぎゅぎゅうつと
風呂上がり 服は着らんで 逃げ回り
プロ選手 スポーツマンの 裏表
プロポーズ 決め手はやっぱ マイホーム
不和のもと 貸すな借りるな 義理欠くな
踏んだり蹴ったり 進路予報は 避難先
平気です 貯えだけは ちゃんとある
平気です 叩かれ強う なつちやおる
平気です 飛び降りたって パラショック
平気です 他人に無かもん 持ってます
日暮で あった物食て いっちよこう
へごちやご言うて 頭下げみち 知らっさん
へごちやご言うて 頭も下げず 辞むっとか
へゴの露 足取らるつと 露知らず
ベジダブル 虫が食わんごて 葉掛け
へそくりの 隠し場所まで きゃー忘れ
下手糞ちや 数撃ちや当たる 鉄砲撃ち
下手の横好き 傍迷惑も 程々に
下手の横好き 本人自慢 はた我慢
へっちららで 岩山走る ダウンヒル
へっちららで 世渡り実は 綱渡り
ぺっちゃんこ 子に吸い取られ ノーブラに

ぺっちゃんこ 金運財布 すぐカラに
別腹が また邪魔をする ダイエット
別嬪さん 追い掛けたって 逃げ上手
別嬪さん 手招きしても 知らん振り
屁の河童 打たれて凹む やわじやなか
屁の河童 掛かってこいと のたもうた
屁の河童 どん底暮らし 絶えてきた 熊日
屁の河童 他人の噂は 知っちゃおる 4/15
屁の河童 三つで泳ぎ 覚えたつ
部屋から部屋 スマホで「ごはんできたわよ」
部屋から部屋 苦手力士の 胸を借り
部屋から部屋 ノックご無用 ふすま越し
部屋から部屋 ふすま開いて 大広間
ヘルパーが 来るころだけん 片付けにや
ヘルパーに 抱かれ爺ちゃんコチョコチに
減るばかり 稼ぎがなくて 使うだけ
減るばかり タンス貯金に 羽根が生え
減るばかり とつて減らした 歳ばかり
返事の軽さ 断れんしこ はずみよる
返事の軽さ 仕事貰えりや 良しとする
変なくせ 外で飲んでも また家で ネット句会5月
変なくせ 混ぜて飲んでも 何のその
変なくせ ねえベッドまで 抱っこして
便利さに 不便なお釣り ついてくる
便利さも 面倒くさい パスワード

遍路さん 暑か時どま 麦般若
防衛に 金は出すから 守ってね
方角違い 頭使わん方に行く
方角違い 庶民に味方せん政治
方言は 使わんならば 消えていく
坊さんの 引くに引けない 後ろ髪
方図も無や そがん狡して よかもんか
暴走車 やかましゆうして のすこつか
ボーナス すでに出口は 決まっとる
ホーホケキョ 練習中は ちゃっっちゃっや
忘年会 頭の中は 余興だけ
忘年会 送り迎えは 旦那てや
忘年会 仕事のことも 吹っ飛んだ
忘年会 密かに稽古 隠し芸
忘年会 余興出し物 稽古中
防波堤 竿を片手に 握り飯
防波堤 恬としている おかあちゃん
防波堤 秘書が秘書がで 逃げ果す
防波堤 昔の親は 強かった
ほうぼうから 大丈夫かと ボランテイヤ
ほうぼうから 地震お見舞い 義援金
ほうりやみる 言わんこっじゃか 咳しよる
僕もわからん 今泣いとって もう笑う
僕もわからん 嬉しいちゆうて 泣く女

惚け出やーた 二人でやっと 一人前
惚け出やーて 総身に知恵の 回り兼ね
ポケットマネー 赤提灯が 関の山
ポケットマネー あるわけ無いよ お坊さん
ポケットマネー 俺と総理じゃ 違いすぎ
ポケットマネー 二三軒なら 大丈夫
惚けとらん 初手んこたあ 覚えとる
惚けとらん 徘徊しても 家路まで
惚けとらん 惚れた女の 誕生日
ポケモンで 俺は退けもん 妙なもん
惚け予防 よぼよぼしてちゃ 散歩さす
埃かぶって 阿弥陀如来が お気の毒 熊日 7/15
埃かぶって 毛バタキやどこか なおしこみ
欲しがられ 時を逃せば 売れ残る
欲しがられ 半分なっと 上げもそう
欲しがられ 喜ぶ顔も 半分こ
ボスじゃある 指揮をとりとり 士気あぐる
補正して 体に合わす 巧技 (Fashionreform)
ポツカポカ 陽気で桜 開花させ
坊ちゃんて もうは言わんで くれんかい
ポツン 終点からが 五キロある
ポツン 取り残された 過疎の村
布袋さん 日本のサンタ かもしれん
火照る面 よか風呂ですな 顔なじみ
ほとほと閉口 相手の身にも なってみる

ほとほと閉口 またも切り札 ジョーカーか

骨折って 棚田を守る 爺と婆

骨折って 残した美田 休耕地

誉め千切り 値切る魂胆 恵比寿市

法螺吹きが 頓珍漢な 口叩く

ボランテイヤ ずぼらする人 気が知れん

ボランテイヤ 飲み会目当て 無欠席

掘り返し 年度末まで 使い切る (予算消化)

ポリバケツ ビールがよく冷えてます

ほろ酔いで ついお年玉 はずみ過ぎ

本卦還り 老いては再び 稚児になり

本渡瀬戸 潮ん引いたら 徒歩渡り

盆殿にや 先祖様への お持て成し

盆前に 初穂の米も 忍べ終え

本なこつ 冗談言うても 通じらん

本の山 人が触れば すぐわかる

本の山 書棚よりかも 探しよか

まあいいか 知らん振りして いっちよこう

まあ落ち着け 電源切った 靴履いた

まあ落ち着け 残りくじにも 福はある

まあ座れ 言いたいことは 解つとる

まあ座れ お前のために 言うておく

まあ座れ 急いては事を 為損じる

まあ座れ もだゆれろくなことはなか

熊日
6/9

まあだ幼い 当てにしている 七光り

まあだ幼い 体格だけは 早生太り

まあだ幼い ひとりでつかい 行けるどか

まあだだよ 迎えに来んちゃ 俺が行く

まあだまだ 喋り足らんし 飲み足らん

まあだまだ そんなに娑婆は 甘くない

まあだまだ 他人の飯の 食い足らん

まあだまだ 一人じゃ何も しいきらん

まあだまだ 野菜畑にや 降り足らん

まあだ寝とる 戻ってみれば もう寝とる

まあだピーピー 家のローンが 残つとる

まあ早さ 終活まずは 墓地を買う

まあ早さ テレビはつけたままねとる

まあ早さ 結婚式に 抱いてきた

まあ早さ 臍の緒つけたまま歩く

まあ早さ ボルトは息を 止めたまま

マイカーが 八十過ぎて 車椅子

マイカーは 俺の運転 妻所有

毎食後 持病の薬 欠かされん

まいつとき 我慢しとけば 子が稼ぐ

毎度毎度 期待もてない マニフェスト

毎度毎度 心こもった お中元

マイペース 人の話の 腰折って

マイホーム 俺の居場所は ナイホーム

熊日
7/11

参りました 驕りが民に 怒られた

参りました 驕る政治家 セカンドに

前の晩から 三段重の 作り置き

前の晩から どれにしようか 服選び

前向きに 俺を励ます 駐車場

前を向き 立ち直らんで どうするか ネット句会2月

前を向き へこたれとつて どうしゆうに

前を向き 迷わず一步 踏み出やた

前を向き 脇目も振らず 駆け抜ける

真央だけは きゃあ転んでも 鼻屑目に

任せとけ 叩いた胸の 薄かこつ

紛らわし 同じ器に 入れとつと

まぎれ込み 客の振りして 味見さす

まぎれ込み 分別しゆうて やおいかん

枕呉れ 此処にや私の 膝のある

枕なら 此処にあるのに 腕枕

負けてくれ 髪の毛の数 少なかる

負けられん がっぷり四つで 綱狙う

孫が聞く バア婆の味が 母の味?

孫が寝て 大吟醸で 飲み直し

まこてばえ 稼ぎきつとき 稼がんば

孫の来て 勝手知つたる 捜し物

孫の為 爺が一肌 脱ごうわい

孫の名は 読みも得んば 書きも得ん

孫離れ バーベキューでちゃ もう釣れん

まずい 選別されて 彷徨うて ネット句会10月

マスクせにや またピイエムが 飛来する

マスクマン 挨拶あしたが 誰っじやいろ

先ず手本 大人が変わりや 子も変わる

混ぜくつて くじ引きしたりや 大当たり

混ぜくつて 新米古米 解るまい

混ぜくつて 人の気持ちも 知らないで

混ぜたくり 分けて資源に すれよかて

混ぜたくり どりがどりじやい 判りやせん

また会おで 生き長らえて 杖ちいて

まだ明つか 飲み掛かつとにや 気の毒つか

まだ明つか もう一仕事 我慢出そう

まだ言うか 往生際の 悪いもん

またおらん 出たきり老人 どこさるく

まだ現役 定年のない 腕のある

まだ懲りん 失敗せんば 止めきらん

また来んね 本気にしたりや また来たね

また地震 ぐらつとすれば 跳び起きる

また地震 誰も彼もが 震度計

また地震 なあんだ妻の寝返りか

またしても 五輪トラブル 無駄遣い

まだ遠か 足腰鍛えた 甲斐のあり

まだ遠か 油の切れはせんいろ

まだ遠か 生きとる内に 国交を

まだ遠か 三具架橋は 夢の夢

又とない 生きとるさは ありつけん

又とない 生きとるうちに 拝んどこ

まだ寝とる 添い寝した子は おずどつて

また一人 逝く人絶えず 春彼岸

また揺れた 二階の部屋が 震源地

まだ余震 避難バツクは 手放せん ネット句会6月

待たんかい 聞き捨て成らん そのことば

待合室 会える間は 増しなほう

待合室 早よ行かんと 座られん

待合室 不按配なら 来れぬ筈

待ち合わせ 今見た時計 また見よる

待ち合わせ 早めに来てても もう来とる

待ち合わせ もうドキドキは のうなつた

間違いのもの 口約束の 担保無し

間違いのもの 四十後家とは 旅するな

間違いのもの 飲んだら乗るな 飲ますんな

間違うて 鏡の吾がに 話しかけ ネット句会3月

間違うて ぐいと焼酎 ひん飲うだ

待ちきらん やあやあ言われ せからしか

待ち長さ 何時の事やら マイホーム

待ち長さ 爛がつくまで 冷やを飲む

待ち長さ プーチン時間ばしじやろか

待ち長さ 罹災証明 瓦礫処理
街なかのカラス 美味かつ食うて 肥え膨れ

街なかのカラス 餌に不自由 なかごたる

街なかのカラス 人様よりも 贅沢つか

街なかのカラス 夜遊び癖の ひつついて

街なかのカラス 洋食が好きそうにある

待ちなつせ そがん急で どけ行くと

待ち長さ 採用通知 まだ来んか

待ちぼうけ 運休するなら 早う言え

待ちぼうけ とうと料理は 冷めちやつた

真つ黒 確証なしで また不起訴

真つ黒 秋の味覚の サンマ焼く

真つ黒 記憶がないし 記録さえ

真つ黒 ハワイで暮らす ことにした

真つ青 詐欺とは知らず 出資金

真つ青 みたむ無ア 品格よりも 力づく

真つ先に 流行病を 取り込もうだ

真つ先に 眼で味見する さくらんぼ

真つ直ぐに 生きて来たのに 曲がる腰

真つ直ぐに 帰ってみれば 家内留守

真つ直ぐに レーダー見れば まっぼしぞ

真つ直ぐに 負けた横綱 まだ不服

真つ直ぐに 待ち草臥れた 阿蘇ルート

真つ直ぐに 仮設出るにも メドたたん

真つ直ぐに 排除した身が 排除され

真つ直ぐに 待つてます あんたの釣果 当てにして

待ってます 熊本城の あの雄姿
待ってます ブルーシートの 無くなる日
待ってみろ まあだ話しは 済んどらん
待ってみろ ゆう考えて 返事する
待てど来ん 磯で独り寝 させらるる
まてまてまて 二次会場は 俺が持つ
纏まって 特産品で 町興し
纏まって 圃場整備で 近代化
組板の 出番無くなり チン料理
学舎は 記念碑だけで 姿あなか
間に合わん 親の臨終 赴任先
間に合わん 片っ端から 平らげて
間に合わん 好きなあの娘は 嫁らした
間に合わん 作る人より 食べる人
間に合わん トイレの前に 人の列
真似しごろ 親のする事あ じき真似る
真似ができない かなり苦労も 多かろう
真似ができない 相当鍛え らしたふう 熊日
真似ができない 伊達にや場数 踏んどらん 6/24
まぶしい ギンギラギンに ハイライト
まぶしい フラッシュ浴びて インタビュー
忠実からす 隅にや置けん 鞆の中
忠実なもん お勤め前の 朝仕事
豆まき 鬼から親父 追い出され
眉唾ぞ 聞いた話と えりや違い

迷い無く 生きてきたのに 道迷い
まるで夢 摘出された 胆石に
まるで夢 昔は総て 手作業で
丸儲け 持参金付き 美人妻
丸儲け すくうたエビで タイ釣った
まわり道 捲土重来 期さじやこて
まわり道 伊達にや場数 踏んどらん
まわり道 何様早う 橋架けて
まわり道 無駄じゃなかつた 成し遂げた
満開に 孫が連れ出す 車椅子
満月の 浮かぶ盃 ぐいと飲む
真ん中あたり これから先が 勝負どこ
真ん中あたり 孫の成績 親譲り
万歩計 手でも揺すって 加勢さす
見いきらん 包帯取って 見ろちゆわす
身内でん 金の貸し借り 不和の元
見栄を張り お家ガラガラ 火の車
見えん 野党共闘 何目指す
見限って 医者が坊主に 鞍替えし
ミカンの木 酸いも甘いも 生り分けて
身寒のよさ 野良仕事にも 扱がいく ネット句会11月
身寒のよさ 化粧直し せんでよか
右も左も 知らん場所でも 行けるナビ
右も左も 花に埋もれ 棺の中
右も左も 判らんままで 嫁らした

見切り品 値切る積もりの 誉め千切り
見比べて よその嫁ごが 良う見ゆる
見苦しか さつさと議員 辞めなつせ
見苦しか 無精髭どま 剃りなつせ
見苦しか まあだつべこべ言うとかい
未經験 そこは彼女に リードされ
見事なもん H難度の 捻り技
見事なもん ボルトに引けを とつとらん
見頃なら やつぱ盛りの 一寸前
ミサイルが 主権国家の 自衛措置
見知らん人 一献如何 無塩ばな
見知らん人 子を取り持った 保護者会
見知らん人 差しつ差されつ なめなつせ
ミシン掛け 雑巾以外 縫えません
ミシン掛け 手間暇掛けたがつはにやあ
ミシン掛け とうと諦め ぶら下がり
ミシン掛け ドレスは母の 手作りぞ
見透かされ 奥さんちゆわれて 慌てらす
見透かされ 繕おうてちゃ やおいかん
水回り 妻が設計 役回り
無惨気か 鳥インフルで 殺処分
無惨な気 孫には食い扶持 残しとこ
みぞかねえ 時間よ止まれ そのまんま
みぞかねえ とつて食いたい 孫娘
みぞかねえ 孫はなしてか おれ似とる

みぞかねえ 目に入れたこた なかばつて
みぞかねえ 忘れてにや来る ツバクラメ
みぞか孫 似ても似つかぬ 憎い嫁
みぞがられ 養い殺れて 木偶の坊
見たかねえ 東京五輪 決算書 ネット句会4月
みたむ無ア 外車に乗つて 脛かじる
みたむ無ア 歳に似合わず 派手好み
みたむ無ア 飲む買う撃つで 潰さした
みたむ無ア 品格よりも 力づく
みたむ無ア 浴衣なつと 羽織らんか
みたむ無ア 横綱までも 体躲す
みたむ無ア わが婿殿の 恥さらす
見たり聞いたり 出来ないくせに 理屈言う
見たり聞いたり 孫は何でも 知っている
乱れ生し おんぶにだっこ 手を引いて
乱れ生し 節約しても 追い付かん
乱れ生し 嫁ぎ先から 脛かじる
見違えた 馬がレディーに なつとらす
見違えた 形見着とれば 瓜二つ
見違えた 馬子にも衣装 ちゆうもんな ネット句会7月
見違えた 鳶が鷹ン子 連れとらす
道標 ナビより詳しい カカーナビ (navigation)
見ちやおれん ナイフはこがんで使う
見ちやおれん 恥や外聞 憚らず
見ちやおれん 路上でキッス しくさつて

蜜かけ 脳の随まで キンときた

見つからん ほたくり出して 仕舞わした

身づくろい 白装束に 遍路笠

身づくろい 大事な人が 待ってるの

見つめ合い 連れ添うたに 睨み合い

見てちようだい 愛の結晶 七五三

見てちようだい 開きすぎかしら 胸の線

見てちようだい 踊る子よりも 見てる親

見てちようだい 親バカ振りも 気付かんで

見てちようだい 親より爺に よう似とる R K K 6

見てちようだい 今朝の熊日 肥後狂句

見てちようだい これが叙勲の 写真たい

見てちようだい 主役は俺の 孫ばいた

見てちようだい 全国版に 載つとつと

見てちようだい ちよつとだけよ あなただけ

見てちようだい ちらつとテレビに 出とらした

見てちようだい チラリぐらいが 丁度良い

見てちようだい パパの似顔絵 鼻の下

見て学ぶ 親の背中が 子の手本

見てみさい 他人の手際は 盗み取れ

皆の衆 宗派を問わぬ 皆の宗

見なはり 踊る子よりか 見てる親

見なはり 歳甲斐もなか 鼻の下

皆平等 起きて半畳 寝て一畳

身の危険 慮って 差し止むる

身の破滅 宝くじから 狂わした

見張りする 案山子とカラスの 知恵比べ

耳鳴りを 暫し忘れる ホーホケキヨ

耳元に 蚊の一匹が 眠らせん

見ゆるささ 良か日和りには 草筆り

夫婦ばり 旅行三昧 良かいちり

妙なもの 今注いだとに 漏つとる

妙なもの 親は大したことなか

妙なもの 陽の照つとつて 雨ん降る

妙なもの 不倫当選 ハゲは落ち

魅力無か 目薬なのに あくんする

見る見る内 家が中まで 水浸し

見る見る内 田畑も道も 丸呑みに

見渡す限り 起きてびっくり 銀世界

見渡す限り 白一色に 雪化粧

見渡す限り 秀でた人も 居らんふう

見渡す限り またもPM 撒き散らし

身を賭して 見事変身 銀世界

みんな一緒 死ぬときや一人 無一文

みんな一緒 損するよりも 儲けたい

みんな一緒 出すより入る 方が良か

みんな師走 朝茶も受けず 果行かす

みんな師走 あれこれせにゃん こつばかり
みんな師走 片付かんこつ 多すぎる
みんな師走 昼飯や立って 掻き込ます
みんな師走 忘年会は 何時しゅうか
民泊ブーム 習い始めた 英会話
むうらしか たいぎやで梅雨は 明けんどか
迎え火の LEDは 今風ぞ
昔ながら 杵搗き餅が やっぱよか
昔ながら 棚田は今も まだ手植え
昔ながら 薪焚き風呂が あったまる
昔ながら 虫追い祭り 無農薬
むかつ腹 どがしこ飲うでも 酔いもせん
無我夢中 カニ食う時は 何故無口
無我夢中 子ども三人 育て上げ
無我夢中 子はうっちよいて 弾きよる
麦^{しの}取納 脱穀後の むつ痒^かか
向き向きに 合わせリメイクして呉るる
向き向きに 品数揃え やおいかん
むさくるしい お茶出されても 手の出らん
むさくるしい その髭面じゃ もてん筈
むさくるしい たまにや空気 入れ替ゆう
虫食^{むしく}れが これぞ誠の 無農薬
虫食^{むしく}れが これぞ誠の 無農薬
虫食^{むしく}れは 安全保障 自家消費
虫食^{むしく}れに わが家自慢の 無農薬

虫の声 月の夜に聞く ノクターン
虫干^{むずか}しで 畳^たうでなわす 思い出も
難^{むずか}しか 綱渡りより 世渡りが
難^{むずか}しく 考えもせず 生きて見せ
息子から 貰^{もろ}た小遣い 孫に遣る
むずむず 今か今かと 出番待つ
むずむず 俺の出番だ 腕が鳴る
むずむず とうと黙って おりきらん
むずむず 目汁鼻汁 花粉症
娘盛り あんな昔に 戻りちやあ
娘盛り 花の命の 放浪記 ネット句会 9月八
無税てた 一千万ば 孫ん為
むぞらしさ 飼い主知って しっぱ振る
むぞらしさ 汚れ知らないままでいて
むぞらしさ 座席譲って 手を添えて
むぞらしさ 四五年経てば 憎らつさ
むぞらしさ 歩道渡って お辞儀する
無駄使い 水道工事は 舗装後
無駄な物 捨てると言うて 捨てられた
無茶ですよ お客さんにも 茶も出ない
無茶ですよ 入れ歯でビール 開けおらす
無茶ですよ 薬をお茶で 飲みおらす
無茶ですよ コンピューターと 囲碁将棋
無茶ですよ 退院祝いで 二日酔い
無頓着^{むとんちやく} 共同責任 無責任

胸^{むなつ}付けに 抓^{つま}み食いせにや 待ち切らん
胸^{むなつ}キューン ハンカチ王子 あの仕事^{しぐさ}

無農薬 安全だけん 虫が食う

無農薬 こだわるくせに 薬^づ浸^け

村祭り 並ぶ出店に 人^{ひと}集^{たか}り

無理言うな 美しく老いる 筈^{はず}がなか

無理し過ぎ 両方立てれば 身が立たん

無理でしょう 高嶺の花に プロポーズ

無理でしょう 努力もせんで 神頼み ネット句会 10月

無理でしよう 二転三転 迷いよる

無理も無か あがんで食うなら 太るはず

無理も無か 親が親なら 子も子たい

無理も無か 勝てる相手じゃ なかったつ

無理も無か 世間知らずの 籠^{かご}の鳥

無理も無か 奴が一枚 上じやつた

無理を言うな 退院祝いに 飲めという

無理を言うな 妻の両親 看る羽目に

酩酊して 有り金はたき 素寒^{すかん}貧^{ひん}

酩酊して 家に着くまで 覚え無か

冥土のみやげ 小切手帖も 持って行こ

冥土のみやげ 物より金が 良くなかか

迷惑な 洗濯物に ヘエの降る

迷惑なはなし 野菜^{やしや}畑^が 灰被り

迷惑なはなし 収穫前に 猪め

夫婦茶碗 大で食うのは いつも妻

熊日
2/28

目が合うて 頷き合うて チェックイン
眼鏡^{めがね}がね 無ければ先が 見えんとよ

めくじら立てて 言うて世間が どう変わる

めくじら立てて 意見する気も 無くなつた

めくじら立てて 一喝^{いっかく}囃^はませ 黙らせる

めくばせで 今日^{けふ}は良かよと 合図^{あず}する (wink)

恵まれて 金はなくても 食ていける

巡り会い あれよあれよと 夜半^{よわ}の月

目覚^{めざま}しが 寝坊^{ねぼう}したのか まだ鳴らん

目覚^{めざま}しの チャボが時には 朝寝^{あそ}する

目覚^{めざま}しの 鳴る前^{まへ}起きて 暇潰^{ひまつぶ}す

目覚^{めざま}しの ベルはまだかと ネジを巻く

めしの種 嫌な仕事も 厭わない

めしの種 楽に稼いで 趣味生かし

飯前に 下げて頂く 御仏飯^{おぶつはん}

飯や要らん 流動食で 我慢^{がまん}する

飯ん菜 期限切れは オレの皿

飯ん菜 山菜^{さんさい}あれば そつで良か

飯ん菜 高菜漬^{たかさい}け物 あつたかな

飯ん菜 ワラビにタラに フキにツワ

珍しさ とうと飲まんて つきあわす

珍しさ 股大根^{こおろし}な 男ん子

珍しさ 南の島に 雪が降る

珍^{めづ}っせ どこそこ眺^めめ 去^さる来^くつた

滅多^{めつた}なか 鑑定結果 柿右衛門 (お宝)

目出度さも どころころろの 俺が春
目で判る ちった気のある 如つとん
目に見えん ものにも感謝 あればこそ
目の合うて どうも包丁 入れにつか
眼の手術 娑婆が綺麗に 見え過ぎる
芽は摘むな 子どんが好きに させてやれ
メモ帳を 置いた所ば メモしとく
メモ帳を 探す間に 用忘れ
目をこすり 捻り鉢巻き 受験生
目をこすり 火熾し吹くばつ 炊きつかん
目をこすり 間違いじゃなか 大当たり
目をつけて 一番成りは 鳥の餌
目をつけて 熟るる端から 突つ抉る
目をつけて 素質見込んで 後継がす
目をつけて まだ伸び代を 持っている
目を細め 字の小もうして 読みきらん
面倒か 聞こえん振りを 決め込もう
面倒さ 査定基準が どうのこの
面倒さ たったぎやしこば 貰うとに
面倒そう いっそ独りで きゃーおろう
面倒そう しやつちが手植え せにやんとか
面倒そう ミシン出す間に きゃあ縫おう
面倒そう レシピ見たけど 具材がね
面倒そう 僅かな補助に 申請書 熊日
もう飽きた 三日も同じ 貰い物 4/13

もういいよ カラスに匂を 教えられ
もう一本 検診結果 異常なし
もう一本 妻もほろ酔い 子の帰省
もう嫌 草引きばかり また生えて
もう嫌 出鼻くじかれ やる気なし
もう嫌 透析針は 見とうなか
もう嫌 飲兵衛亭主 朝帰り
もう嫌 来世は他ん夫が良か
もう要らん 三日も同じ 菜ばっかり
もう追い追い お呼びの掛かる 歳になり
もう追い追い 鎮まり賜え ナマズ殿
もうおまけ どがんでんよか 息しよる
もう遅か 積もる話しは また明日
儲け出し 二次会場で ハバ利かす
もう来らす 長夜を待つて 夜が明けた
もう懲り懲り オレと言わずに ボクと言え
もう懲り懲り 儲け話にや 騙されん
もう懲りた 悲惨な戦 しちゃいかん
もう時間 話の続きは 二次会で
もう終い 嬢に杯 押っ盗られ
もうしまい 醜めて飲うで 帰らした ネット句会3月
もうしまい 人手に渡る 家屋敷
もうしまい 昼の分まで いち食うて
もうしまい 年金日まで ツケといて
猛暑日 ツケが回った 電気代

申し訳程度 さつと一降り 通り雨

申し訳程度 ボーナズ擬き 配らした

もうたくさん 言い訳せずに 辞めちまえ ネット句会3月8

もうたくさん 浮気相手と 幸せに

もうたくさん 天変地異の 罰当たり

もう頼まん 長うかかって 高こちいた

もう頼まん 値段がたなか 不細工つか

もう頼まん 吾がでしたが まーだ増し

もうちつた 増しな男は 居らんどか

もう一寸 まあだ納骨 しとうなか

もう慣れた 何遍来ても 狼狽えん

もう慣れた 寝言歯ざしり 高軒

もう二十歳 自分の足で 歩かじや

もうは寝ゆう 午前様にや 付き合えん

もうよか 思い残しは 何もなか ネット句会6月佳

もうよかる 釣っても料理 しこなさん

もう止そう 集中できん 負けが込む

もう止そう 済んだことは 仕様んなか

もう止そう どこもかしこも ファーストか

もう止そう 何試しても ブウはブウ

もう止そう 何度禁煙 したとか

モグサの火 見えんどばって 燃えとつと

もだえんか 早よ取り込みにや 雨ん降る

もだえんか 三步以上は 駆け足で

もだえんか 団体さんの ご到着

もだえんか 布団取り込め 降り出した

もだえんか 待つとき得んで 果行かす

もだゆんな お釈迦さんまだ寝てござる

もだゆんな 急いては事を 為損ずる

持たん振り ここは甘えて いっちょこ

持たん振り テロの策略 躲しよる

餅や搗いた 掛や払うたばつ 歳や要らん

勿体無か 食い残すなら 余計取んな

勿体無か 枯らす鉢植え また買うて

勿体無か 賞味期限な 過ぎちやおる

勿体無か 遂に我が家も ゴミ屋敷

勿体無か 履かれん靴が 何足も

勿体無か ビール買えない 人もいる

勿体無か 餅肌じゃって 塗った練り

以ての外 くんだり向きに 青二才が

持った人 使い上手で 貯め上手

もつての外 餓えより核の 開発か

持ってる人 期待する人 裏切らん 熊日 2/25

持ってる人 給料前も 朝帰り

持ってる人 ここ一番で 仕事さす

もつともつと さすが持ち物から違う

もつともつと 高く綺麗に 早く跳べ

もつともつと ちゃんこ食え食え 太鼓腹

持て余し 何時もサンデー 暇と金

下暗し 近して見えん 吾がマツゲ
もと彼 出世したばい あの羽振り
もと彼 生活力が 今ひとつ
もと彼 はがいか美人貰うとらす
戻られん あの世はそうにや よか処
戻ろうか 今夜食うしこ 釣ればよか
戻ろうか 女房の角が 目に浮かぶ
モノリザ 俺の方見て 微笑んだ
モノリザ 怒った顔が 見てみたか
物差し片手 国を支える 物作り
物差し片手 人の心を 推しはかる
ものしずか いつもにっこり 聞き役で
ものしずか 出席してにや おんなした
ものしずか 端が急いても 狼狽えん
ものしずか 太か声どま 出さっさん
物好き 他人の世話より 早よ貰え
物になる 機転は利くし 手も器用
物になる 仕込んでやった 甲斐のある
ものの見事 餌だけ取って 逃げられた
ものの見事 大横綱を 裏返し
ものの見事 小兵業師の 上手投げ
ものの見事 師匠も唸り 太鼓判
ものは試し 一日主婦を させてみる
ものはためし 性に合うたか 病み付きに
ものはためし 激瘦せサプリ 飲んでみる

ものは試し ドローン試乗 してみた
物忘れ 晩酌だけは 覚えとる
物忘れ 惚けじゃかと 負け惜しみ
物忘れ 予防サプリを 飲み忘れ
もの笑い 知ったか振りで 里が知れ
もみ消して 誰も真相 知らっさん
もみ消して メディアも知らん 如るふう
貰い物 タダより高か 物ななか
貰い物 何事じゃろか 赤飯は
盛り上がり おつかない顔 ふとよぎる
盛り上がり 上座も下も 無うしなり
盛り上がり 最終便に うちよかれ
盛り上がり 同窓会の 朝帰り
貰たまま 埃被った 引き出物
門構え それなりに寄付はずまじやあ
門構え 真っ先に行く 奉加帳
文句あり 他人には人の 考えが
文句言い 腹が減ったら 食いよつた
文句なし 見る目は同じ ジイ難度
文句なし 息子の嫁に 貰いたい
文句なし 家内にやとても 背けない
物足らん 味見してみる 塩調味
物足らん 今いち味の 薄かった
物足らん やっぱウナギは 国産ぞ
やいやもう いっっちゃったとは 太かった

やおいかん 娑婆の荒波い きゃー飲まれ
やおいかん 惚れた女房 惚けじやあた
やおいかん 娘三人 嫁がする
八百屋さん 大型店に 客取られ
八百屋さん 客の好みは 新鮮さ
八百屋さん コンビニ相手 やおいかん
八百屋さん スーパーなどに 負けられん
八百屋さん 見切る潮時 売り尽くし
やがて分かる 子を産み親の有り難さ
やがて分かる 法に照らして 沙汰がある
やかましか 言われたくなか 若造に
やかましか エレキバンドの 稽古げな
薬膳料理 まちった増しな 菜なかか
役立たん 食うばかりの 加勢じゃった
役立たん 番犬のくせ 尻尾振る
役に立つ 人道支援 お礼なし
役目終え 漬け物重石 なった白
役目から 見逃す訳には いかんたい
野菜ぎれにや 虫の喰わんごて 葉掛け
野菜つくり 吾が口よりか 子に孫に
野菜畑 肥料はみんな 草に効き
矢印 誘われて行く 遍路道
安上がり 運転手付き 路線バス
安上がり 山菜採りと 海漁り

安上がり お下がり着せて いっちよこう
安かった 買ったばってか 仕舞い込み
安かった タンスの肥やし また増えた
安過ぎる マシな仕事は 無かつかい
休もうか 切りの良ければ タバコしゅう
休もうか そろそろ電池切れしそう
痩せ我慢 遠慮ひだるし 伊達寒し
やせ我慢 し過ぎだったか リバウンド
痩せ薬 飲うで効くなら 安いもん
やぜらしか ウチ被さった 雲よ退け
やぜらしか 外野席から 野次りよる
やぜらしか 爺ちゃんつ子に 筆らるる
やぜらしか 垂れた前髪 切らんかい
やぜらしか 吾がはさておき 他人のアラ
薬局に 卸すしこある 飲み残し
やったネ 座布団が舞う 大波乱
やったネ 小兵が上位 ねじ伏せた
やととこせ 子がそれぞれに 食うていく
やととこせ 大学までは 出したとに
やとと卒業 大学院で 遊ばれん
やっぱ近所 洗濯物も 取り込うで
やっぱ近所 初物ちゅうて お裾分け
やっぱこれ 自産自消で 味噌を搗く
屋根の上 太陽光で エコライフ
屋根の上 電気つくって 加勢さす

破れ口 人の口は 塞ふさがれん
 山歩き 猪どもに 出会した
 山歩き ここは猪鹿 テリトリー
 山歩き 森林浴で リフレッシュ
 山歩き 塗り替えられた 勢力図
 山歩き 酒の肴に 山の幸
 山歩き 我がもの顔の 獣たち
 山仕事 自家発電で 暖あつまる
 山育ち 生きる力が 半端無い
 山育ち 潮騒の音 眠られん ネット句会8月
 山育ち 松茸採りなら 任せとけ
 病やみ上がり 口濯ゆすぐだけ 飲いうでみる
 病たみおし 大事なつれに 付添ちいとつと
 止むを得ん 赤字覚悟で 任せたつ
 止めきらん 一本ちゆうて 吸い出した
 やめたやめた 競馬競輪 酒おんな
 やめたやめた 手間の割には 儲からん
 やめときなはり その口紅は 赤過ぎぞ
 やめときなはり 力仕事は 向いとらん
 やめときなはり まあだ若つかて 思うとる
 やめときなはり また税金の 無駄遣い
 止めところ あと一杯が 欲しかばつ
 やめなさい 原発回帰 まだ懲りん
 やめなさい コンパで酒の 一気のみ
 やめなさい 優勝祝う ビール掛け

やめられん 釣れば釣るる 嬢が釣る
 ややししか 旗振りばかり 多う過ぎた
 ややししか 曲がり損ねた ばっかりに
 ややししか 読めん名前ば 付けたもん
 ややししか たったこぎやしこ 貰うとに
 やりたい放題 俺が角界 背負うとる
 やりたい放題 数の力に 物言わせ
 やりたい放題 資源開発 軍事力
 やりなおい 出来る間は まだいいよ
 やりなおい もう私には 時間切れ
 やりにくさ いちやもんつくる ばあつかり
 やりにくさ 招待客に 待たされた
 やりにくさ 大國間に 挟まれて
 やり難につか どんこんならん 好き嫌い
 やり放ばし 休肝日なんの あろうかい
 やり放ばし とても銭どま 貯めきらん
 やり放ばし 飲んで良かとは 医者言わん
 遣やる気無し ギターの弦は 切れたまま
 やるしやなか 雨は降る降る 糲もみほ干場しほ
 やろうやろう 口より先に 手が動く
 やろうやろう 山が動いた コミュニティ
 夕支度 女子会だから チンしてね
 夕支度 お惣菜屋で 済ませおる 熊日
 夕涼み 蚊が俺の血で 酔っぱろた 11/12
 夕空に 特攻とつこう偲しのぶ 赤トンボ

Uターン 定年族が 故郷へ
良う出来た 籠はメジロにや 棲まわせん
良う出来た 飲み比べする ヘゴの露
良う撮れた これは遺影に 取っところ
良う穫れた 地の神様に 上げ申う
良う持てた これから先が 正念場
良う飲うだ 早よ寝てしゅう 早起きば
雪が舞う 犬が喜ぶだけでよか
雪が舞う 寒さ忘れて 出ていかす
雪が舞う ちらちらぐらい 丁度よか
雪が舞う 南の島に おもてなし
雪が舞う もうてげてげてで よかばって
雪達磨 転ぶたんびに デブになる
諭吉さん 直き果行かす 羽付けて
揺さぶって 爛瓶滴 滑めらす
揺さぶって 内臓脂肪 気にもせん
揺さぶって 早よ起こさんば 遅刻する
譲られて シルバーらしき 顔になる
譲り受け 似て欲しくない 遺伝子も
譲り受け 金にならない 山五町
ゆたーっと 湯船に浸かり 猪口片手
豊かです いつまでこれが 続くやら
豊かです がむしやら気張り 今がある
豊かです 日本支えた 知恵と汗
豊かです 曲がったキュウリ ポイしよる

豊かです まとめ買いして 腐らする
豊かです 夜なべも今じや 基準法
揺たぶって 汁は零べえて 仕舞うとる
湯湯婆 用が済んだりや 蹴り出され
ゆつくりよか 寝てる間に 神戸港 熊日
ゆつくりよか ひなびた宿の 湯治客
指きりかまきり ちゃんと小指が 覚えとる
指きりかまきり 孫の小指が ああ怖い
夢現 覚めないでくれ 良かところ
夢がある 宇宙開発 国産化
夢がある 五輪でメダル メトル嫁
夢がある 月にも土地を 買うところ
夢がある 暖簾にしがみついとれん
夢がある 百迄なつと 生きてみる
夢がある ロケットだつて 使いよう
夢の中 ちようど良かところ 揺り起こす
夢みたい 氷川きよしと 握手した
湯餅喰い 喉え引っかけ うう騒動
揺り起こし ああせからしか またイビキ
許しません 言うてる君は いいんかい
許しません 傘の下から 吼えるだけ
ゆるつとして 按摩機かけて 眠りおる
ゆるつとして 我が家の風呂が いっちよか
酔い醒まし 初湯になつと 行たちくう
酔い醒め 水は甘露の 味がする

ヨイショツ 今日のエンジン 起動させ
酔いつぶれ 美人の酌が やっぱよか
よう言うた 義理は借りもん 返すもん
用意周到 ぐらつと来ても 逃げ出せる
用意周到 食事も風呂も 寝泊まりも
用意周到 とつくに床は とつとつと
用意周到 吾が棺桶も 作らした
よく聞け 口は閉じても 目は開け
ようしたもん お転婆娘 陰もなか
ようしたもん 親の真似して 我慢出さず
ようしたもん 誰も教えん お経読む
ようしたもん 離婚たんびに 肥膨れ
ようし見ておれ あの悔しさを バネにする
ようし見ておれ 大逆転の お家芸
様態して 足踏み先も 無か如る
用心深さ 傘はいつでも 杖代わり
用心深さ 監視カメラに 見張らせる
良う出来た 籠はメジロにや 棲まわせん
用はない 嬢オンリーに 宗旨替え
用はない 気にせんでええ 安全日
良か足湯 水虫菌の 養殖池
良か塩梅 酒ん菜まで 下げて来た
良か塩梅 降りもせんなら 照りもせん
良かいちり 気遣わんとが いっちよか
良かいちり 元気浚刺 夫婦ばり

良か潤い 野菜作りにや もってこい
良か男 話し下手じゃば 気前良か
良か女御 氣立ての良さに 惚れ込もうだ
良か女御 見とれて嬢に 抓まるる
良か家内 長年経てば おっ家内
良か気色 蚊にもほろ酔い 分けてやり
良か気色 両隣から お酌され
良か幸い 親の居るはざ 同居して
良か幸い 美人の横が 空いとった
良か者良か 稼ぎ足らんか 天下り
良か正月 家族揃うて 初詣
よか体格 食うとも食うが よう気張る
よか体格 知恵は総身に 回りかね
よか体格 力仕事は もってこい
よか体格 見事合格 新弟子に
よかつたなあ 寒くなる前 移られて
よかつたなあ 親に似らんで 器量よし
よかつたなあ バスが遅れて 乗られたつ
よかつたよかつた 命あつての 物種ぞ
よかつたよかつた 瓦礫の下を 這うて出た
よかつたよかつた 怪我しただけで助かつた
よかつたよかつた 鯉のぼり立つ 過疎の村
よかニユース 五輪が済んで ネタ不足
よかニユース 四十娘が 嫁らした
良か日和 ドライブしゅうか 何処なつと

良か日和ひより 窓から布団 ベロ出して
良か日和ひより 窓にずらりと 干す布団
良か日和ひより 胸の空気も 入れ替ゆう
良かもんか 生活保護で 弾きよる
潮騒 31

よか夢 録画でくれば 良かばって

よかよかと よかを聞き分け 納得し
良か嫁御よめこ 今はどがんちゃ よか嫁御よめこ

良かりいろ 偶たまの休みに 割り込くうで
良かりいろ 離脱ドミノに ならんどか

よかろうか 烏合集散 大儀なし ネット句会 11月 四
良かろうば おりげ泊まりぎゃ はちけえな

良かろかい 年金貰て 役立たじ
良かろもん 最後はいつも ラーメン屋

良かろもん たまにや二次会 つきあえな
良き友よ 君が居るから 俺がある

よく言うよ 核持かくもちつとつて 核持かくもちつな
よく言うよ 他人ひとの失敗 吾が手柄

よくご覧 これが造花ちゃ 思われん
よくご覧 排除する身が 排除され

よくご覧 暴力沙汰が あがんなる
よく寝てる 抜くに抜けない 腕枕

欲づいて どしこ長生き する気かな
欲の無さ 食うていくしこ あれば良か

欲の無さ みんなに分けて 仕舞わした
欲の無さ 優しさだけが 取り柄なの

欲の無さ 吾が食い分も 子に孫に
欲の無さ 吾が分け前も 他人ひとにやり ネット句会 3月
欲張よつて 心は二つ 身は一つ (分身)

欲張よらん 財産よりも 銭がよか
よく見給え 俺のシューズは あばおろし

よく見給え 書き換えられた 公文書
よくやった アメリカ人の 褒め殺し

よくやった H難度の 宙返り
よくやった 心配しとつた 志願校

余計なこつ 何を買おうが 買うまいが
余計なこつ 人には人の 腹積り

良よござすか 目籠担めごいにやどんの 鬻い売り
善よし悪あし 臭においで解る 香の物

止よしましう 後悔するぞ 白髪抜き
止よしましう 無駄な抵抗 白髪染め

寄せ鍋 グチグチグチと 愚痴煮詰め
止せばよいのに 違法カジノで 五輪ふい

止せばよいのに 吾がじゃ若つかて思うとる
様相ようそう悪わるしか じゅっかり入いつて びしよびしよに

他所よそ行いきに ううつたつまでが 暇要ひまらす
他所よそん飯い 角かどん取とれて 丸まるうなつた

他所よそん飯い ややっぱ食くたがた ああつたばい
涎よだれ練ねり 牡丹餅ぼたんもちいお経いきやう 上げよらす

酔よち食くろて 泊よまるホテルば きゃあ忘れ
寄よつつかん 専門用語 鼻はなにかけ

寄ってたかつて これも似てるぞ エンブレム

寄ってたかつて 東京五輪 ケチ付ける

寄ってたかつて 出る杭狙い 扱き下ろし

寄ってたかつて 船頭ばかりが 多過ぎる

酔っぱらい 刺した蚊まで 酔っぱらい

世は様々 テロや戦が 聖戦か

世は様々 防衛してよ 金は出す

嫁貰て よっぱど嬉しかつじやるだ

嫁るなら 増しな男ば 選ばんか

読めん 俺にだけだと 言うたもね

読めん なしてか白髪 染め出あた

読めん 他人の前じゃ よそよそし

予約せにや 施設の空きも 後わずか

与野党で 互いのアラの 探り合い

余裕だねえ 相手を立てて 手綱取る

余裕だねえ 特価品どま 買わっさん

余裕だねえ まだ年金にや 手はっけん

余裕だねえ 練習量で 負けとらん

よよんこて 三本足で 墓参り

よよんこて スマホ捲りが 様になり

寄り掛かり 駄目よダメダメ 独り立ち

寄りつけない 政治の話 ばあっかり

寄りつけない 門構えから 違うとる

選りにもよって 名前が同じ 妻と母

選りにもよって 元彼の子に 嫁がせて

寄る年波 いつ迎えに来てもいいぞ

寄る年波 勝てぬと知って 寄らば寄れ

寄る年波 離して見んと 字も読めん

夜の友 目覚めすっきり マイ枕

夜の町 足の向くまま 赤のれん

夜の町 街頭補導して廻り

夜の街 ちよつとだけよが ついハシゴ

夜の町 何とはなしに 足の向く

よろこび損 当たり番号 組違い

よろこび損 ボーナズ代わり 社内品

弱ったな 妻のクシヤミにや 敵わない

弱つとる 胸損のうて 反吐の出る

寄んなつせ 丁度刺身の 小切りたて

夜のふて 雨ん降つとん 崩えんどか

夜のふて ナマズがまあた ばてぐるう

楽しゆうだ 一番楽は 棺のなか (棺桶)

楽ではない 年金暮らし わび住まい

楽ではない 七五で綴る 肥後狂句

ラジビーを ひとりで背負う 五郎丸

ラジオ体操 今日一日の スターター

ラジオ体操 仕事始めの 肩慣らし

埒明かん 維新の真意 嘘ホント

埒明かん 近くて遠い 国情

埒明かん メール見たかと 電話する

埒明かん 領土問題 ラチやテロ

ラチ家族 付度するも 手にや負えん
ラッキョウは 食いたかばって 臭うして
ラブラブで 相合い傘で つんのうで
ラブラブで ストロ―二本 頬寄せて
ラブラブで 一つの皿を 半分個
ランドセル お下がりののは 僕一人
ランドセル 玄関先に 投遣って
立派なこつ 言うより先に して見せろ
立派なこつ やるべき事を やつただけ
理不尽を ぐつと飲み込む 強かさ
利益なか ありもころもと 頼み過ぎ
領収書きつてと言われ 印紙じやる
料理教室 女子が厨房 乗っ取られ
料理教室 六十にして イロハから
料理好き 味見だけっちゃ 腹一杯
料理好き レシピは総よ 脳みそに
料理より 器を褒めて 帰らした
冷静さ あの笑顔とは 何じやろう
礼服の お世話になる日 葬儀だけ
レリーゴー そんなまでよか 気にすんな (Let it go)
蠟燭は 我が身を減らし 人照らす
老若男女 貴賤貧富の ない社会
老若男女 皆平等の コミュニティ
陸でなし おんぶに抱っこ あまゆんな
六根の 清浄なれば 存えて

ワイドショー 足引つ張って なじり合い
ワイドショー 他人の不幸は 蜜の味
わいわいがやがや 時間の足らん 同期会
わいわいがやがや 生徒は話 聞いとらん
吾が家つちや 置き場んなか 粗大ゴミ
若返り 衣装化粧が 派手でしよう
若返り 白髪もシワも 隠しとる
若返り 輪に跳び込んで 踊り出し
若くはなか うったち晴れのせん家内
若くはなか 歳と言われりや 腹が立つ
若くはなか 三次会には つきあえん
吾が手柄 言いたくなかばつ 恩知らず
吾が手柄 嘘八百を 並べよる
吾が手柄 失敗全て 他人のせい
吾が都合 時にや数えで 使い分け
解った 聞かんこてして いっちよこう
わかつた 握る男の 手の堅さ
わかつた 話の早ア 苦勞人
わかつたらん 俺には俺の 主義がある
わかつたらん ことば通り きゃあ受けて
わかつたらん 娑婆は一人じや 渡られん
わかつたらん 誰も続投 望みやせん
わかつたらん とやかく言うな 俺の趣味
わかつたらん 吾がじゃ上手で 思うとる
我がもの顔 猪親子 お通りだ

我がもの顔 玄関先に 巢をつくり
わが家には 三人が母 経験者
わからない 核では民は 救えまい
わからない いざというときや 金がある
わかりやすい 十パーセント 消費税
わかりやすい 杖にハンカチ 結うどく
わかる人 決して面に 出さっさん
わかる人 ちゃんと面には 書いてある
わかる人 人の痛みと 優しさと
わかる人 目が合うだけで 頷かす
わかる人 わからぬ人と 分かち合う
別れしな 後ろ姿に あかんべえ
別れしな 後ろ姿に お辞儀さす
別れしな 彼に唇 奪われた
別れしな 電話番号 メモ渡す
別れしな 深々あたまた 下げおらす
若若しゆ エステティックに はまっとる (Aesthetic)
分け入って 手刀切つて 陣取つて
わけは無か 顎をしゃくれば 部下がする
わけは無か ビールの栓は 歯で開くる
わけは無か 指一本で キー操作
災いも 三年経てば 福の種
煩わしい たったぎやしこば 貰うとに
煩わしい 僅かな補助の 申請書
忘るんな 義理は借り物 返す物 (義理百遍)

忘るんな 戦後の暮らし 惨めさを
忘るんな 不自由か時も あった筈
忘れとる 義理も情けも 人情も
忘れとる 先祖供養も 墓花も
忘れない 困ったときの 助け合い
忘れ物 取りに戻つて また忘れ
忘れ物 予防に書いた メモはどこ
忘れられ 肩書き取れて 里暮らし
忘れられ 事故の教訓 活かされず
忘れんで よう来てくれた つばくらめ
わたしが居る 家にあるもの 欲しがらな
わたしが居る 出来ることなら 何なりと
わたしの自由 あなたの居ない 間だけ
わたしの自由 何時起きようが 食べまいが
私はわたし 心に決めた 道を行く
私はわたし そう簡単に ぶれません
私はわたし らしく生きます 飾らずに
若っからす お世辞じやろばつ 嬉しかね
若っからす 黒からすばつて 綺麗からす
わっじやろう 内緒にしても バレバレぞ
詫びしいよ 家内の居ない 独り飯
侘びしかね 卵飯じやい 冷や奴
笑い声 いつも絶えない 孫の居て
笑い声 いつも仲間の 真ん中に
笑い声 今なら小遣い 強請らるる

笑い声 俺も仲間に 加ててくれ

笑い声 聞こえる方へ 駈け寄らす

笑い声 健康家族 医者要らず

笑いこけ 座布団二枚 がたあつた

笑いこけ もう腹の皮 保ちきらん

笑いすぎ 横っ腹の 引きつった

笑えない 吾が振りなおし 教訓に

笑えない 若かりし日の 身に覚え 熊日
11/9

笑わせる 俺がやらなきや 誰かやる

笑わせる 駐車場にも 前向きに

笑わば笑え 末は博士か 大臣か

笑わば笑え ボロは着てても 持ちちやおる

笑わば笑え 吾がじゃ上手て 思うとる

笑われる 受けを狙つて 馬鹿にされ

笑われる でもあれから四十年

笑われる 馬鹿にする奴 笑うちやる

笑われる 他人を誘つて 墓穴二つ

笑われる 見返してやる 今に見ろ

悪かった 謝れば済む ことじやなか

悪かった 反省します 猿ばしか

悪かねエ 俺の遺伝子 受け継がせ ネット句会2月

悪仕掛け ドンク跳び出す チョーク箱

悪そうだねえ 失敗総て 他人の所為

悪そうだねえ 他人の苦労 吾が手柄

悪そして 覚えん無かこつ あるもんか

我先に あばつきらんごつ 大食らい

我先に 幸運掴む 福男(西宮神社)

我先に トイレにダッシュ その早さ

我先に 特売場に なだれ込み

我先に トレイ山盛り バイキング

我先に 流行病を 仕入れとる

我や先人や先 生きて生きて あなかしこ

我や先人や先 どうせ一度は 逝く処

腕白が 横道っこする 学校路

己だイヤばい 先に逝くとも 残つとも

己だ知らん 関わり合いに なるごつにや

美味かつた 誉めたところが そればかり

美味か物 後で喰おうと 腐らする

美味か物 喰わする者にや 下心

美味そうに 盃片手 舌鼓

